

亀作遺跡 第1次

市道0112・4166・4168号線（亀作中角線）
道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

茨城県常陸太田市教育委員会

かめ ざく い せき だい じ
亀 作 遺 跡 第 1 次

市道 0112・4166・4168 号線（亀作中角線）
道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 2 0

茨城県常陸太田市教育委員会

序

常陸太田市は、平成16年12月1日の1市1町2村の合併により、県内第1位の面積を誇る市となりました。市域には300か所を超える埋蔵文化財包蔵地がみられ、県内第2位の規模を誇る前方後円墳の梵天山古墳をはじめ、全長100mを越える星神社古墳と高山塚古墳、久慈郡寺の推定地とされる長者屋敷遺跡など、貴重な遺跡が数多くあります。

当市では、これらの貴重な遺跡の保護・保存を図るとともに、その性格を明らかにすることによって活用を図ることができるようにすることを目的として、市内遺跡事業に取り組み、調査を進めてまいりました。

本報告書は、それらの調査の成果を報告することを目的として刊行するもので、平成30度実施された亀作遺跡の発掘調査で得ることができた成果について盛り込みました。

当市では、総合計画のひとつの柱として「地域資源を磨き活用するまちづくり（エコミュージアムによるまちづくり）」を進めております。地域に埋もれた資源を発見し、その資源について学び、活用することが地域の活性化に結びついていくものと考えております。本報告書が、そのような地域資源の発見・活用の一助になるとともに、この成果が少しでも多くの方々のお役に立つことが出来れば幸いです。

最後になりましたが、調査から報告書の刊行までご指導・ご協力を賜りました皆様に、厚く御礼申し上げます。

令和2年3月

常陸太田市教育委員会
教育長 石川 八千代

例 言

1. 本書は、茨城県常陸太田市に所在する「亀作遺跡」埋蔵文化財調査報告書である。
2. 発掘調査は、市道0112・4166・4168号線（亀作中角線）道路改良工事に伴うもので、常陸太田市より委託を受けた（株）東京航業研究所が、常陸太田市教育委員会文化課の指導の下に実施した。
3. 今次調査の現地調査及び整理・報告書作成期間は以下の通りである。

現 地 調 査 平成30年11月26日～平成31年2月19日

整理・報告書作成 令和元年5月25日～令和2年3月25日

4. 調査体制

調査主体者	常陸太田市教育委員会	教育長	石川 八千代
調査指導	常陸太田市教育委員会文化課	主任	山口 憲一
事務局	常陸太田市教育委員会文化課	課長	岩間 勇二
	同 文化振興係	係長	助川 喜作
	同 文化振興係	主事	川崎 祐子
	同 文化振興係	主事	田所 由妃
	同 文化振興係	主事	萩谷 友里恵

調査・整理担当 諸星 良一 現地調査、整理作業・報告書作成

整理担当 宅間 清公 整理作業・報告書作成

5. 発掘調査及び整理・報告書作成に際しては、下記の間係機関・各位よりご指導・ご協力を賜った。ご芳名を記して謝意を表する次第である。

茨城県教育委員会、（有）立原建設、阿久津 久、宮田 毅、宮田 裕紀枝、小菅 将夫、石川 太郎
（敬称略、順不同）

6. 本書の作成は常陸太田市教育委員会文化課の指導の下、（株）東京航業研究所が行った。執筆は、第1章第1節を山口憲一、第1章 第2節、第2章～第5章を諸星が執筆した。

7. 発掘調査および整理作業参加者は次の通りである。

発掘調査

井坂 柱一、柏 勝、久野 周也、高久 照美、檜山 博、矢崎 福司、川崎 剛史

整理作業

稲毛 あゆみ、大川 亜弓、酒井 成男、高橋 昇、田口 陽祐、竹内 あい、東條 高士、長江 陽子、
野村 果央、三原 浩之、村井 建三、柳澤 美樹（敬称略、順不同）

凡 例

1. 本遺跡の名称・調査区の略号はKSを使用する。
2. 遺構は、堅穴建物跡=SI、溝跡=SD、井戸=SE、土坑=SK、性格不明遺構= SX、ピット=Pで示す。
3. 土層注記は、土層の粒径、由来、性質によって、ローム、火山灰、シルト質土、砂質土に区分し、新版標準土色帳を色相、明度、彩度を基準にして土層を定義し、粘性、しまり、および含有物とその直径、相対的含有量について記録した。必要に応じて、遺構内の土壌を採集し、火山灰分析を実施し、遺跡の自然史と火山灰編年額のデータを収集し、遺構、遺跡の相対的年代や性格の理解に努めた。
4. 遺構図のスケールは、平面図が1/60、竈、焼土範囲は1/30である。遺物図のスケールは、1/3を原則とするが、遺物のサイズや性格に応じて変更し、その都度スケールを付した。
挿図の表現については、以下のスクリーントーンを使用した。

遺構

焼土  竈構築材  竈構築材（泥岩）  竈範囲  硬化面 

遺物

内面黒色処理  器面赤彩  断面が黒ベタ表現の土器は須志器である。

5. 遺構図の北方向は座標北を示し、土層断面図、断面図の水準の標高は、海拔標高である。
6. 遺物観察表の法量計算値で、()内の数値は推定値、〈 〉内の数値は残存値を示した。
7. 調査記録、出土遺物は常陸太田市教育委員会で保管している。

目 次

序
例言
凡例
目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過と概要	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
(1) 常陸太田市の位置	3
(2) 亀作遺跡の位置と地形・地質	3
第2節 歴史的環境	5
(1) 亀作遺跡について	5
(2) 遺跡分布について	5
(3) 後期旧石器時代の遺跡	7
(4) 縄文時代の遺跡	7
(5) 弥生時代の遺跡	7
(6) 古墳時代の遺跡	7
(7) 奈良・平安時代の遺跡	8
(8) 中世の遺跡	8
(9) 近世の遺跡	8
第3章 調査方法と基本層序	13
第1節 調査方法	13
第2節 基本層序 (第〇図)	14
第4章 遺構と遺物	15
第1節 遺構と遺物の概要	15
第2節 縄文時代	15
(1) 遺構の概要	15
(2) 土坑	15
第3節 古墳時代	16
(1) 遺構の概要	16
(2) 竪穴建物跡	16
(3) 土坑	62
(4) 性格不明遺構	64
(5) ビット	65
第4節 奈良～平安時代	68

(1) 遺構の概要	68
(2) 竪穴建物跡	68
(3) 溝跡	87
(4) 土坑	90
(5) 性格不明遺構	90
第5節 時期不明の遺構	92
(1) 竪穴建物跡	92
(2) 井戸	95
(3) 土坑	96
(4) 性格不明遺構	98
(5) ビット	99
第6節 調査区内出土遺物	100
(1) 縄文時代	100
(2) 弥生時代	100
(3) 古代	100
第5章 総括	104
第1節 地形・立地	104
第2節 遺構の概要	104
(1) 縄文時代の遺構	104
(2) 弥生時代の遺構	104
(3) 古墳時代の遺構	104
(4) 奈良・平安時代の遺構	105
第3節 遺物の概要	105
(1) 縄文時代の土器	105
(2) 弥生時代の土器	105
(3) 古墳時代の土器	105
(4) 奈良・平安時代の土器	106
(5) 鉄製品	106
(6) 土製品・石器・石製品	106
Summary	107
引用・参考文献	109
写真図版	
調査抄録	

挿図目次

第1図	亀作遺跡位置図	第36図	18号竪穴建物跡出土遺物(1)
第2図	亀作遺跡とその周辺の地形区分図・ 地質概念図	第37図	18号竪穴建物跡出土遺物(2)
第3図	亀作遺跡調査区付近図	第38図	19・20号竪穴建物跡
第4図	遺跡分布図	第39図	22・24号竪穴建物跡(1)
第5図	全体図	第40図	22・24号竪穴建物跡(2)
第6図	区割図1	第41図	22号竪穴建物跡出土遺物
第7図	区割図2	第42図	24号竪穴建物跡出土遺物
第8図	区割図3	第43図	25・26・27号竪穴建物跡(1)
第9図	区割図4	第44図	25・26・27号竪穴建物跡(2)
第10図	区割図5	第45図	25号竪穴建物跡出土遺物
第11図	基本層序	第46図	26号竪穴建物跡出土遺物
第12図	8号土坑	第47図	27号竪穴建物跡出土遺物
第13図	8号土坑出土遺物	第48図	28・29・30号竪穴建物跡
第14図	1号竪穴建物跡	第49図	28号竪穴建物跡出土遺物
第15図	1号竪穴建物跡出土遺物	第50図	29号竪穴建物跡出土遺物
第16図	3号竪穴建物跡	第51図	31・32号竪穴建物跡
第17図	3号竪穴建物跡出土遺物	第52図	31号竪穴建物跡出土遺物
第18図	4号竪穴建物跡	第53図	32号竪穴建物跡出土遺物
第19図	6号竪穴建物跡	第54図	36号竪穴建物跡
第20図	7号竪穴建物跡	第55図	36号竪穴建物跡出土遺物
第21図	7号竪穴建物跡出土遺物	第56図	38・39・40・41号竪穴建物跡(1)
第22図	9号竪穴建物跡(1)	第57図	38・39・40・41号竪穴建物跡(2)
第23図	9号竪穴建物跡(2)	第58図	39号竪穴建物跡カメラ
第24図	9号竪穴建物跡出土遺物(1)	第59図	38号竪穴建物跡出土遺物
第25図	9号竪穴建物跡出土遺物(2)	第60図	39号竪穴建物跡出土遺物
第26図	10号竪穴建物跡	第61図	40号竪穴建物跡出土遺物
第27図	10号竪穴建物跡出土遺物	第62図	41号竪穴建物跡出土遺物
第28図	11・12号竪穴建物跡	第63図	42号竪穴建物跡
第29図	13号竪穴建物跡	第64図	44・45・46号竪穴建物跡(1)
第30図	14号竪穴建物跡	第65図	44・45・46号竪穴建物跡(2)
第31図	15号竪穴建物跡	第66図	44号竪穴建物跡出土遺物
第32図	15号竪穴建物跡出土遺物	第67図	45号竪穴建物跡出土遺物
第33図	15号竪穴建物跡カメラ	第68図	48号竪穴建物跡
第34図	17号竪穴建物跡	第69図	48号竪穴建物跡出土遺物
第35図	18号竪穴建物跡	第70図	49号竪穴建物跡
		第71図	50号竪穴建物跡(1)

- 第72図 50号竪穴建物跡(2)
- 第73図 50号竪穴建物跡カマド
- 第74図 50号竪穴建物跡出土遺物
- 第75図 51号竪穴建物跡
- 第76図 51号竪穴建物跡出土遺物(1)
- 第77図 51号竪穴建物跡出土遺物(2)
- 第78図 52号竪穴建物跡
- 第79図 67号竪穴建物跡
- 第80図 68号竪穴建物跡
- 第81図 3号土坑
- 第82図 3号土坑出土遺物
- 第83図 2・3号性格不明遺構
- 第84図 4・5・6号ピット
- 第85図 5号ピット出土遺物
- 第86図 9・10・11・12号ピット
- 第87図 2号竪穴建物跡
- 第88図 2号竪穴建物跡カマド
- 第89図 2号竪穴建物跡出土遺物
- 第90図 5号竪穴建物跡
- 第91図 16号竪穴建物跡
- 第92図 16号竪穴建物跡カマド
- 第93図 16号竪穴建物跡出土遺物
- 第94図 21号竪穴建物跡
- 第95図 21号竪穴建物跡
- 第96図 23号竪穴建物跡
- 第97図 23号竪穴建物跡出土遺物
- 第98図 33・34号竪穴建物跡
- 第99図 33号竪穴建物跡カマド
- 第100図 33号竪穴建物跡出土遺物
- 第101図 34号竪穴建物跡出土遺物
- 第102図 35号竪穴建物跡
- 第103図 35号竪穴建物跡出土遺物
- 第104図 37号竪穴建物跡
- 第105図 37号竪穴建物跡出土遺物
- 第106図 53・54・57・58号竪穴建物跡
- 第107図 54号竪穴建物跡出土遺物
- 第108図 55・56号竪穴建物跡
- 第109図 66号竪穴建物跡
- 第110図 66号竪穴建物跡出土遺物
- 第111図 69号竪穴建物跡
- 第112図 69号竪穴建物跡出土遺物
- 第113図 1号溝跡
- 第114図 1号溝跡出土遺物
- 第115図 2号溝跡
- 第116図 2号溝跡出土遺物
- 第117図 12号土坑
- 第118図 1号性格不明遺構
- 第119図 4号性格不明遺構
- 第120図 4号性格不明遺構出土遺物
- 第121図 時期不明遺構 8号竪穴建物跡
- 第122図 時期不明遺構 43号竪穴建物跡
- 第123図 時期不明遺構 47号竪穴建物跡
- 第124図 時期不明遺構 60・61号竪穴建物跡
- 第125図 時期不明遺構 62号竪穴建物跡
- 第126図 時期不明遺構 63・64・65号竪穴建物跡
- 第127図 時期不明遺構 63号竪穴建物跡カマド
- 第128図 時期不明遺構 1号井戸
- 第129図 時期不明遺構 土坑(1)
- 第130図 時期不明遺構 土坑(2)
- 第131図 時期不明遺構 5・6号性格不明遺構
- 第132図 時期不明遺構 7・8・13号ピット
- 第133図 調査区内出土遺物(1)
- 第134図 調査区内出土遺物(2)

表目次

第1表	遺跡一覧表	第26表	48号竪穴建物跡出土遺物観察表
第2表	8号土坑出土遺物観察表	第27表	50号竪穴建物跡出土遺物観察表
第3表	1号竪穴建物跡出土遺物観察表	第28表	51号竪穴建物跡出土遺物観察表
第4表	3号竪穴建物跡出土遺物観察表	第29表	3号土坑出土遺物観察表
第5表	7号竪穴建物跡出土遺物観察表	第30表	5号ピット出土遺物観察表
第6表	9号竪穴建物跡出土遺物観察表	第31表	2号竪穴建物跡出土遺物観察表
第7表	10号竪穴建物跡出土遺物観察表	第32表	16号竪穴建物跡出土遺物観察表
第8表	15号竪穴建物跡出土遺物観察表	第33表	21号竪穴建物跡出土遺物観察表
第9表	18号竪穴建物跡出土遺物観察表	第34表	23号竪穴建物跡出土遺物観察表
第10表	22号竪穴建物跡出土遺物観察表	第35表	33号竪穴建物跡出土遺物観察表
第11表	24号竪穴建物跡出土遺物観察表	第36表	34号竪穴建物跡出土遺物観察表
第12表	25号竪穴建物跡出土遺物観察表	第37表	35号竪穴建物跡出土遺物観察表
第13表	26号竪穴建物跡出土遺物観察表	第38表	37号竪穴建物跡出土遺物観察表
第14表	27号竪穴建物跡出土遺物観察表	第39表	54号竪穴建物跡出土遺物観察表
第15表	28号竪穴建物跡出土遺物観察表	第40表	66号竪穴建物跡出土遺物観察表
第16表	29号竪穴建物跡出土遺物観察表	第41表	69号竪穴建物跡出土遺物観察表
第17表	31号竪穴建物跡出土遺物観察表	第42表	1号溝跡出土遺物観察表
第18表	32号竪穴建物跡出土遺物観察表	第43表	2号溝跡出土遺物観察表
第19表	36号竪穴建物跡出土遺物観察表	第44表	4号性格不明遺構出土遺物観察表
第20表	38号竪穴建物跡出土遺物観察表	第45表	時期不明遺構計測表 竪穴建物跡
第21表	39号竪穴建物跡出土遺物観察表	第46表	時期不明遺構計測表 井戸
第22表	40号竪穴建物跡出土遺物観察表	第47表	時期不明遺構計測表 土坑
第23表	41号竪穴建物跡出土遺物観察表	第48表	時期不明遺構 性格不明遺構
第24表	44号竪穴建物跡出土遺物観察表	第49表	時期不明遺構 ピット
第25表	45号竪穴建物跡出土遺物観察表	第50表	調査区内出土遺物観察表

写真図版目次

- 図版 1 亀作遺跡景観（北から） 調査区完掘状況（上空から）
- 図版 2 SI01 検出状況（北東から） SI09 検出状況（南西から） SI18・SX02・03 遺構検出状況（西から） SI19 遺物検出状況（南西から） SI07 検出状況（北北東から） SI15 検出状況南（西から） SI18-1・2 号戸・遺物検出状況（東から） SI24・SK01 遺物出土状況（北から）
- 図版 3 SI24 遺物検出状況（東から） SI32 検出状況（南西から） SI39 竈検出状況（西から） SI44 検出状況（南西から） SI29 遺物検出状況（南西から） SI38 遺物検出状況（南から） SI40 遺物検出状況（東から） SI48 遺物検出状況（北から）
- 図版 4 SI48 検出状況（西から） SI50 遺構検出状況（西から） SI50 管玉検出状況（西から） SK03 遺物検出状況（東から） SI48 紡錘車検出状況（北から） SI50 竈検出状況（北から） SI51 遺物検出状況（西から） PIT05 遺物検出状況（東から）
- 図版 5 SI02 検出状況（東北東から） SI33 遺物検出状況（西から） SD01 遺物検出状況（南から） SK-12 遺構検出状況（北から） SI02 竈検出状況（南西から） SI65 検出状況（西から） SD01 西側検出状況（北から） SE01 完掘状況（東から）
- 図版 6 遺物図版（1）
- 図版 7 遺物図版（2）
- 図版 8 遺物図版（3）
- 図版 9 遺物図版（4）
- 図版 10 遺物図版（5）
- 図版 11 遺物図版（6）
- 図版 12 遺物図版（7）
- 図版 13 遺物図版（8）

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

常陸太田市は、市道0112・4166・4168号線（亀作中角線）道路改良工事を進めている。市道0112・4166・4168号線は、亀作町内を南北にはしる道路で狭隘な区間も散見されるなど、通行上支障をきたす状況にあったことから、利便性の向上を目的とした道路拡幅工事が計画された。

平成29年度、常陸太田市建設部建設課より「埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて」による照会が提出された。これを受けて、常陸太田市教育委員会では、茨城県遺跡地図の確認ならびに現地踏査を行い、工事予定箇所内に亀作遺跡（茨城県遺跡地図番号212054）が存在することを確認。包蔵地範囲内で道路拡幅工事が計画されたため、工事予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地が存在し、試掘調査を実施し遺構及び遺物包含層の状況を確認する必要がある、文化財保護法第94条第1項に基づく通知をする必要がある旨を回答した。

試掘調査は、道路工事が予定されている亀作町1174番ほかにおいて平成29年11月10・11日及び平成30年1月11・12日に実施。道路の計画法線に沿った形でトレンチ6本を設定し、重機使用により地山面まで掘下げ、遺構の有無を確認した。試掘によって複数の住居跡が確認され、縄文土器や土師器が確認された。

この結果を踏まえ工事主体者である市土木部建設課と協議を行い、遺構に対する保護措置が困難であることから、発掘調査を実施し、記録保存を行なうことで合意した。

これを受けて常陸太田市教育委員会では、亀作町1174番ほかの工事対象区域の内、600m以内を調査対象として発掘調査による記録保存を実施することとし、平成30年10月31日、㈱東京航業研究所と業務委託契約を締結。発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査の経過と概要

亀作遺跡第1次調査は、平成30年11月26日より3月29日まで約4ヶ月間実施した。調査に先立ち調査担当者は、常陸太田市教育委員会と発掘調査に関する事前打ち合わせを実施し、調査に着手した。

11月26日、現地において北北東の県道側から重機による掘削を開始した。廃土は、調査区脇にブルーシートを敷いて置いた。翌11月27日には、機材搬入および、基準点、ベンチマークの設定を行った。11月28日は、市道側に安全対策の施補を行った。

11月30日で重機による表土の掘削が終了し、南南西の調査区から検出面と壁の清掃、遺構確認を行った。12月3日より、遺構の確認と掘削を開始したが、調査区の端から竪穴住居跡が面的に確認され始め、集落遺跡であることが判明したため、切り合い関係を確認しながら遺構の調査を展開した。12月末までに竪穴住居跡25軒を確認し調査を行った。

平成31年1月は4日から現地作業を開始した。冷え込みが厳しかったが晴天に恵まれ調査は順調に進行した。竪穴住居跡は、古墳時代後期から奈良時代の時期のものが多い傾向にあることがこの頃判明した。1月末までに、竪穴住居跡は57軒登録された。

2月も引き続き竪穴住居跡の調査を実施したが、遺構の切り合い関係があるために、先後関係の

新しい遺構から調査を実施した。2月19日に残りの竪穴住居跡の断面図を作成し、測量作業、景観写真の撮影、終了確認の検査を実施し、機材の片づけを行った。翌日より重機による調査区廃土の埋め戻しを開始し、機材の片づけ、書類、図面の整理を行った。埋め戻し作業は23日に終了した。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

(1) 常陸太田市の位置 (第1図)

茨城県常陸太田市は、茨城県の北東部で県都水戸市から北に約20kmに位置している。市制は、昭和29年7月に周辺の1町6村が合併して施行され、翌年には久慈郡世谷村、河内村が、さらに平成16年12には久慈郡金砂郷町、水府村、里美村が編入し、現在に至っている。

常陸太田市の総面積は、371.99km²で茨城県内の自治体で最大の面積を有する南北40km、東西15kmの範囲で、現在の市役所の位置は北緯36度32分18秒、東経140度31分52秒である。市域は北部が福島県東白川郡矢祭町、北東は高萩市、東から南東は日立市、南部は那珂市、北西は久慈郡大子町、西から南西は常陸大宮市に接している。

現在の常陸太田市の人口は、48,573人(令和2年2月1日現在)である。

(2) 亀作遺跡の位置と地形・地質 (第1・2図)

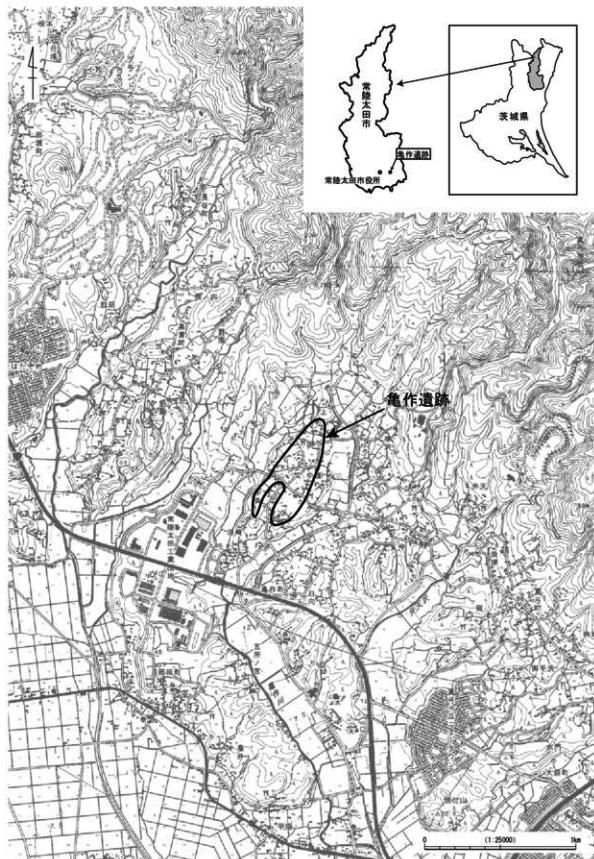
亀作遺跡が立地する地形は、標高約40mの上位砂礫台地の南西方向に舌状に延びる台地の平坦面で現況は畑地であり、台地の西側を亀作川、東側を亀作川の支流の大沢川に挟まれ各河川により浸食され樹枝状に開析されている。各河川の上流には、湧水やため池があり、その下流に谷津田が形成されている。遺跡を取り囲む景観は、北西から北、さらに東方向に日立変成岩で構成される多賀山地が標高を南方向に減しながら連なっている。亀作遺跡の北西から西、南方向の台地は宅地や畑地、林地として利用され、台地の北東から東、南方向は宅地と畑地があり、大沢川沿いの崖線が続き、南方向は宅地と畑地があり台地が標高を減しながら、谷底平野に接続している。谷底平野には、沖積層が厚く堆積しており、現在でも田地として利用されている。

多賀山地は、阿武隈高地南部に属し、2回の地下のマグマの乾入で形成された花崗岩との接触と高圧で形成された変成岩からなり、「阿武隈隆起準平原」と称される数段の浸食小起伏面の地形で構成される(早川2006)。この山地は、北側は太平洋に面し、山地の起伏は小さく、東に緩く傾斜する高原状の地形をなし、山稜の標高は約300m～約600mを測る。変成岩は日立変成岩と称されており、阿武隈高地南端の主部を占めて分布する、緑色の角閃岩、緑色片岩、石英が多く灰白色の珪長質岩、黒色の粘板岩とこれらに挟まれた石灰岩などで構成されている(常陸太田市史編さん委員会1984)。石灰岩は一部結晶質石灰岩となり、真弓の大理石と称されている岩石であるが(常陸太田市史編さん委員会1984)、遺跡の北東には採掘場が位置している。

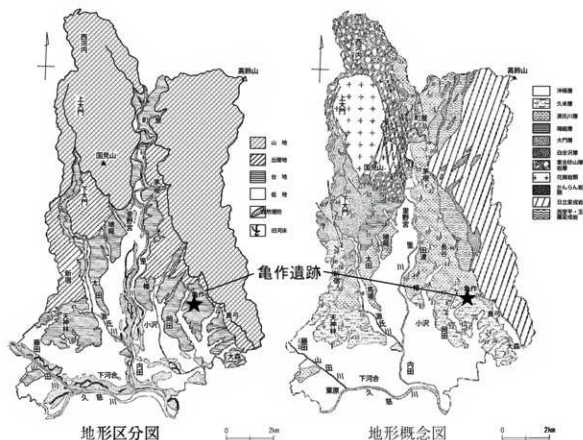
台地の基盤を構成する地層は、第三紀中新世の海成層、塊状泥岩で構成される源氏川層である。

源氏川層は、塊状泥岩を主体とし、化石の産出は少ない。源氏川層は、上層と下層の珪藻や放散虫化石の年代に大きな隔りがあることから、層中に未確認の不整合面が存在する可能性があるという(常陸太田市史編さん委員会1984)。

遺構が検出された地層は、表層下のローム層までであり、検出面の深度は約1.5m以内の深さである。ローム層は、後期更新世に堆積した風成層および土壌化した火山灰層で構成されているが、指標となる広域、地域火山灰については未分析であり、不明な点が多い。



第1図 亀作遺跡位置図



第2図 亀作遺跡とその周辺の地形区分図・地質概念図(常陸太田市史編さん委員会1984に加筆)

第2節 歴史的環境

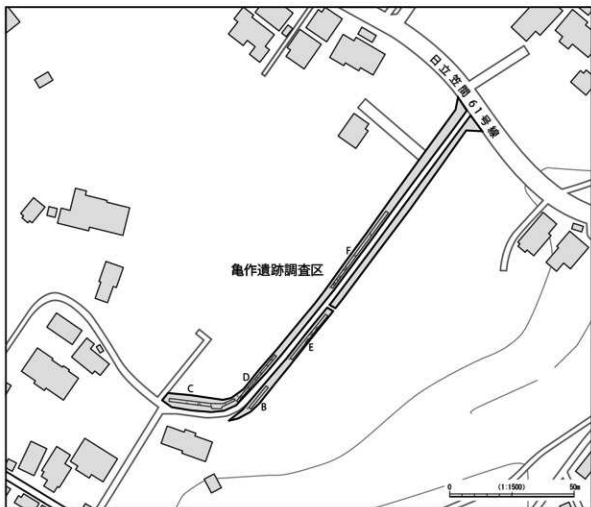
(1) 亀作遺跡について(第3図)

亀作遺跡(茨城県遺跡地図番号08212054)は、茨城県の埋蔵文化財包蔵地の台帳において、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代までの広い面積の集落跡の遺跡として登録されている。周辺の遺跡を含めた多くの遺跡は現在まで調査されず保存されている。

(2) 遺跡分布について(第4図・第1表)

亀作遺跡周辺の遺跡分布を概観すると、縄文時代から近世までの遺跡が、河川単位ごとの台地上に所在している。時代ごとの遺跡分布の傾向をみると、縄文時代から弥生時代の遺跡数が漸増し、弥生時代から古墳時代の遺跡数は爆発的に増加しており、亀作遺跡の周辺地域に移住と土地開発が実行されたものと推定される。奈良・平安時代になると遺跡数は減少し、中世にはさらに減少し、近世は僅かに1遺跡のみとなる。しかし、亀作遺跡の周辺の発掘調査の事例は過少なため、今後の調査により遺跡数が増加する可能性が高い。

遺跡分布の大きなまとまりは、各河川沿いの台地上で確認され、里川左岸(№20～33)、茂宮川流域(上流:№35～39、下流№10～19・45・56)、亀作川兩岸(上流から№40～44・1・4)、



第3図 亀作遺跡調査区付近図

大沢川左岸 (No.2・3)、弁天沢左岸 (No.39～42)、亀作川支流の幡江用水路とその支流 (No.43～55) に分布している。

(3) 後期旧石器時代の遺跡

後期旧石器時代の遺跡は、前官遺跡でメノウ製の石刃が発見されたと報じられているが詳細は不明であり(常陸太田市教育委員会 2011)、市内において明確な遺跡は確認されていないが、風成層と火山灰が堆積する段丘面が数多く存在することから、当該期の遺跡が存在する可能性が高いものと思われる。

(4) 縄文時代の遺跡

縄文時代の遺跡は、台地上や低位面、湧水点の周辺に分布している。里川左岸では幡山遺跡 (No.18)、幡台遺跡 (No.21) など台地上の大集落と森東貝塚 (No.25) や篠崎貝塚 (No.26) などの低位面の貝塚などが分布する。茂宮川流域は、前田遺跡 (No.11)、大集落と推定される高貫遺跡 (No.10)、下流の台地では岡田台遺跡 (No.29)、岡田台貝塚 (No.31)、高井貝塚 (No.35)、小目貝塚 (No.36) など低位面や谷頭の貝塚が分布する。高貫川流域では馬舟遺跡 (No.6) が分布する。亀作川流域には亀作遺跡 (No.1)、亀作遺跡より東側の弁天沢流域には、真弓宿遺跡 (No.41)、塚原遺跡 (No.40) が分布する。

(5) 弥生時代の遺跡

弥生時代の遺跡は、台地上に点在して分布している。里川左岸では、幡山遺跡、幡台遺跡 (No.11) が分布している。茂宮川流域には高貫遺跡、岡田台遺跡、岡田台貝塚などが分布している。亀作川流域には、亀作遺跡、田崎南遺跡 (No.4)、日向遺跡 (No.3) などが分布している。弁天沢流域には、真弓宿遺跡、塚原遺跡が分布する。

(6) 古墳時代の遺跡

古墳時代の遺跡は、ほぼ全ての台地上に台地上に点在して分布しており、亀作遺跡周辺に多くの移住者が河川、水運、低地などの土地利用した経済活動を開始したものと推定される。里川流域には、幡山北横穴墓群 (No.14)、幡山西横穴墓群 (No.8)、生産址の幡山須臾器窯跡 (No.15)、幡山遺跡、幡山古墳群 (No.17)、幡山東横穴墓群 (No.19)、幡台下遺跡 (No.20)、幡台古墳群 (No.17)、幡台遺跡、幡バツケ横穴墓群 (No.23) などが密集して分布している。

茂宮川流域には、高貫遺跡、高貫古墳群 (No.9)、高貫西横穴墓群 (No.8)、よい塚古墳 (No.27)、入浄塚古墳 (No.28)、岡田台遺跡、岡田台貝塚、高井塚古墳 (No.32)、高貫川流域に高貫東横穴墓群 (No.7) などが分布している。亀作川流域には、馬舟古墳 (No.5)、亀作遺跡、田崎南遺跡、西真弓遺跡 (No.26)、日向遺跡・日向古墳群、箕ノ輪古墳 (No.38) などが分布している。弁天沢流域には、塚原遺跡、真弓宿遺跡、仲城遺跡 (No.43)、風張遺跡 (No.44)、釜田横穴墓群 (No.45)、水門横穴墓群 (No.46) などが分布している。幡江用水路支流では、西山根遺跡 (No.48)、山根遺跡 (No.49)、山根横穴墓群 (No.51)、丹奈横穴墓群 (No.52)、丹奈遺跡 (No.53) などが分布している。

(7) 奈良・平安時代の遺跡

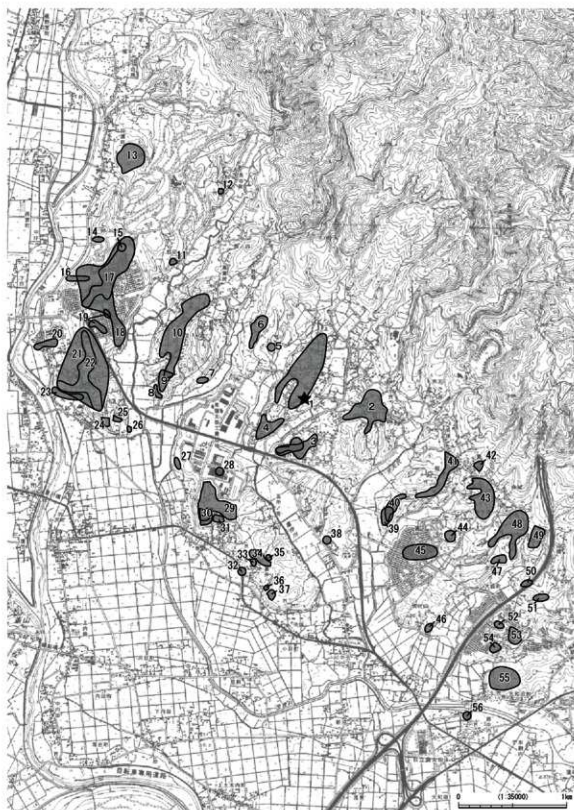
奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代より遺跡数が減少し、台地単位で密集するように分布している。里川流域では幡台下遺跡、幡台遺跡、茂宮川流域で高貫遺跡、岡田台遺跡、岡田台貝塚、高井遺跡などが分布している。亀作川流域には、亀作遺跡、田崎南遺跡、西真弓遺跡、日向遺跡などが分布している。弁天沢流域には、塚原遺跡、真弓西遺跡、仲城遺跡、風張遺跡などが分布している。幡江用水路支流には、西山根遺跡、山根遺跡、丹奈遺跡などが分布している。

(8) 中世の遺跡

中世の遺跡は、奈良・平安時代より遺跡数がさらに遺跡数が減少し、館跡、城跡、寺院など地域的な有力者の居住地、居城などが分布し、政治経済的領域が確立されつつあったものと推定される。10世紀ごろには古代の郡体制が崩壊して新たな政治経済的領域が形成されており、里川を挟んだ東側は佐都東郡と呼ばれ、亀作遺跡の所在する世矢郷を含んでいた（常陸太田市史編さん委員会1984）。里川流域には、田渡城跡（No.13）、幡館跡（No.24）などが分布している。茂宮川流域には、長谷寺院跡（No.12）、岡田館跡（No.30）、高井館跡（No.33）、小目館跡（No.37）などが分布している。幡江用水路支流には、瀬谷館跡（No.42）、薄井館跡（No.47）、岡部館跡（No.50）など館跡が台地の高所に密集している。下流では丹奈館跡（No.54）、大橋城跡（No.55）などが分布している。

(9) 近世の遺跡

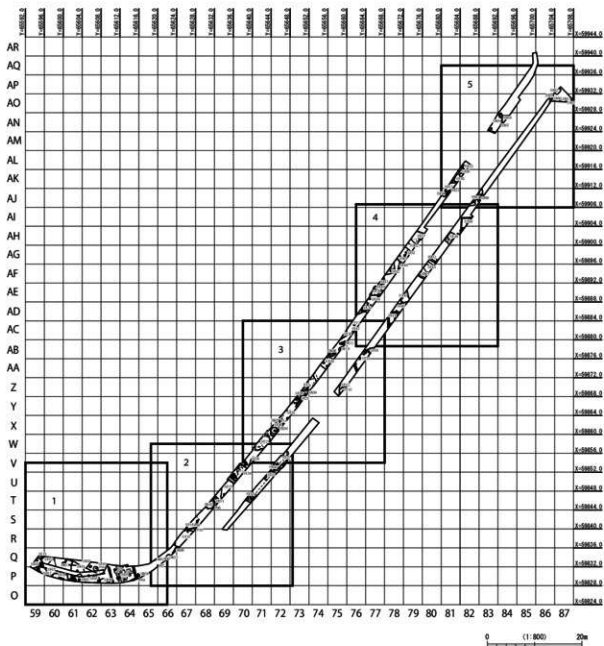
近世の遺跡は、過少であり茂宮川下流域の田中内一里塚遺跡（No.56）のみである。



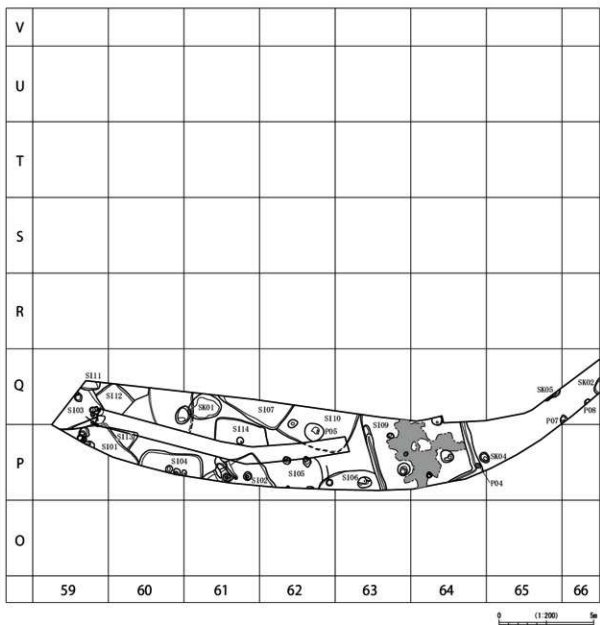
第4圖 遺跡分布圖

第1表 遺跡一覧表

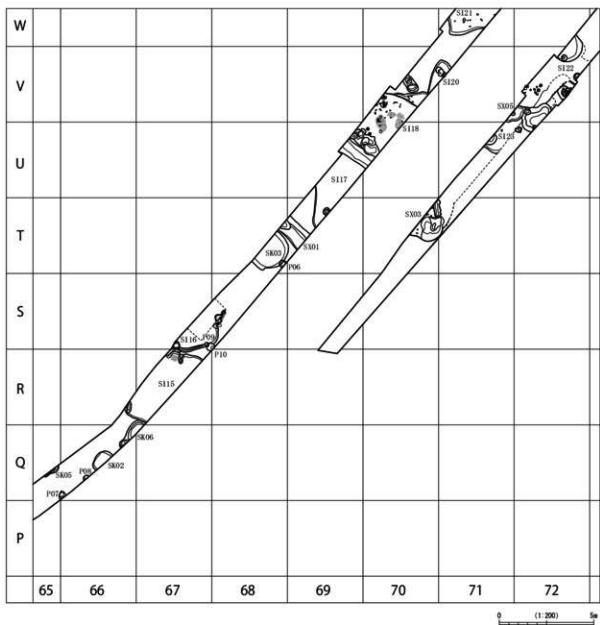
No	遺跡名	立地	時代・時期					
			縄文	弥生	古墳	奈良 平安	中世	近世
1	亀作遺跡	亀作川右岸・上位砂礫台地	○	○	○	○		
2	西真弓遺跡	亀作川左岸・上位砂礫台地				○	○	
3	日向遺跡・ 日向古墳群	亀作川左岸・上位砂礫台地		○	○	○		
4	田崎南遺跡	亀作川右岸・下位砂礫浸食段丘群		○	○	○		
5	馬舟古墳	高貫川左岸・崖および斜面			○			
6	馬舟遺跡	高貫川左岸・上位砂礫台地						
7	高貫東横穴墓群	高貫川右岸・崖および斜面			○			
8	高貫西横穴墓群	茂宮川左岸・崖および斜面			○			
9	高貫古墳群	茂宮川左岸・上位砂礫台地・崖および斜面			○			
10	高貫遺跡	茂宮川左岸・上位砂礫台地	○	○	○	○		
11	前田遺跡	茂宮川右岸・崖および斜面	○					
12	長谷寺院跡	茂宮川右岸・丘陵						○
13	田渡城跡	里川左岸・丘陵						○
14	幡山北横穴墓群	里川左岸・中位砂礫台地・崖および斜面			○			
15	幡山須重惣塚跡	里川左岸・丘陵			○			
16	幡山西横穴墓群	里川左岸・下位砂礫浸食段丘群・自然堤防・崖および斜面			○			
17	幡山古墳群	里川左岸・上位砂礫台地			○			
18	幡山遺跡	里川左岸・上位砂礫台地・崖および斜面・丘陵	○	○	○			
19	幡山東横穴墓群	里川左岸・上位砂礫台地・崖および斜面			○			
20	幡台下遺跡	里川左岸・下位砂礫浸食段丘群・自然堤防				○		
21	幡台遺跡	里川左岸・上位砂礫台地・崖および斜面	○	○	○	○		
22	幡台古墳群	里川左岸・上位砂礫台地・崖および斜面			○			
23	幡バック横穴墓群	里川左岸・上位砂礫台地			○			
24	幡館跡	里川左岸・上位砂礫台地						○
25	森東貝塚	里川左岸・谷底平野						
26	森崎貝塚	里川左岸・中位砂礫段丘群						
27	よい塚古墳群	茂宮川左岸・崖および斜面			○			
28	入浄塚古墳	亀作川右岸・崖および斜面						
29	岡田台遺跡	茂宮川左岸・上位砂礫台地			○	○		
30	岡田館跡	茂宮川左岸・上位砂礫台地						○
31	岡田台貝塚	茂宮川左岸・崖および斜面			○	○		
32	高井塚古墳	茂宮川左岸・崖および斜面			○			
33	高井館跡	茂宮川左岸・上位砂礫台地						○
34	高井遺跡	亀作川右岸・上位砂礫台地			○	○		
35	高井貝塚	亀作川右岸・崖および斜面						
36	小目貝塚	茂宮川左岸・崖および斜面						
37	小目館跡	茂宮川左岸・上位砂礫台地・崖および斜面						○
38	箕ノ輪古墳	亀作川左岸・崖および斜面			○			
39	塚原古墳群	弁天沢左岸・上位砂礫台地・崖および斜面			○			
40	塚原遺跡	弁天沢左岸・上位砂礫台地・崖および斜面	○	○	○	○		
41	真弓宿遺跡	弁天沢左岸・上位砂礫台地	○	○	○	○		
42	瀬谷館跡	弁天沢支流谷頭・丘陵						○
43	仲城遺跡	弁天沢支流左岸・上位砂礫台地～丘陵			○	○		
44	風張遺跡	弁天沢支流左岸・上位砂礫台地・崖および斜面			○	○		
45	釜田横穴墓群	弁天沢支流左岸・崖および斜面						
46	水門横穴墓群	幡江用水路左岸・崖および斜面			○			
47	薄井館跡	幡江用水路支流谷頭右岸・上位砂礫台地						○
48	西山根遺跡	幡江用水路支流谷頭・上位砂礫台地			○	○		
49	山根遺跡	幡江用水路支流左岸・上位砂礫台地			○	○		
50	岡部館跡	幡江用水路支流左岸・崖および斜面						○
51	山根横穴墓群	幡江用水路支流右岸・崖および斜面			○			
52	丹奈横穴墓群	幡江用水路支流左岸・崖および斜面			○			
53	丹奈遺跡	幡江用水路支流左岸・上位砂礫台地・崖および斜面			○	○		
54	丹奈館跡	幡江用水路支流左岸・上位砂礫台地・崖および斜面						○
55	大橋城跡	幡江用水路左岸・崖および斜面						○
56	田中内一里塚	茂宮川右岸・後背湿地						○



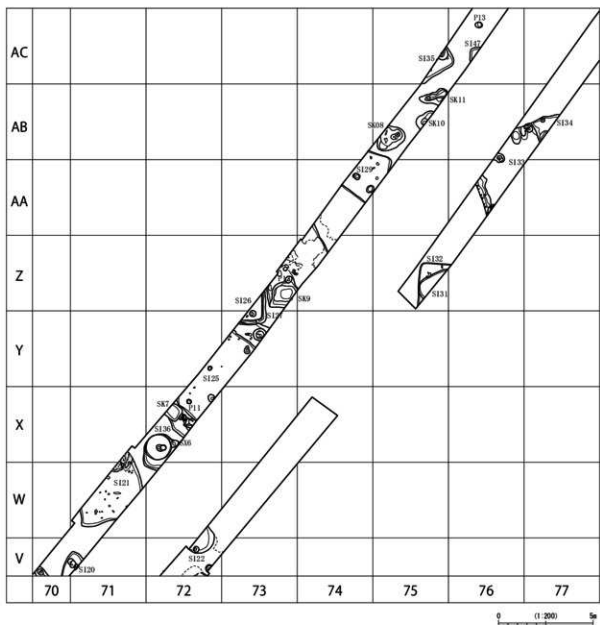
第5图 全体图



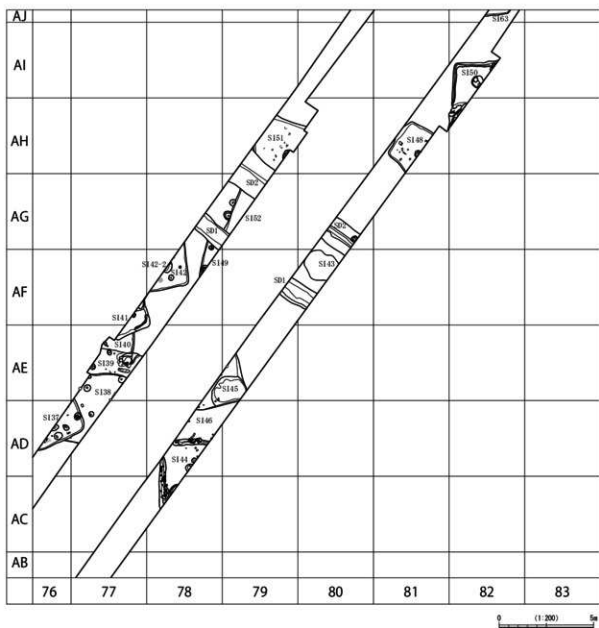
第6图 区割图1



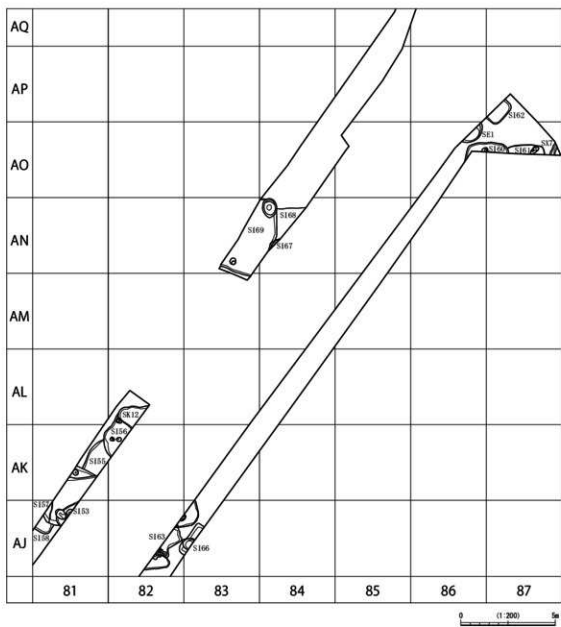
第7图 区割图2



第8图 区划图3



第9图 区割图4



第 10 图 区割图 5

第3章 調査方法と基本層序

第1節 調査方法

第1次発掘調査は、調査範囲内の表土を試掘調査で遺構が確認された深度まで掘削し除去した。重機による表土の掘削後、人力による検出面と壁面の精査を実施し、土層・遺構確認作業を実施した。

グリッドは4m間隔で設定し、調査区の南西角を基準としたX軸をアルファベットのAから、Y軸を自然数の1から順番に振り分けて区画し、X軸とY軸のアルファベットと自然数の組み合わせをグリッド名とした。グリッドの基準線は、公共座標（世界測地系）を利用して設定した。

土層確認作業を実施したのち、自然層の基本層序を観察し、記録、図化した。遺構は、遺構確認面での遺構確認作業の終了後に、遺構内の土蔵の堆積状況の形状、特徴を確認するために、ほぼ直角に交わるように十字、あるいは一文字の土層観察用のベルトを設定して覆土の掘削を実施した。また、遺構の規模が大きい場合、あるいは遺構の重複が著しい場合、土層観察と遺構の先後関係確認のためのベルトを複数設定して掘削し、土層の堆積状況と遺構の形状の特徴を観察した。カクランが著しく遺構の輪郭が不定形の場合は、遺構の堆積状況や特徴が良好に把握でき位置に任意にベルトを設定し精査を行った。遺構の精査に関しては、土層の断面図と土層注記を作成、写真を撮影し、遺物は覆土の上層から検出されたもの、カクラン層出土のもの、小形のものは一括遺物として収納したが、大形のもの、遺構の床面と床面付近、竈内から出土した遺物は、検出状況を撮影し遺物を測量してから収納した。

測量図のスケールは、断面は遺構では1/20、竈では1/10、平面図、微細図は、遺物平面分布図では1/20、炬跡や竈の微細図や遺物平面分布図では1/10とした。

遺構の測量は、アナログ図化の図面以外に、写真測量を併用して、断面図、遺物微細図、遺構平面図を上記のスケールで作成した。作成した図面は、番号順に登録し図面台帳に記入した。

デジタル測量が間に合わない場合は、簡易的な遺り方測量を実施するために、任意の測量基準点を二点以上検出面上に設定し、遺構、遺物の測量図の作成に使用した。これらの測量で用いた測量基準点は、後に設定位置を測量して、デジタル図面に合成した。

写真記録は、一眼レフ・デジタル・カメラ（Canon EOS6D:2,020万画素）を使用した。写真撮影は、平成29年度の文化庁の指針に則り、データはRAWとJPEGのデータ保存の設定で、写真台帳に必要事項を記録し、写真タイトル撮影後、デジタル・グレー・カードを撮影してから、2カット被写体を撮影した。また、必要に応じて、1,600万画素のコンパクト・デジタル・カメラを用いて記録データを撮影、保存した。遺跡の全景、景観写真は弊社所蔵のドローンを使用して撮影した。

出土遺物は、遺跡略称（KS）、グリッド名、出土位置、遺構名、測量取り上げ番号、日付などをラベルに記入し、日付の古い順に収納番号を付した後、遺物収納台帳に記入し保管した。出土遺物は、現地調査と並行して洗浄、注記、保存処理などを行い、発掘調査終了後に、遺物収納台帳と共に、遺物収納用のテン箱に収めて納品した。

第2節 基本層序 (第11図)

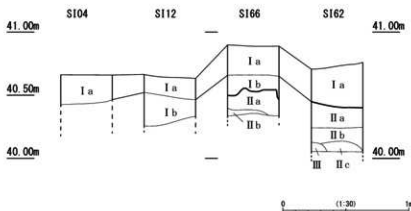
発掘調査区は、南西から北東方向に細長く続き、畑地の耕作で遺跡が攪乱されているため、連続的な土層の堆積状況を示していない。また、北東隅では埋没谷が検出され、淡色黒ボク土、黒ボク土の厚い堆積層が検出された。こうした制約があったが、遺構の土層断面の観察において記録した土層から基本層序を作成した。

I a層(表土・耕作土)は黒褐色土とI b層は黒褐色土、あるいは暗褐色である。ローム塊、ローム粒子を含む。12号竪穴建物跡の土層ではI c層(黒褐色土)が確認され火山灰と思われる白色粒子($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$)を部分的に微量に含む。

II a～c層は黒ボク土で調査区の北東側の埋没谷に近い場所で検出されている土層である。II a層は黒褐色土でローム塊を部分的に、ローム粒子を全体に含む。II b層は暗褐色土でローム塊とローム粒子を全体に多く含む。II c層は黒褐色土でローム塊を部分的に、ローム粒子を全体に多く含む。

III層は黒ボク土とローム層との漸移層で、ローム塊とローム粒子を全体に多量に含む。多くの遺構はII c～III層の検出面において確認している。

これらの基本層序において、白色粒子を含む土層が観察されるが、この物質は地域火山灰の粒子の一部である可能性がある。今後、地域的な地誌、火山灰編年学、遺跡の相対的な年代決定のために、遺跡単位の火山灰分析が実施される必要がある。



基本層序

- | | | | |
|------|------|----------|---|
| I a | 黒褐色土 | 10192/2 | 粘性なし、しまり強い、ローム塊、ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を部分的に含む。 |
| I b | 黒褐色土 | 10192/2 | 粘性なし、しまり強い、ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に少量、ローム塊($\phi 10 \sim 20\text{mm}$)、焼土($\phi 1 \sim 10\text{mm}$)を部分的に微量に含む。 |
| I c | 黒褐色土 | 10192/3 | 粘性なし、しまり強い、ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に少量、白色粒子($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$)を部分的に微量に含む。 |
| II a | 黒褐色土 | 10192/2 | 粘性なし、しまり強い、ローム塊($\phi 10 \sim 50\text{mm}$)を部分的に少量、ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に含む。 |
| II b | 暗褐色土 | 10193/4 | 粘性なし、しまり強い、ローム塊、ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く含む。 |
| II c | 黒褐色土 | 10192/3 | 粘性なし、しまり強い、ローム塊を部分的に多量に、ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多く含む。 |
| III | 褐色土 | 7.5196/8 | 粘性なし、しまり強い、ローム塊、ローム粒子($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$)を全体に多量に含む。 |

第11図 基本層序

第4章 遺構と遺物

第1節 遺構と遺物の概要

第1次調査では、縄文時代から平安時代にわたる堅穴建物跡68軒、溝跡2条、土坑12基、性格不明遺構7基、ピット10基などを検出した。

出土遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器（斧形石器、砥石、敲石、礫器、台石）、土製品（紡錘車、支脚）、石製品（紡錘車、管玉、竈構築材）、鉄製品（鉄鏃、刀子、鉄滓）などが出土した。

第2節 縄文時代

(1) 遺構の概要

縄文時代の遺構は、土坑が1基検出されている。

(2) 土坑

8号土坑（第12・13図、第2表、図版6）

平面位置 AB-75グリッド

重複関係 なし

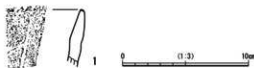
遺構形態 遺構の平面形は不定形で、床は部分的に凹凸があり、壁は南西では急角度で、南から北側は緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色土（黒ボク土）を主体とし、暗褐色土と褐色土を含む自然堆積である。

遺物 遺物は、口縁部に竹管の刻み、器面に沈線が施された縄文時代後期の土器（第13図1）が検出されている。

時期 出土遺物と覆土（黒ボク土）の特徴から縄文時代後期以前と推定される。



第12図 8号土坑



第13図 8号土坑出土遺物

第2表 8号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:(4.5) 底径:-	白色粒子・赤色粒子・ 石英・角閃石・微砂 粒	良好	5以下	灰褐色 (7.5YR5/2)	ヘラ状工具で沈線を描く。口唇部同一 の工具によるキザミ。

第3節 古墳時代

(1) 遺構の概要

古墳時代は、堅穴建物跡42軒、溝跡1条、土坑1基、性格不明遺構3基、ピット7基などが検出されている。遺構は、調査区の南西から北東の範囲まで、連続して分布しており、長期的に活発に土地利用が行われていたものと推定される。

(2) 堅穴建物跡

1号堅穴建物跡 (第14・15図、第3表、図版2・6)

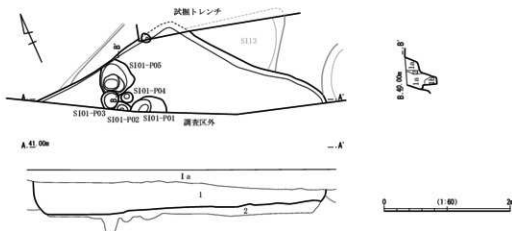
平面位置 P・Q-59・60グリッド

重複関係 3・4・12号堅穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、北東角から北西と南東の壁の一部と床が検出されて、平面サイズは長軸2.42m、短軸1.74m、遺構検出面からの深さは最大で0.5mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりのある貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が5基検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 覆土から須恵器埴瓶 (第15図1) が検出されている。

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



S101

1. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり、焼土 (φ1~5mm) を部分的に微量、炭化物 (φ3~5mm) を部分的に微量、ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に含む。
2. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり、ロームブロック (φ10~30mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。

S101-P05

- 1a. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりなし、ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりなし、ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。
2. 褐色土 10YR4/6 粘性なし、しまりなし、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量、白色粒子を部分的に少量含む。
3. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまり強い、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。

第14図 1号堅穴建物跡



第15図 1号竪穴建物跡出土遺物

第3表 1号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	酒器 提瓶	口径:- 高さ:<11.6 底径:-	白色粒子・石英	良好	5	灰色 (7.5Y5/1)	外面カキ目。内面成形時の指痕を残す。

3号竪穴建物跡 (第16・17図、第4表、図版6)

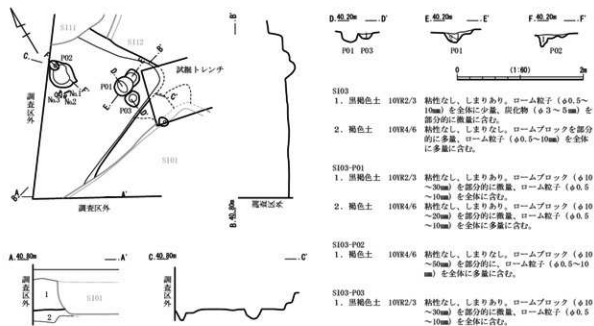
平面位置 P・Q-59 グリッド

重複関係 12・13号竪穴建物跡より新しく、1・11号竪穴建物跡より古い。

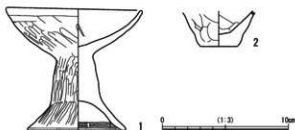
遺構形態 遺構は、南東角から東壁と南壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.81m、短軸1.79m、遺構検出面からの深さは最大で0.5mである。床はほぼ平坦で踏み締まりが弱く、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が3基検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器の高坏 (第17図1) 手づくね土器 (第17図2)、甕、砂岩製の砥石、磨石などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第16図 3号竪穴建物跡



第17図 3号竪穴建物跡出土遺物

第4表 3号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高杯	口径: 10.7 高さ: 9.6 底径: 7.7	赤色粒子・微砂粒	良好	95	明赤褐色 (5YR5/6)	外面ハケ調整後、坏部斜位、底部縦ミガキ。内面坏部ナデ、脚部ハケ調整。内外面赤彩。
2	土師器 ミニチュア	口径: - 高さ: (2.8) 底径: 1.5	石英	良好	70	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	内外面ナデ。

4号竪穴建物跡 (第18図)

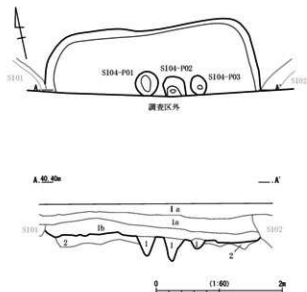
平面位置 P-60・61 グリッド

重複関係 1・2号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は、北壁、東壁と西壁の一部が検出され、平面サイズは長軸3.37m、短軸1.2m、遺構検出面からの深さは最大で0.42mである。床は踏み縮まりがあり部分的に凹凸があり、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が3基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



S104

1a. 暗褐色土 10YK3/4 粘性なし、しまりあり。炭化物ブロック (φ10~70mm) を部分的に少量、炭化物粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。

1b. 暗褐色土 10YK3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量、焼土 (φ1~10mm) を部分的に少量含む。

2. 褐色土 10YR4/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子を全体に多く含む。

S104-P01

1. 暗褐色土 10YK3/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~50mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。

S104-P02

1. 褐色土 10YR4/4 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。

S104-P03

1. 暗褐色土 10YK3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~20mm) を全体に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。

第18図 4号竪穴建物跡

6号竪穴建物跡 (第19図)

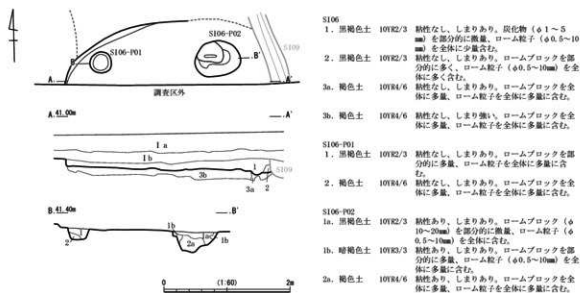
平面位置 P-62・63グリッド

重複関係 5号竪穴建物跡より新しく、9号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は、北壁、西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸3.285m、短軸1.015m、遺構検出面からの深さは最大で0.255mを測る。床はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が2基検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕が出土している。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。



第19図 6号竪穴建物跡

7号竪穴建物跡 (第20・21図、第5表、図版2・6)

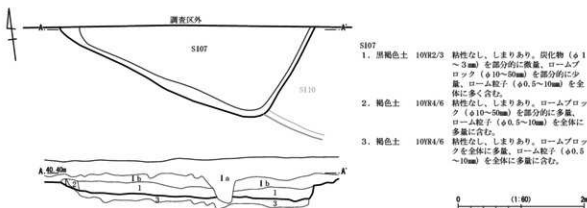
平面位置 P-61・Q-61・62グリッド

重複関係 10号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、南壁と東壁の一部が検出され、平面サイズは長軸3.49m、短軸1.56m、遺構検出面からの深さは最大で0.19mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は西側では緩やかに、東側では急角度で立ち上がる。柱穴は検出されていない。覆土は黒褐色土を主体とした褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕、埴(第21図1)、弥生時代後期の十王台式土器片(第21図2・3)、礫などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



第20図 7号竪穴建物跡



第21図 7号竪穴建物跡出土遺物

第5表 7号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 埴	口径:- 高さ:(2.7) 底径:-	石英・微砂粒	良好	25	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	外面口縁部縦ハケ、胴部横ナデ。内面ナデ。
2	赤生土器 甕	口径:- 高さ:(6.1) 底径:-	石英	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	軸線不明にRを付加。
3	赤生土器 甕	口径:- 高さ:(3.2) 底径:-	石英・雲母	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	附加染2種RL+R。

9号竪穴建物跡 (第22～25図、第6表、図版2・6)

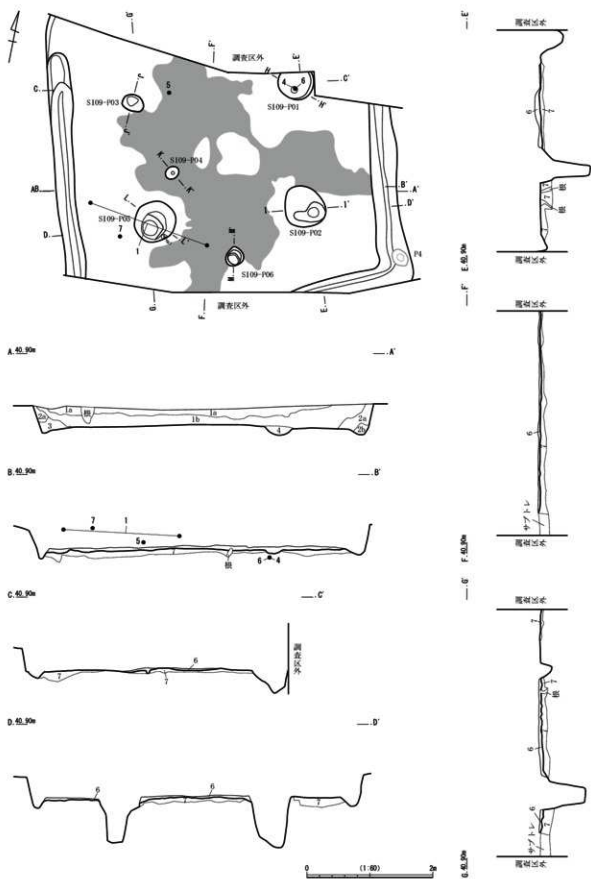
平面位置 P・Q-63・64グリッド

重複関係 6・7号竪穴建物跡より新しい。

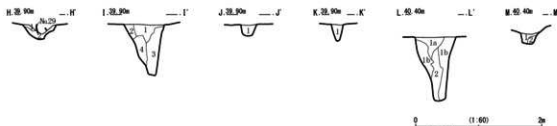
遺構形態 遺構は、西壁、東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸5.44m、短軸3.93m、遺構検出面からの深さは最大で0.38mである。床はほぼ平坦で硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が5基検出され、その内主柱穴が4基検出され、周溝は西壁と北壁、東壁の一部で検出されている。床面直上には硬化した褐色土が検出されたが、これは竪穴建物の壁もしくは屋根材の一部が崩落したものと推定される。覆土は暗褐色土を主体として黒褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕 (第24図4)、坏 (第24図1～3)、甌 (第25図6)、高坏 (第25図7)、碟、礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

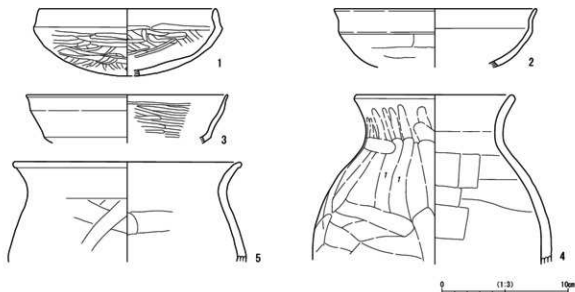


第 22 图 9 号竖穴建物迹 (1)

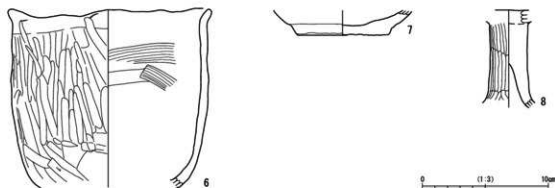


- S109
- 1a. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しりりあり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
- 1b. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しりりあり。炭化物(φ3~5mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~100mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
- 1c. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しりりあり。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、黄土(φ3~5mm)を部分的に微量、炭化物(φ1~5mm)を部分的に微量を含む。
- 2a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しりりあり。炭化物(φ3~5mm)、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、黄土(φ1~5mm)を部分的に微量を含む。
- 2b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しりりあり。ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
3. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しりりなし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
4. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しりりあり。ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
5. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しりりあり。炭化物(φ1~5mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~100mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
6. 褐色土 10YR4/4 粘性なし、しりりあり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
7. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しりり強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- S109-P01
1. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しりりあり。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
2. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しりりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- S109-P02
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しりりあり。ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
2. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しりりあり。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
3. 褐色土 10YR4/6 粘性なし、しりりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量を含む。
4. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しりりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量を含む。
- S109-P03
1. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しりりなし。ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- S109-P04
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しりりあり。ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、黄土(φ1~5mm)を部分的に微量を含む。
- S109-P05
- 1a. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しりりあり。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体を含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しりりあり。炭化物(φ3~5mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
2. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しりりあり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- S109-P06
1. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しりりあり。ロームブロック、ローム粒子(φ0.5~10mm)を含む。
2. 暗褐色土 10YR3/3 粘性あり、しりりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。

第23図 9号堅穴建物跡(2)



第24図 9号堅穴建物跡出土遺物(1)



第25図 9号堅穴建物跡出土遺物(2)

第6表 9号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 環	口径:(14.1) 高さ:(5.3) 底径:-	雲母	良好	60	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	底部外面ヘラケズリ後ランダムなミガキ。内面中央部ミガキ後、周辺部ミガキ。口縁部内外面強い横ナデ。
2	土師器 環	口径:(16.0) 高さ:(4.6) 底径:-	石英・雲母・白色針状物質・微砂粒	良好	15	にぶい黄色 (2.5Y6/4)	底部外面周辺部同一方向のケズリ、内面ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。
3	土師器 環	口径:(16.0) 高さ:(3.8) 底径:-	石英	良好	15	褐色(7.5YR7/6)	底部外面ケズリ。内面ミガキ。内面黒色処理。
4	土師器 甕	口径:12.4 高さ:(13.4) 底径:-	白色粒子・赤色粒子・石英・雲母・微砂粒	良好	40	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	胴部外面上半部縦ケズリ後、胴部最大径付近横ケズリ、内面横ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。その後部分の外面縦ケズリ。外面に黒斑が認められる。
5	土師器 甕	口径:(18.0) 高さ:(7.9) 底径:-	白色粒子・石英・微砂粒	良好	5以下	褐色(7.5YR6/6)	胴部内外面ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。
6	土師器 甕	口径:15.5 高さ:(14.1) 底径:-	石英・角閃石・微砂粒	良好	60	褐色(7.5YR6/6)	胴部外面縦ケズリ後、縦ミガキ。内面横ナデ。口縁部歪み部分的に波状になる。
7	土師器 甕	口径:- 高さ:(2.5) 底径:7.2	石英・雲母・微砂粒	良好	5以下	褐色(5YR6/6)	内外面ナデ。二次的な被熱が認められる。
8	土師器 高杯	口径:- 高さ:(8.0) 底径:-	石英・雲母・角閃石・微砂粒	良好	30	褐色(7.5YR6/6)	胴部外面縦ミガキ。環及び脚部外面赤彩。

10号堅穴建物跡(第26・27図、第7表、図版6)

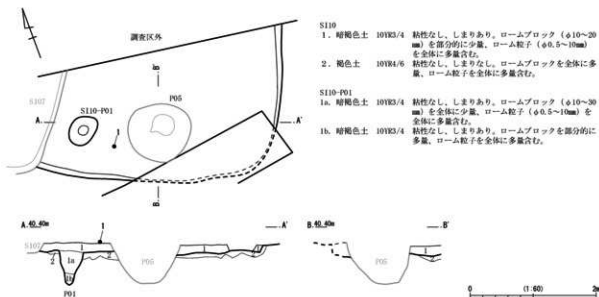
平面位置 P・Q-62・63グリッド

重複関係 7・9号堅穴建物跡、5号ピットより古い。

遺構形態 遺構は、南壁と東壁の一部が検出され、平面サイズは長軸4m、短軸1.995m、遺構検出面からの深さは最大で0.15mである。床は、締まりがない貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が1基検出されており、主柱穴の可能性が高い。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物はハケ調整の甕や高杯(第27図1)、碟、碟片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



- S110
1. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
 2. 褐色土 10YR4/6 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量含む。
- S110-P01
- 1a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
 - 1b. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子を全体に多量含む。

第26図 10号竪穴建物跡



第27図 10号竪穴建物跡出土遺物

第7表 10号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高杯	口径:(16.0) 高さ:(4.0) 底径:-	白色粒子・石英・白色針状物質・微砂粒	良好	30	褐色 (5YR5/6)	口縁部内外面細かな縦ミガキ。

11号竪穴建物跡 (第28図)

平面位置 Q-59 グリッド

重複関係 3・12号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、南東角の一部が検出され、平面サイズは長軸0.9m、短軸0.48m、遺構検出面からの深さは最大で0.31mを測る。床は締まりのある貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は暗褐色土を主体とし、褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代後期頃と推定される。

12号竪穴建物跡 (第28図)

平面位置 Q-59・60 グリッド

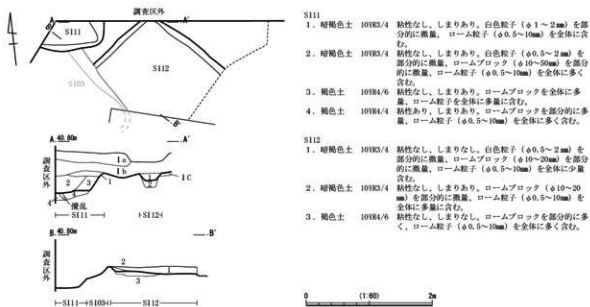
重複関係 3・8・11号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は、北東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.655m、短軸1.46m、遺構検出面からの深さは最大で0.11mを測る。床は、締まりのない部分的な貼り床で、壁は緩やかに

立ち上がる。柱穴は検出されていない。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器のハケ調整の甕、甕、砂岩、チャート製の碟、石英礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。



第28図 11・12号竪穴建物跡

13号竪穴建物跡(第29図)

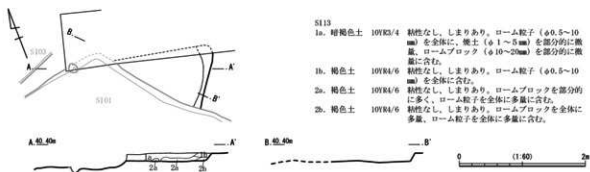
平面位置 P-60グリッド

重複関係 1・4・6号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.57m、短軸0.855m、遺構検出面からの深さは最大で0.25mである。床はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。柱穴は検出されていない。覆土は暗褐色土と褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕、坏、片岩の破片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。



第29図 13号竪穴建物跡

14号竪穴建物跡 (第30図)

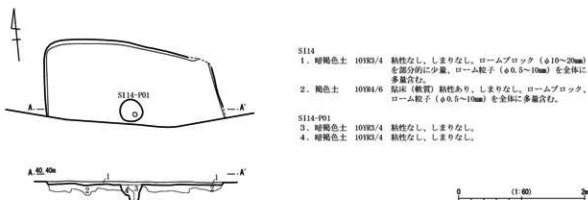
平面位置 P-61・62、Q-61グリッド

重複関係 7号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は北壁、西壁と東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.69m、短軸1.3m、遺構検出面からの深さは最大で0.11mである。床はほぼ平坦で軟質であり、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が床面中央から1基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



第30図 14号竪穴建物跡

15号竪穴建物跡 (第31~33図、第8表、図版2・6)

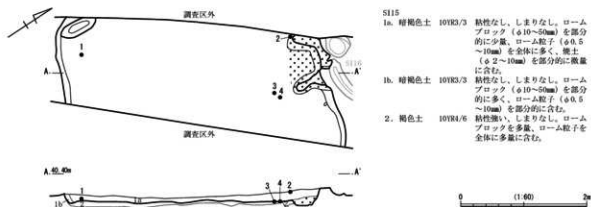
平面位置 R-66・67グリッド

重複関係 16号竪穴建物跡より新しい。

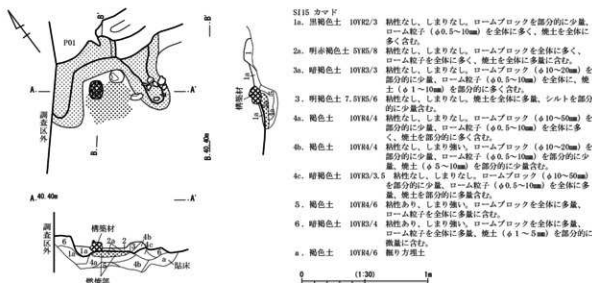
遺構形態 遺構は、北壁と竈、南壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸4.235m、短軸1.75m、遺構検出面からの深さは最大で0.145mを測る。床は、ほぼ平坦で踏み締まりのない貼り床、壁は急角度で立ち上がる。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。竈は北竈で、構築材はロームを含むシルト質土を使用しており、焚口から燃焼部上の天井部が破壊され、両袖が残存している。覆土は暗褐色土を主体とする。

遺物 遺物は土師器器台 (第33図1)、甕 (第33図2、ハケ調整の甕を含む)、盤 (第33図4)、鉢 (第33図3)、坏、須恵器坏 (ロクロ調整)、砥石、磨石、礫器、礫片などが検出されている。

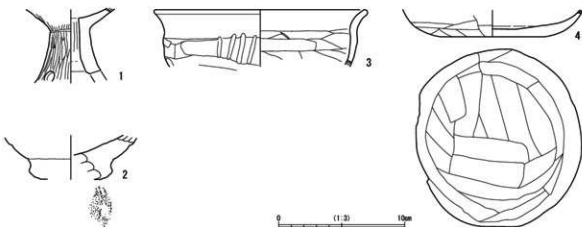
時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第31図 15号堅穴建物跡



第32図 15号堅穴建物跡出土遺物



第33図 15号堅穴建物跡カマド

第8表 15号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 器台	口径:(7.0) 高さ:(6.2) 底径:(5.9)	角閃石・白色針状物質・微砂粒	良好	75	褐色 (5YR7/6)	環部内外面及び脚部細かな縦ミガキ。脚部に等間隔に3孔する。
2	土師器 甕?	口径:- 高さ:(3.3) 底径:-	白色粒子・石英・微砂粒	良好	5以下	褐色 (7.5YR6/6)	外面成形時の凹凸を残す。底部外面木炭痕が認められる。
3	土師器 鉢	口径:(16.7) 高さ:(4.9) 底径:-	雲母	良好	40	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	胴部外面横ケズリ、内面横ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。口縁部内面に煤付着。
4	土師器 盤	口径:(14.2) 高さ:(2.1) 底径:9.0	雲母・微砂粒	良好	60	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	底部外面中央部ヘラケズリ後、周辺部ヘラケズリ。内面ナデ。

17号竪穴建物跡 (第34図)

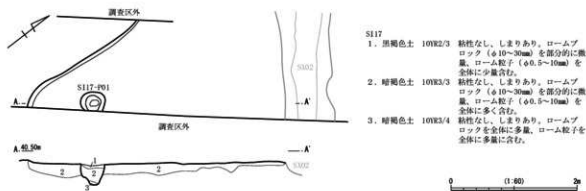
平面位置 T-69、U-69・70グリッド

重複関係 2・3号性格不明遺構より古い。

遺構形態 遺構は西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.635m、短軸1.825m、遺構検出面からの深さは最大で0.06mと非常に浅い。床はほぼ平坦で踏み締まりのある貼り床で、壁は緩やかに立ち上がる。南西角の床面で柱穴が1基検出されているが、主柱穴と推定される。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は、土師器甕 (ハケ調整の甕を含む)、鉄製品 (刀子)、礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



第34図 17号竪穴建物跡

18号竪穴建物跡 (第35~37図、図版2・6・7)

平面位置 U-69・70、V-70グリッド

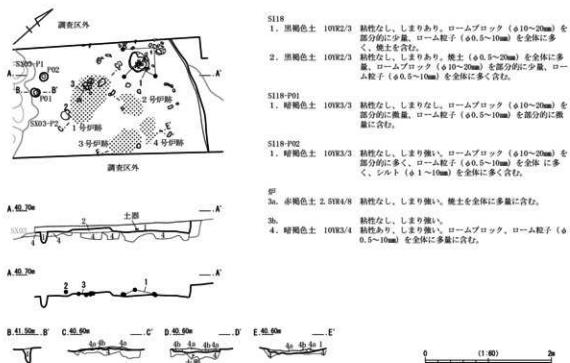
重複関係 19・20号竪穴建物跡より新しく、2・3号性格不明遺構より古い。

遺構形態 遺構は、北北東の壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸3.735m、短軸1.89m、遺構検出面からの深さは最大で0.19mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりの強い貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。床面の北北東壁寄りに炉跡が4基形成されている。1号炉跡は長軸0.89m、短軸0.51m、2号炉跡は長軸0.435m、短軸0.32m、3号炉跡は長軸0.55m、短軸0.36m、4号

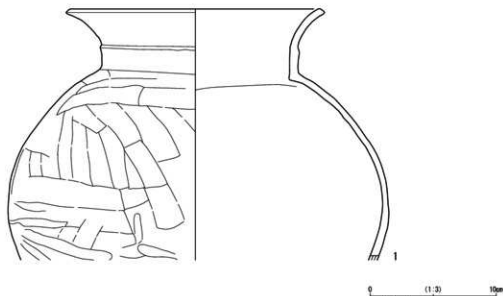
炉跡は長軸 41.5 m、短軸 0.25 m で、いずれも焼土の焼成は良好で硬化している。南西寄りの床面から柱穴が 2 基検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は、土師器の有段口縁の甕（第 36 図 1）、単口縁の甕（第 37 図 2・3、その他ハケ調整の甕を含む）、鉄製の刀子（第 37 図 4）、磨石、凹石、台石、礫片などが出土している。

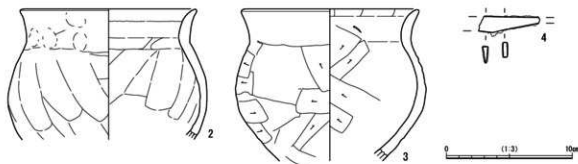
時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



第 35 図 18 号竪穴建物跡



第 36 図 18 号竪穴建物跡出土遺物（1）



第37図 18号竪穴建物跡出土遺物(2)

第9表 18号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径:(19.8) 高さ:(19.8) 底径:-	石英・微砂粒	良好	60	にふい黄褐色 (10YR7/4)	胴部外面斜位のケズリ後、胴部最大径付近及び最上部横ケズリ後、部分的にナデ、内面横ナデ、輪横線を残す。口縁部内外面強い横ナデ。
2	土師器 甕	口径:(14.0) 高さ:(10.3) 底径:-	石英・白色針状物質・ 微砂粒	良好	20	褐色 (2.5YR6/8)	胴部外面斜位のケズリ、内面斜位のナデ。口縁部内外面横ナデ、外面に指頭直を残す。
3	土師器 甕	口径:(14.0) 高さ:(12.0) 底径:-	石英・雲母・ 白色針状物質・ 微砂粒	良好	30	褐色 (5YR6/6)	胴部外面斜位及び横ケズリ。内面斜位のナデ。口縁部内外面強い横ナデ。
4	鉄製品 刀子	長さ:(4.8) 幅:1.6 厚さ:4.0 重さ:5.9g			30	にふい黄褐色 (10YR4/3)	遺存状態悪い。先端部丸みを帯びる。

19号竪穴建物跡 (第38図、図版2)

平面位置 V-70 グリッド

重複関係 20号竪穴建物跡より新しく、18号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は、北壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.85m、短軸0.755m、遺構検出面からの深さは最大で0.265mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりのない貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕が検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。

20号竪穴建物跡 (第38図)

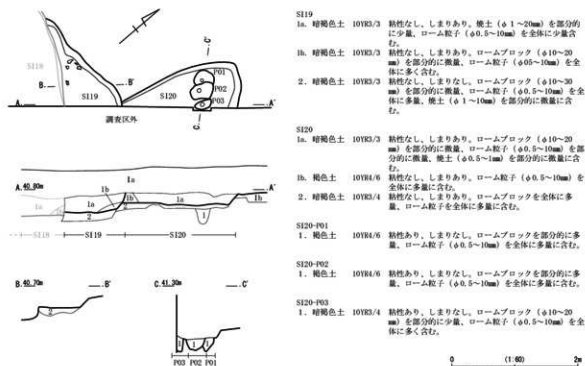
平面位置 V-70・71 グリッド

重複関係 18・19号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は、北壁と西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.92m、短軸0.765m、遺構検出面からの深さは最大で0.21mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりのある貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が北東角の床面で3基検出されている。覆土は暗褐色土を主体とし褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物は、土師器甕(ハケ調整の甕を含む)、坏などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。



第38図 19・20号竪穴建物跡

22号竪穴建物跡(第39~41図、第10表、図版7)

平面位置 V・W-72グリッド

重複関係 22・23号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は、床面のみの検出で平面形は不明で、平面サイズは長軸4.94m、短軸1.655m、遺構検出面からの深さは最大で0.321mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。柱穴は検出されず北西壁下に土坑が1基検出されている。覆土は黒褐色土を主体とし、暗褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物は南西側の床面に土器がまとまって検出され、土師器は、ハケ調整の甕(第41図1)、単口縁の甕(第41図5)、高坏(第41図2)、壺(第41図3)、坏(第41図4・須恵器坏蓋横做)、埴(第41図6)、須恵器甕(第41図7)、石皿+礫器+砥石(第41図8)などが検出されている。土師器の中には赤彩のものを含む。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から、古墳時代後期と推定される。

24号竪穴建物跡(第39・40・42図、第11表、図版2・3・7)

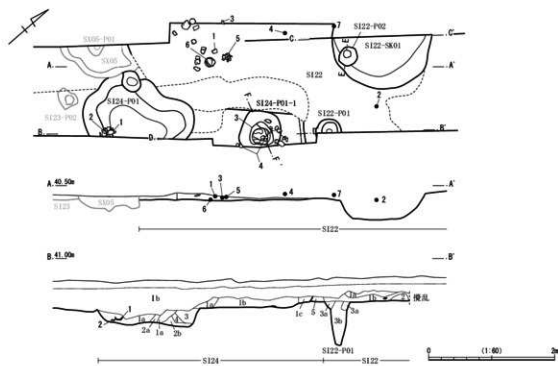
平面位置 U・V-72グリッド

重複関係 なし

遺構形態 遺構は北東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸3.585m、短軸1.06m、遺構検出面からの深さは最大では0.17mを測る。床はほぼ平坦で硬化した貼り床で、壁は緩やかに立ち上がる。柱穴が北東壁際の床面から1基検出され、覆土から複合口縁の甕が底部を穿孔され逆で埋葬され検出されている(第42図3)。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

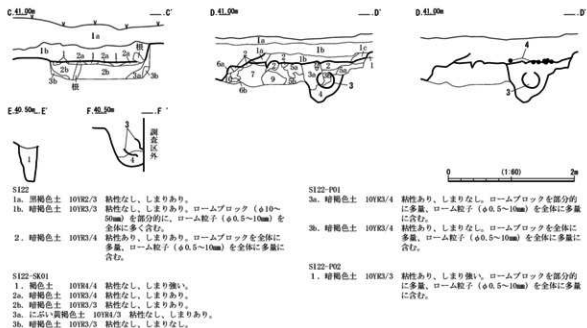
遺物 遺物は、散漫に分布し、土師器坏（第42図1）、埴（第42図2）、2号ピット覆土から位で埋葬されていた有段口縁の甕（第42図3）、単口縁の甕（第42図4）、などが検出されている。

時期 出土遺物から古墳時代中期と推定される。

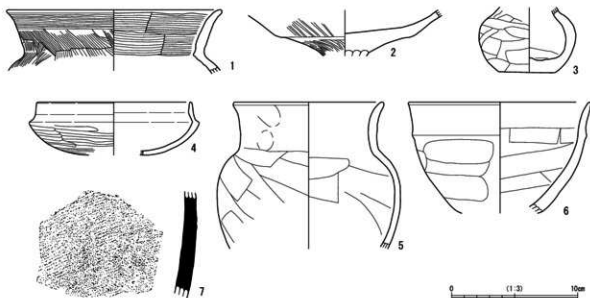


S124 B-F		2. 褐色土	10YR4/6	粘性あり、しまり強い、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量、シルトを全体に多量に含む。
1a. 暗褐色土	10YR3/3	3a. 暗褐色土	10YR3/4	粘性なし、しまりあり、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に多く含む。
1b. 暗褐色土	10YR3/3	3b. 暗褐色土	10YR3/3	粘性あり、しまりなし、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に多く含む。
1c. 暗褐色土	10YR3/3	4. 褐色土	10YR4/6	粘性あり、しまり強い、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2a. 褐色土	10YR4/6	5a. 褐色土	10YR4/6	粘性あり、しまり強い、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。
2b. 褐色土	10YR4/4	5b. 褐色土	10YR4/6	粘性あり、しまりなし、ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3. 褐色土	10YR4/6	6a. 暗褐色土	10YR3/3	粘性あり、しまりなし、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
4. 暗褐色土	10YR2/3	6b. 暗褐色土	10YR2/3	粘性あり、しまり強い、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子を部分的に少量含む。
5. 褐色土	10YR4/6	7. 褐色土	10YR4/6	粘性あり、しまり強い、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。
S124-P01-1		8. 灰白色土	5YR0/2	粘性あり、しまり強い、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に多量に含む。
1a. 暗褐色土	10YR3/3	9. 黒褐色土	10YR2/3	粘性なし、しまりあり、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、シルトを全体に多く含む。
1b. 暗褐色土	10YR3/3	10. 黄褐色土	10YR5/6	粘性あり、しまり強い、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。
1c. 暗褐色土	10YR3/3			

第39図 22・24号竪穴建物跡（1）



第40図 22・24号竪穴建物跡(2)

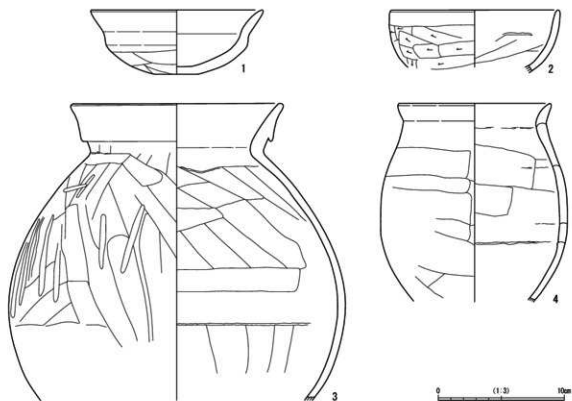


第41図 22号竪穴建物跡出土遺物

第10表 22号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径:(16.8) 高さ:(4.8) 底径:-	石英・雲母・白色針状物質・微砂粒	良好	5	褐色(7.5YR7/6)	内外面ハケ調整後、口縁部内外面横ナズ。
2	土師器 高杯	口径:(15.3) 高さ:(3.6) 底径:(3.5)	石英・雲母・微砂粒	良好	30	にぶい黄褐色(10YR7/4)	环部外面縦ミガキ、内面ナズ。
3	土師器 甕	口径:- 高さ:(5.1) 底径:4.5	白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石	良好	70	褐色(5YR7/6)	胴部外面ナズ、内面未調整で粘土のナズ付け痕が残る。

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
4	土師器 坏	口径：(12.0) 高さ：(4.2) 底径：-	雲母・角閃石・ 微砂粒	良好	20	灰黄褐色 (10YR4/2)	底部外面へラケズリ後、ミガキ。口縁 部内外面強い横ナデ。
5	土師器 甕	口径：(11.7) 高さ：(11.6) 底径：-	石英・雲母・白色針 状物質・微砂粒	良好	10	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	胴部内外面斜位のナデ。口縁部内外面 横ナデ。外面成形時の指痕を残す。
6	土師器 甕	口径：14.4 高さ：(8.8) 底径：-	石英・雲母・白色針 状物質・微砂粒	良好	30	明黄褐色 (10YR7/6)	胴部外面ナデ調整後、斜位のミガキ、 内面斜位のナデ。口縁部内外面強い横 ナデ。
7	須恵器 甕	口径：- 高さ：(8.4) 底径：-	白色粒子	良好	5以下	灰オリーブ色 (5Y6/2)	外面細かな平行線状のタタキ、自然釉 がかかる。内面横ナデ。成形時のあて 具痕の凹凸を残す。



第42図 24号竪穴建物跡出土土遺物

第11表 24号竪穴建物跡出土土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径：13.4 高さ：5.1 底径：11.2	石英・角閃石・ 白色針状物質・ 微砂粒	良好	75	橙色 (5YR6/6)	底部外面中心部へラケズリ後周辺部同 一方向にへラケズリ、内面ナデ。口縁 部内外面横ナデ。
2	土師器 椀	口径：13.1 高さ：(4.5) 底径：-	白色粒子・石英・雲母・ 白色針状物質・微砂 粒	良好	70	明黄褐色 (10YR7/6)	胴部外面横ケズリ、内面ナデ。口縁部 内外面横ナデ。
3	土師器 甕	口径：16.4 高さ：(23.5) 底径：-	白色粒子・石英・雲母・ 角閃石・ 白色針状物質・ 小礫・微砂粒	良好	70	明黄褐色 (10YR6/6)	胴部外面ナデ後、斜位のミガキ、内面 横ナデ、輪痕を残す。口縁部内外面 横ナデ。
4	土師器 甕	口径：(12.0) 高さ：(15.6) 底径：-	白色粒子・石英・微 砂粒	良好	25	橙色 (5YR6/6)	胴部外面横へラケズリ、内面横ナデ。 輪痕を残す。口縁部内外面横ナデ。

25号竪穴建物跡（第43～45図、第12表、図版8）

平面位置 X・Y-72・73グリッド

重複関係 7号土坑、6号性格不明遺構より古い。

遺構形態 遺構は北東壁と南東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸5.02m、短軸1.52m、遺構検出面からの深さは最大で0.49mを測り規模が大きい。床はほぼ平坦で硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が4基検出されている。覆土は黒褐色土を主体とし、暗褐色土と褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 土師器高坏(第45図1・2)、埴(第45図3)、甕(第45図4)、甌(第45図5)、焼成粘土塊(第45図6)、須恵器甕破片、被熱した砂岩礫、礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。

26号竪穴建物跡（第43・44・46図、第13表、図版8）

平面位置 Y・Z-73グリッド

重複関係 27号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は南壁と東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.63m、短軸1.295m、遺構検出面からの深さは最大で0.65mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがない貼り床で、壁際には周溝が巡っており、壁は急角度で立ち上がる。南東角の床面には柱穴が1基検出されている。覆土は黒褐色土を主体とし、暗褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 土師器甕、須恵器坏身模倣の坏(第46図1)、砂岩礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

27号竪穴建物跡（第43・44・47図、第14表、図版8）

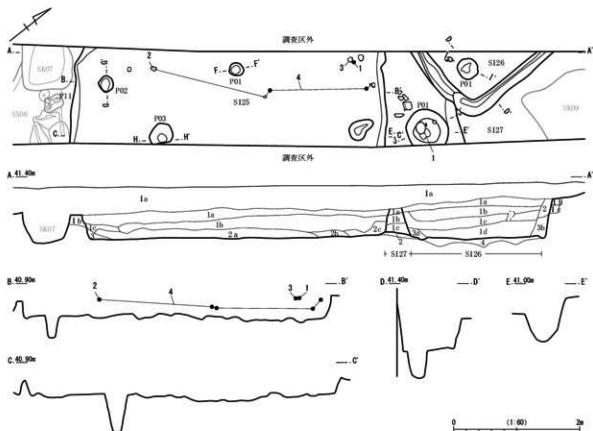
平面位置 Y・Z-73グリッド

重複関係 25・26号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は北壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.495m、短軸1.275m、遺構検出面からの深さは最大で0.39mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。北壁際で柱穴が1基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕(第47図1、その他赤彩、ハケ調整の甕を含む)、高坏坏部(第47図2)、砥石(片岩)などが検出されている。

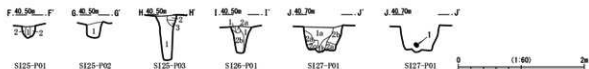
時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



- S125
- 1a. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~30mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
 - 1b. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (〜φ10mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
 - 1c. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロック (φ10~50mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
 - 2a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを部分的に、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
 - 2b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に含む。
 - 2c. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロック (φ10~50mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に、堆土を部分的に少量含む。
 3. 褐色土 10YR4/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に少量、ローム粒子を全体に少量含む。
- S125-P01
1. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
 2. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く、堆土 (φ1~20mm) を部分的に少量含む。
- S125-P02
1. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に、ローム粒子 (φ0.1~10mm) を全体に含む。
- S125-P03
1. 暗褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に含む。
 2. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
 3. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。

- S126
- 1a. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子 (φ1~2mm) を全体に、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を部分的に少量含む。
 - 1b. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子 (φ1~2mm) を全体に、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量、堆土 (φ1~5mm) を部分的に少量含む。
 - 1c. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。白色粒子 (φ1~2mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
 - 1d. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に含む。
 2. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子 (φ1~2mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を部分的に少量含む。
 - 3a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
 - 3b. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。炭化物 (φ1~3mm) を部分的に少量、ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
 - 3c. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。炭化物 (φ1~3mm) を部分的に少量、ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
 4. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを全体に少量、ローム粒子を全体に少量含む。
- S126-P01
1. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。炭化物 (φ1~5mm) を部分的に少量、ロームブロック (φ10~20mm) を全体に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
 - 2a. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりあり。ロームブロック (φ10~40mm) を部分的に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
 - 2b. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを全体に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。

第43図 25・26・27号竪穴建物跡(1)



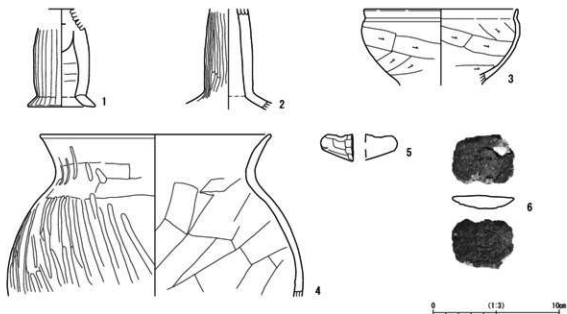
SI-27

- 1a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまり強い、白色粒子 ($\phi 1 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に微量、焼土 ($\phi 1 \sim 5 \text{mm}$) を部分的に微量を含む。
- 1b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまり強い、炭化物 ($\phi 1 \sim 20 \text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を部分的に少量、焼土 ($\phi 1 \sim 20 \text{mm}$) を部分的に少量、白色粒子 ($\phi 1 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に微量を含む。
- 1c. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまり強い、炭化物 ($\phi 1 \sim 5 \text{mm}$) を部分的に微量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 30 \text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を部分的に少量、焼土 ($\phi 1 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に微量を含む。
2. 褐色土 10YR4/4 粘性あり、しまり強い、炭化物 ($\phi 1 \sim 5 \text{mm}$) を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量を含む。

SI-27 P01

- 1a. 暗褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりなし、ロームブロック ($\phi 10 \sim 20 \text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に、焼土 ($\phi 1 \sim 5 \text{mm}$) を部分的に少量含む。
- 1b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりなし、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量を含む。
- 2a. 暗褐色土 10YR3/2 粘性なし、しまりあり、ロームブロック ($\phi 10 \sim 30 \text{mm}$) を部分的に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量を含む。
- 2b. 暗褐色土 10YR3/2 粘性あり、しまりなし、ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多く含む。
- 2c. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量を含む。

第 44 図 25・26・27 号竪穴建物跡 (2)

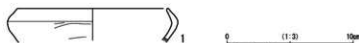


第 45 図 25 号竪穴建物跡出土遺物

第 12 表 25 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高杯	口径:- 高さ:(7.8) 底径:-	石英・雲母・角閃石・ 白色針状物質・微砂 粒	良好	25	褐色 (5YR6/6)	脚部外面器面荒れて調整不明、内面ナデ。接合部キゾ穴接合
2	土師器 高杯	口径:- 高さ:(7.9) 底径:-	雲母・角閃石・ 白色針状物質・ 微砂粒	良好	40	にぶい褐色 (7.5YR7/4)	脚部外面縦ミガキ、内面ナデ。
3	土師器 杯	口径:(12.0) 高さ:(6.0) 底径:-	白色粒子・雲母・角 閃石・ 白色針状物質	良好	25	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	底部外面ヘラケズリ後ミガキ、内面ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。
4	土師器 甕	口径:18.1 高さ:(12.95) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・ 微砂粒	良好	30	にぶい褐色 (5YR6/4)	胴部外面ケズリ後、縦ミガキ、内面斜位 のナデ。口縁部内外面強い横ナデ。

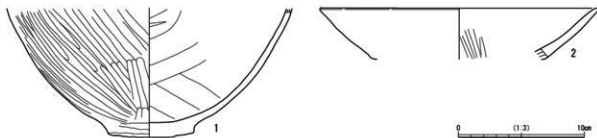
図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
5	土師器 甗	長さ：(2.1) 幅：(2.55) 重さ：11.1g	石英・雲母・ 微砂粒	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	把手部分。成形時の凹凸を残す。
6	土製品 焼成粘土塊	口径：- 長さ：4.7 底径：- 重さ：20.1	雲母・角閃石・小礫・ 微砂粒	良好	100	黒灰色 (10YR5/1)	表裏面に繊維痕が認められる。



第46図 26号竪穴建物跡出土遺物

第13表 26号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径：(12.0) 高さ：(2.5) 底径：-	雲母・角閃石・ 白色針状物質	良好	5	黒褐色 (2.5Y3/1)	底部外面ヘラケズリ。口径部内外面強い横ナデ。



第47図 27号竪穴建物跡出土遺物

第14表 27号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甗	口径：- 高さ：(10.2) 底径：6.6	白色粒子・赤色粒子・ 石英・雲母・微砂粒	良好	25	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面斜位のミガキ。内面横ナデ。底部外面ナデ。
2	土師器 高杯	口径：(22.0) 高さ：(4.0) 底径：-	石英・雲母・白色針 状物質・微砂粒	良好	10	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	環部外面縦ミガキ。内面横ナデ。

28号竪穴建物跡（第48・49図、第15表、図版8）

平面位置 Z・AA-73・74グリッド

重複関係 30号竪穴建物跡より新しく、9号竪穴建物跡、12号ピットより古い。

遺構形態 遺構は南西壁と北西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸3.77m、短軸1.605m、遺構検出面からの深さは最大で0.215mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は南西壁では急角度で、北東壁では緩やかに立ち上がる。床面には、硬化した暗褐色土が部分的に面的に堆積しているが、建物の壁、屋根の一部が崩落し堆積したものと推定される。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 土師器の有段口縁甕（第49図1）、甕（第49図2・3、赤彩、ハケ調整の甕を含む）、高坏脚部（第49図4）、磨石（砂岩）、礫片（砂岩）などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。

29号竪穴建物跡（第48・50図、第16表、図版3・8）

平面位置 AA・AB-74・75グリッド

重複関係 28・30号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は北壁と東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.585m、短軸1.66m、遺構検出面からの深さは最大で0.135mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は場所により緩やかから急角度で立ち上がる。床面の南側で柱穴が2基検出されている。覆土は暗褐色土を主体とした褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器坏（第50図1～3・須恵器坏蓋模倣）、甕（ハケ調整の甕を含む）、赤採の土器などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期を推定されている。

30号竪穴建物跡（第48図）

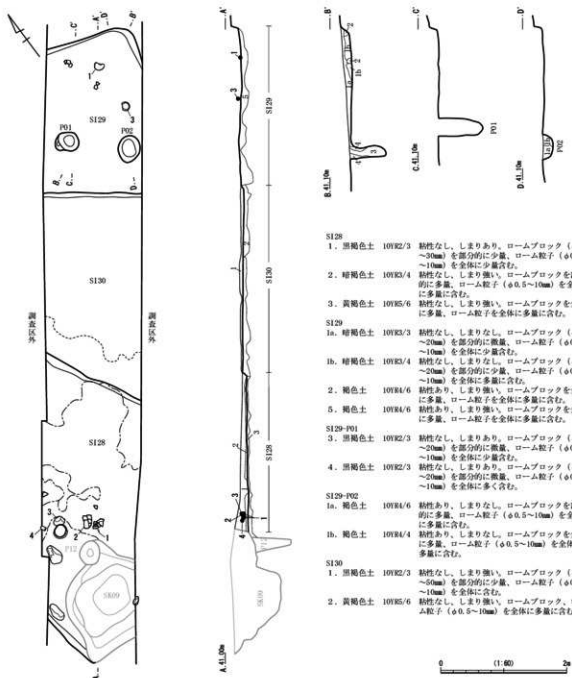
平面位置 Z・AA-74グリッド

重複関係 29号竪穴建物跡より新しく、28号竪穴建物跡・9号土坑・12号ピットより古い。

遺構形態 遺構は北壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸3.295m、短軸1.57m、遺構検出面からの深さは最大で0.055mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い貼り床で、壁は、浅く緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

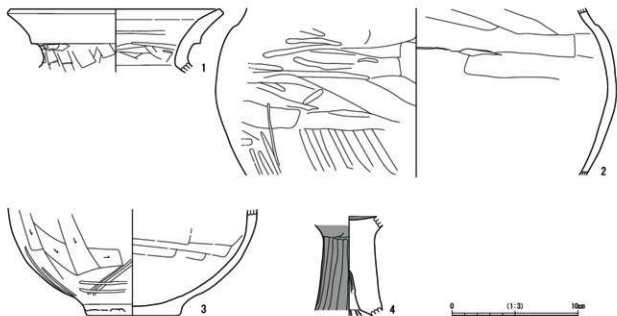
遺物 遺物は土師器甕（ハケ調整の甕を含む）である。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期以前と推定される。



第 48 図 28・29・30号竪穴建物跡

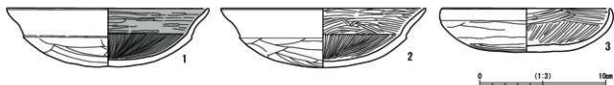
- SI28
1. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~30mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
 2. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまり強い。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。
 3. 黄褐色土 10YR5/6 粘性なし、しまり強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。
- SI29
- 1a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
 - 1b. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。
2. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまり強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。
 5. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまり強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。
- SI29-P01
3. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
- SI29-P02
- 1a. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりなし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。
 - 1b. 褐色土 10YR4/4 粘性あり、しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。
- SI30
1. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまり強い。ロームブロック (φ10~30mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
 2. 黄褐色土 10YR5/6 粘性なし、しまり強い。ロームブロック、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。



第49図 28号竪穴建物跡出土遺物

第15表 28号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 盃	口径: 16.6 高さ: (5.0) 底径: -	雲母・角閃石・ 白色針状物質・ 微砂粒	良好	10	橙色 (5YR7/6)	頸部外面縦ハケ後ミガキ。口縁部内外面強い横ナデ。
2	土師器 鉢	口径: - 高さ: (13.2) 底径: -	白色粒子・石英・雲母・ 角閃石・ 白色針状物質・ 小礫・微砂粒	良好	10	橙色 (5YR6/6)	胴部外面ナデ及び部分的にミガキ。内面横ナデ、輪積痕を残す。
3	土師器 鉢	口径: - 高さ: (8.4) 底径: (7.0)	白色粒子・赤色粒子・ 石英・雲母・角閃石・ 白色針状物質・微砂粒	良好	15	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	胴部外面縦ケズリ後ナデ、内面横ナデ、輪積痕を残す。
4	土師器 高杯	口径: - 高さ: (7.9) 底径: -	白色粒子・石英・雲母・ 白色針状物質・微砂粒	良好	35	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	胴部外面縦ミガキ、内面ナデ。赤彩される。



第50図 29号竪穴建物跡出土遺物

第16表 29号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 杯	口径: 15.75 高さ: 4.7 底径: 13.3	白色粒子・雲母・微 砂粒	良好	90	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	底部外面中心部ヘラケズリ後裏辺部ヘラケズリ、内面放射状のミガキ。口縁部内外面強い横ナデ。内面横ミガキ。
2	土師器 杯	口径: 16.0 高さ: 4.7 底径: 13.2	白色粒子・雲母	良好	90	にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	底部外面ヘラケズリ後ミガキ。内面放射状のミガキ。口縁部内外面強い横ナデ。
3	土師器 杯	口径: 13.2 高さ: 3.5 底径: 13.65	白色粒子・石英・雲母・ 角閃石・ 白色針状物質	良好	80	にぶい橙色 (5YR6/4)	底部外面ケズリ後ミガキ。内面同一方向の細かなミガキ。

取上No. 実測No.

31号竪穴建物跡 (第51・52図、第17表、図版8)

平面位置 Z-75 グリッド

重複関係 32号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は北壁と西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.55m、短軸0.75m、遺構検出面からの深さは最大で0.185mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが弱い貼り床で、西壁は緩やかに、北壁は急角度で立ち上がる。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 土師器甕(ハケ調整の甕を含む)、赤彩の土器、須恵器坏蓋模倣の坏(第52図1)、須恵器甕(第52図2)、縄文時代前期の土器などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

32号竪穴建物跡 (第51・53図、第18表、図版3・9)

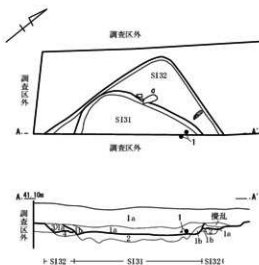
平面位置 Z-75・76 グリッド

重複関係 31号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は北壁と西壁と床の一部が検出され、平面サイズは長軸2.14m、短軸1.52m、遺構検出面からの深さは最大で0.14mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが弱い貼り床で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は褐色土を主体とし、暗褐色土を含む自然堆積層である。

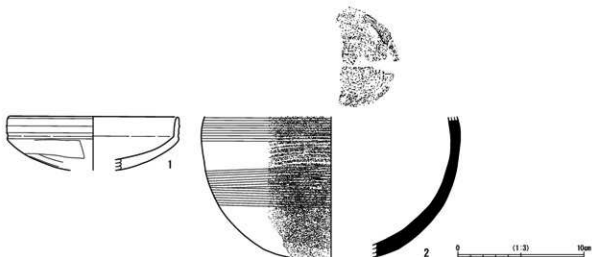
遺物 出土遺物は散漫に出土しているが、須恵器坏蓋模倣の土師器坏(第53図1)、斑レイ岩製の石皿(第53図2)、砂岩製の礫器、磨石などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



S131	
1a. 暗褐色土	10VK3/3 粘性なし、しまりあり、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に含む。
1b. 暗褐色土	10VK3/3 粘性なし、しまりあり、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に含む。
2. 黒褐色土	10VK2/3 粘性なし、しまりあり、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
S132	
1a. 暗褐色土	10VK3/3 粘性なし、しまりあり、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
1b. 褐色土	10VK4/4 粘性なし、しまりなし、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
2. 褐色土	10VK4/6 粘性なし、しまりなし、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量に含む。
3. 褐色土	10VK4/6 粘性なし、しまり強い、ロームブロックを全体に少量、ローム粒子を全体に少量に含む。
4. 暗褐色土	10VK3/4 粘性なし、しまりあり、ロームブロックを全体に少量、ローム粒子を全体に少量に含む。

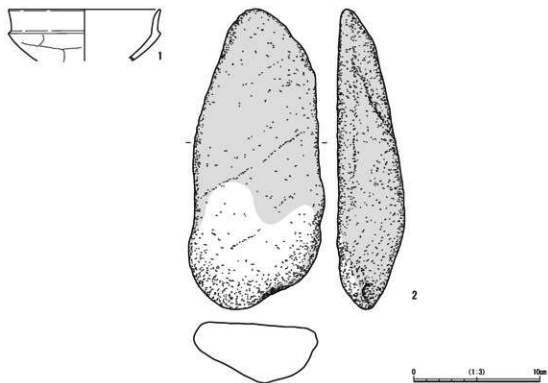
第51図 31・32号竪穴建物跡



第52図 31号竖穴建物跡出土遺物

第17表 31号竖穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径:(13.2) 高さ:(4.3) 底径:(13.5)	石英・雲母・角閃石・ 白色針状物質・微砂 粒	良好	30	浅黄褐色 (10YR8/4)	底部外面へラケズリ残ナデ。内面ナデ。 口縁部内外面強い横ナデ。
2	須恵器 撰	口径: 高さ:(11.1) 底径:.	白色粒子・石英・微 砂粒	良好	20	黄灰色 (2.5Y6/1)	外面ナデ。カキ目が認められる。底部 内面同心円状の当て具痕を残す。



第53図 32号竖穴建物跡出土遺物

第18表 32号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 杯	口径: (12.0) 高さ: (4.1) 底径: .	雲母・白色針状物質・ 微砂粒	良好	5	黒褐色 (10YR3/1)	底部外面へラケズリ、内面同一方向の 細かなミガキ。口縁部内外面細かなミ ガキ。
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
2	石皿	斑れい岩	23.8	10.8	5.3	1713.8	完形。表面に平坦面を持つ。焼熱を受け赤化している。 また、表面全体あばた状を呈する。

36号竪穴建物跡 (第54・55図、第19表、図版9)

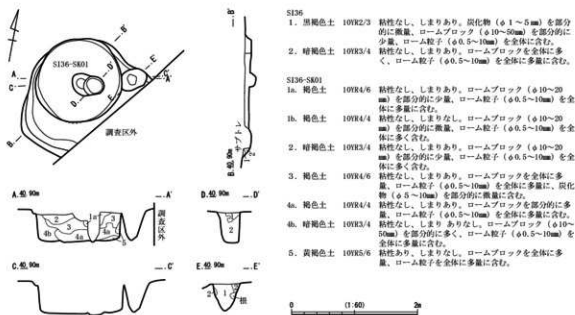
平面位置 W・X-71・72グリッド

重複関係 なし

遺構形態 遺構は北壁と南壁の一部、西壁と床が検出され、平面サイズは長軸1.98m、短軸1.405m、遺構検出面からの深さは最大で0.105mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある貼り床で、壁は緩やかに立ち上がる。柱穴が2基検出されているが、それより古い楕円形の床下土坑が床面から検出されている。覆土は黒褐色土と暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は単口縁の土師器甕 (第9図1)、赤彩の土器、須恵器甕などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期以前と推定される。



第54図 36号竪穴建物跡



第55図 36号竪穴建物跡出土遺物

第19表 36号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径:(17.8) 高さ:(5.1) 底径:-	石英・雲母・角閃石・ 微砂粒	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	口縁部内外面横ナデ後、外面縦ミガキ。

38号竪穴建物跡 (第56・57・59図、第20表、図版3・9)

平面位置 AD-76・77、AE-77グリッド

重複関係 39・40号竪穴建物跡より新しく、37号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は北壁と南壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸3.1m、短軸1.82m、遺構検出面からの深さは最大で0.34mを測る。柱穴が4基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、散漫に分布するが、土師器器台(第59図1)、単口縁の甕(第59図2)、須恵器坏壺模倣の坏(第59図3)、砂岩製の磨石、台石、礫、礫片、炭化物などが検出されている。また南壁近くの覆土から鉄滓が出土したため土壌サンプル(950.2g)を採集し選別した結果、鉄滓が30.4g採集された。焼土は検出されていないが、屋内炉での鍛冶作業が行われた可能性がある。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期後葉以前と推定される。

39号竪穴建物跡 (第56～58・60図、第21表、図版3・9)

平面位置 AE-77グリッド

重複関係 40号竪穴建物跡より新しく、37・38号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は北壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.26m、短軸1.38m、遺構検出面からの深さは最大で0.3mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床である。北壁は40号竪穴建物跡の覆土であったため、明確に形状を確認できていない。竈は北壁の東よりの壁付近に設けられており、両袖から煙道部までU字形に構築材が残り、燃焼部から煙道までの天井が破壊されており、長軸0.76m、短軸最大10.9mを測る。焚口の前の床面には泥岩の切り石(最大長0.6×最大幅0.135×最大厚0.07m)が置かれており、構築材中にも泥岩が埋設されており、シルト質土と切り石組を構築材として使用している。竈の構築材はシルト質土で、焚口付近の両袖には泥岩の多面体の縦長の泥岩の一端の細い部分を地中に10cm前後埋設してから構築材で固定、埋設、整形し、焚口上の泥岩の天板を埋設した両袖上に設置したものと推定される。燃焼部よりやや北側には石製の支脚と埋設されていた土師器甕が残されていた。柱穴が床面から2基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は散漫に分布しているが、土師器壺(第60図1)、坏(第60図2)、甕(第60図3～5)、土製の勾玉(第60図6)、赤彩の土器、片岩製の磨石、砂岩製のカマドの支脚、泥岩の竈構築材、砂岩製の礫、片、石英製の礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。

40号竪穴建物跡 (第56・57・61図、第22表、図版3・9)

平面位置 AE-77グリッド

重複関係 39・41号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は東壁の一部が検出され、平面サイズは長軸1.675m、短軸1.065m、遺構検出面からの深さは最大で0.3mを測る。床はほぼ平坦で踏み締めまりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は散漫に分布しているが、西壁際の床面付近でハケ調整の甕(第61図1・2)が密集して検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。

41号竪穴建物跡 (第56・57・62図、第23表、図版9)

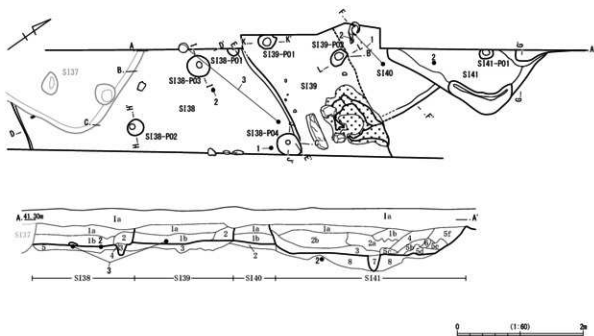
平面位置 AE・AF-77・78グリッド

重複関係 40号竪穴建物跡より新しい。

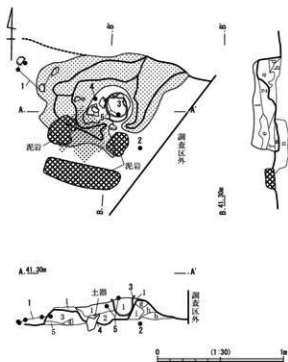
遺構形態 遺構は南壁と東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.7m、短軸1.24m、遺構検出面からの深さは最大で0.46mを測る。東壁の北東隅で竈の右袖から煙道部の一部が検出されている。構築材はシルト質土で構成されている。柱穴が竈より南西側の床面で1基検出されている。覆土は暗褐色土を主体とした自然堆積層である。

遺物 遺物は散漫に分布しているが、土師器甕(第62図1、他にハケ調整の甕を含む)、坏(第62図2)、単節縄文施文の縄文土器、砂岩製、片岩製の礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。



第56図 38・39・40・41号竪穴建物跡(1)



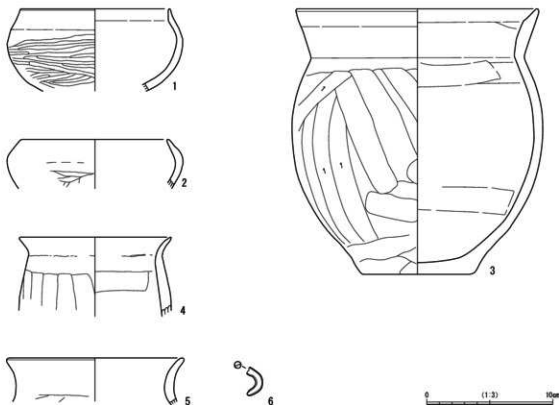
第58図 39号竪穴建物跡カマド



第59図 38号竪穴建物跡出土遺物

第20表 38号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 器台	口径:- 高さ:(5.3) 底径:-	雲母	良好	60	にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	外面縦ミガキ。腹部内面横ナデ。腹部外面及び環部赤彩。
2	土師器 甕	口径:(13.9) 高さ:(5.5) 底径:-	白色粒子・石英	良好	5以下	灰褐色(5YR5/2)	内外面横ナデ。頸部に粘土貼り付け、上端を指押さえる。
3	土師器 環	口径:14.0 高さ:4.4 底径:13.9	角閃石・微砂粒	良好	100	橙色(5YR6/6)	底部外面ケズリ後ミガキ。内面放射状のミガキ。内外面強い横ナデ。



第60図 39号竪穴建物跡出土遺物

第21表 39号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 椀	口径: 6.0 高さ: (6.5) 底径: ..	石英・角閃石・ 微砂粒	良好	65	にふい赤褐色 (2.5YR4/4)	底部外面ケズリ後、横ミガキ。内面ナデ。 口縁部内外面強い横ナデ。
2	土師器 杯	口径: (11.6) 高さ: (3.9) 底径: ..	雲母・角閃石・ 白色針状物質・ 微砂粒	良好	5以下	にふい赤褐色 (5YR5/4)	底部外面横ミガキ。口縁部内外面横ナ デ。
3	土師器 甕	口径: 19.2 高さ: 21.0 底径: 8.6	石英・雲母・角閃石・ 小礫・微砂粒	良好	70	にふい赤褐色 (5YR5/4)	胴部外面踏大径以下縦ケズリ後上半部 斜位ケズリ。内面横ナデ。口縁部内外面 強い横ナデ。
4	土師器 甕	口径: (6.0) 高さ: (6.3) 底径: ..	石英・雲母・角閃石・ 小礫・微砂粒	良好	5以下	にふい赤褐色 (5YR5/4)	胴部外面縦ケズリ。内面横ナデ。口縁 部内外面横ナデ。
5	土師器 甕	口径: (13.7) 高さ: (3.7) 底径: ..	赤色粒子・石英・雲母・ 角閃石・ 白色針状物質・ 微砂粒	良好	5以下	灰褐色 (5YR4/2)	内外面強い横ナデ。
6	土製品 土製勾玉	長さ: (2.3) 幅: (1.3) 厚さ: (0.65) 重さ: 1.4g	なし	良好	90	明褐色 (7.5YR5/6)	指ナデ。穿孔部分より上がりかけている。



第 61 図 40 号竪穴建物跡出土遺物

第 22 表 40 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径: 14.4 高さ: (7.8) 底径: -	石英・雲母・白色針 状物質・微砂粒	良好	30	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	胴部上端部縦ハケ後、胴部最大径横ハケ。内面横ハケ。口縁部内外面横ナデ。
2	土師器 甕	口径: (16.0) 高さ: (5.1) 底径: -	白色粒子・石英・雲母・ 白色針状物質	良好	10	浅黄色 (2.5Y7/3)	胴部上端縦ハケ。内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。



第 62 図 41 号竪穴建物跡出土遺物

第 23 表 41 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径: - 高さ: (5.6) 底径: -	雲母・角閃石・ 微砂粒	良好	5 以下	褐色 (7.5YR7/6)	外面露面荒れ、内面横ナデ。
2	須恵器 環	口径: - 高さ: (1.2) 底径: (6.0)	微砂粒	良好	10	褐灰色 (10YR6/1)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。

42 号竪穴建物跡 (第 63 図)

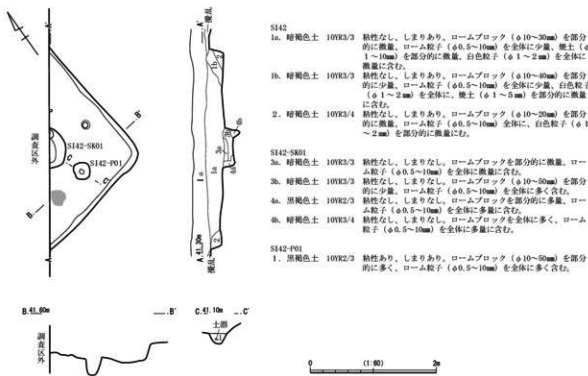
平面位置 AF・AG-78 グリッド

重複関係 なし

遺構形態 遺構は南壁と東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸 2.12 m、短軸 1.625 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.32 m を測る。調査区の南西壁際の床面で硬化土が楕円形で集中して検出されているが、用途は不明である。土坑が壁際中央で 1 基、柱穴が 2 基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕（ハケ調整の甕を含む）、赤彩の土器、片岩製磨石、砂岩製、片岩製の礫などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第63図 42号竪穴建物跡

44号竪穴建物跡(第64~66図、第24表、図版3・9)

平面位置 AC・AD-78グリッド

重複関係 46号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は北壁と西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.645m、短軸1.665m、遺構検出面からの深さは最大で0.1mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。周溝が壁に沿って設けられ、31基の小形の柱穴が連続して検出されているが、何らかの機能的役割を持ったものであろうか。床面では柱穴が3基検出されている。覆土は黒褐色土と暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕(ハケ調整の甕を含む)、坏(須恵器坏蓋模倣)、赤彩の土器、須恵器甕、土製の支脚(第66図1)、緑色岩製の石皿+砥石+敲石(第66図2)、砂岩製の台石、磨石、砂岩製の礫、礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

45号竪穴建物跡(第4・65・67図、第25表、図版9)

平面位置 AD・AE-78・79グリッド

重複関係 46号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は南壁と東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.585m、短軸1.915m、遺構検出面からの深さは最大で0.165mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。貼り床下から土坑が1基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆

積層である。

遺物 遺物は土師器甕（第67図2、その他ハケ調整の甕を含む）、赤彩の土器、坏（須恵器坏蓋模倣）、弥生時代後期の十王台式土器（第67図1）、泥岩の台石、砂岩製礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。

46号竪穴建物跡（第64・65図）

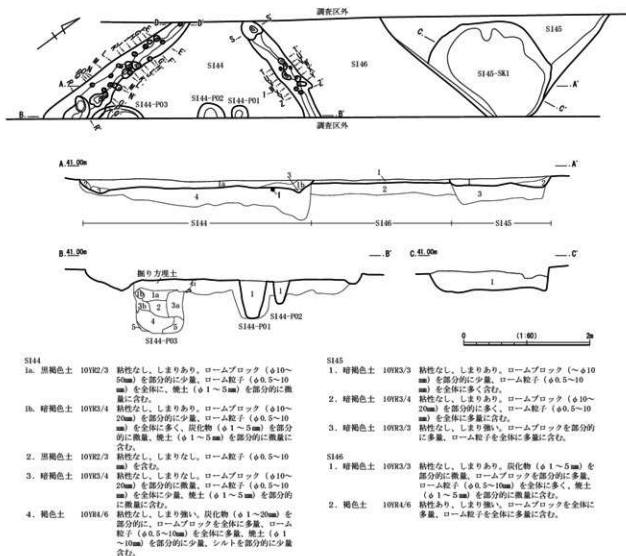
平面位置 AD-78・79、AE-79グリッド

重複関係 44・45号竪穴建物跡より古い。

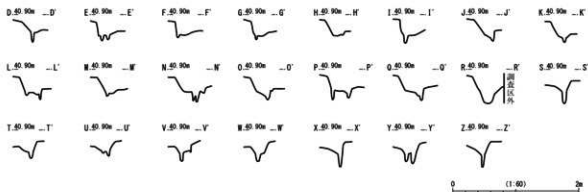
遺構形態 遺構は床面のみを検出で、平面サイズは長軸2.645m、短軸1.665m、遺構検出面からの深さは最大で0.1mを測る。床は踏み締まりが強い硬化した貼り床である。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕が検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期以前と推定される。

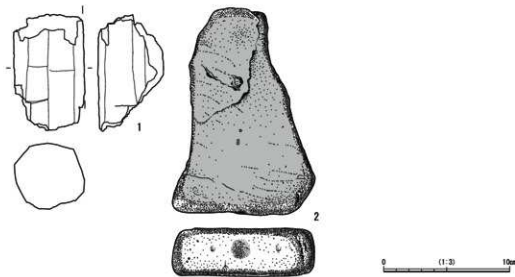


第64図 44・45・46号竪穴建物跡（1）



- S144-P01
 1. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり、炭化物(φ1~10mm)を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
 2. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり、白色粒子(φ0.5~1mm)を部分的に少量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む、焼土(φ3~10mm)を部分的に少量含む。
- S144-P02
 1. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
 3a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり、白色粒子(φ0.5~2mm)を部分的に、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土(φ3~10mm)を部分的に微量に含む。
- S144-P03
 1a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまり強い、白色粒子(φ0.5~1mm)を全体に、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、焼土(φ3~5mm)を部分的に微量、シルト(φ5~10mm)を部分的に少量含む。
 1b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり、白色粒子(φ0.5~1mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、焼土(φ1~3mm)を部分的に微量に含む。
 3b. 褐色土 10YR4/4 粘性なし、しまりあり、白色粒子(φ0.5~1mm)を部分的に少量、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
 4. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり、白色粒子(φ0.5~1mm)を部分的に少量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土(φ3~10mm)を部分的に微量に含む。
 5. 暗褐色土 10YR3/3 粘性あり、しまりあり、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。

第65図 44・45・46号竪穴建物跡(2)

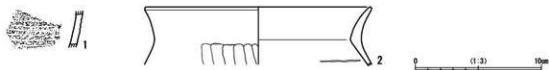


第66図 44号竪穴建物跡出土遺物

第24表 44号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土製品 支脚	長さ:(9.2) 幅:(5.6) 厚さ:(5.2) 重さ:165.8g	雲母・微砂粒	良好	20	明黄褐色 (10YR7/6)	外面縦ケズリ。

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
2	石皿・砥石・敲石	緑色岩	16.4	11.3	3.8	11300	表面平座部は平滑。また下端面中央部に浅い凹あり、その面は研磨痕がなく磨ること可能なため敲石とした。



第 67 図 45 号竪穴建物跡出土遺物

第 25 表 45 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	弥生土器 甕	口径:- 高さ:(3.0) 底径:-	石英・雲母・ 微砂粒	良好	5 以下	浅黄色 (2.5Y7/4)	軸脚不明に R を付加。
2	土師器 甕	口径:(18.0) 高さ:(4.6) 底径:-	白色粒子・雲母・角 閃石・白色針状物質・ 微砂粒	良好	5 以下	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	胴部外面縦ナデ。口縁部内外面強い横 ナデ。

48 号竪穴建物跡 (第 68・69 図、第 26 表、図版 3・4・9)

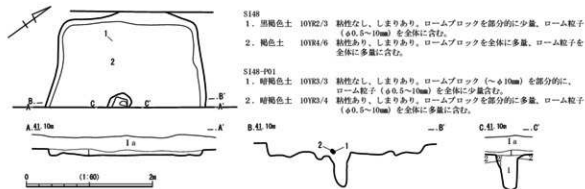
平面位置 AH-81 グリッド

重複関係 なし

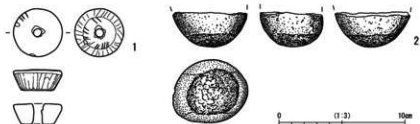
遺構形態 遺構は北西壁、北東壁、南西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸 2.545 m、短軸 1.52 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.27 m を測る。床はほぼ平坦で締まりのある貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。南東側の調査区壁中央付近下の床面で柱穴が 1 基検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕 (ハケ調整の甕を含む)、赤彩の土器、石器は滑石製の紡錘車 (第 69 図 1)、砂岩製敲石 (第 69 図 2)、砂岩製礫片などが検出されている。

時期 出土遺物から古墳時代後期頃と推定される。



第 68 図 48 号竪穴建物跡



第 69 図 48 号竪穴建物跡出土遺物

第 26 表 48 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	石製品 紡錘車	長さ: 3.8 幅: 3.9 厚さ: 1.7 重さ: 38.1g	石英・雲母 (紡錘車)	良好	100	灰色 (N4/O)	孔径 8mm、やや歪む。上下面に擦痕が残る。滑石製
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
2	敲石	砂岩	<2.8>	<5.9>	<5.1>	101.5	上部を大きく欠損。下部に敲打痕。あばた状を呈する。

49 号竪穴建物跡 (第 70 図)

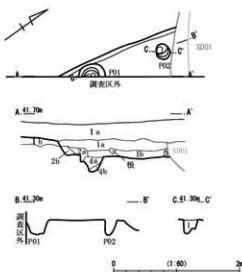
平面位置 AD・AG-78 グリッド

重複関係 1 号溝跡より古い。

遺構形態 遺構は西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸 2.015 m、短軸 0.715 m、検出面からの深さは最大で 0.505 m を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。床面に柱穴が 2 基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕が検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期以降と推定される。



- S149
- 1a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\mu\text{m}$) を部分的に含む。
 - 1b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり、ローム塊 ($\phi 10 \sim 30\mu\text{m}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\mu\text{m}$) を全体に多く含む。
 - 2a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり、ローム塊 ($\phi 10 \sim 20\mu\text{m}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\mu\text{m}$) を部分的に含む。
 - 2b. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり、ローム塊 ($\phi 10 \sim 20\mu\text{m}$) を部分的に微塵に、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\mu\text{m}$) を全体に多く含む。
 3. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。
 - 4a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\mu\text{m}$) を全体に多量に含む。
 - 4b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり、ローム塊 ($\phi 10 \sim 70\mu\text{m}$) を部分的に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\mu\text{m}$) を全体に多量に含む。
- S149-P01
- 4a. に近い黄褐色土 10YR5/4 粘性なし、しまりあり、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\mu\text{m}$) を全体に多量、ローム塊を全体に多く含む。
 - 4b. に近い黄褐色土 10YR5/4 粘性なし、しまりあり、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\mu\text{m}$)、ローム塊を全体に多量含む。
- S149-P02
1. に近い黄褐色土 10YR5/4 粘性なし、しまりあり、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\mu\text{m}$)、ローム塊を全体に多く含む。

第 70 図 49 号竪穴建物跡

50号竪穴建物跡 (第71～74図、第27表、図版4・10)

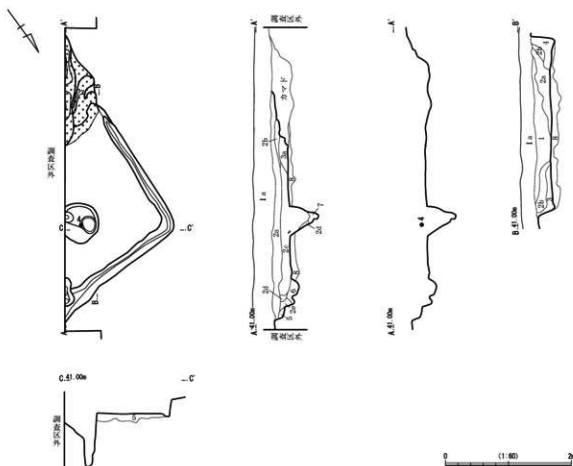
平面位置 AH-81・82、AI-82グリッド

重複関係 なし

遺構形態 遺構は北壁と西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸3.36m、短軸2.0m、遺構検出面からの深さは最大で0.235mを測る。床は踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。竈は西壁の南西角側で検出された隅竈の可能性のある竈である。右袖の一部と煙道の一部が検出され、長軸1.75mを測る。構築材上に土師器鉢(第74図3)が正位で、須恵器蓋(第74図2)が逆位で並んで検出され、その下位に土師器坏(第74図1)が焼成を受けたシルト質土を内側に込めて固定されたような状態で検出された。これら3点の土器は出土状況から意識的な遺棄の可能性がある。構築材は砂質シルト質土であるが、中には直径10cm以下の川原石が強度を保つために念入り混ぜられており、他の住居とは異なっている。燃烧部は確認されていない。柱穴が北壁寄りの床面で1基検出されている。覆土は暗褐色土を主体とし、黒褐色土、褐色土、明褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物散漫に分布しており、土師器の須恵器坏蓋模倣の坏(第74図1)、甕(第74図4)、鉢(第74図3)、須恵器蓋(第74図2)、甕、砂岩、片岩、石英、チャート製の礫片などが検出されている。

時期 出土遺物から古墳時代後期と推定される。



第71図 50号竪穴建物跡(1)

S150

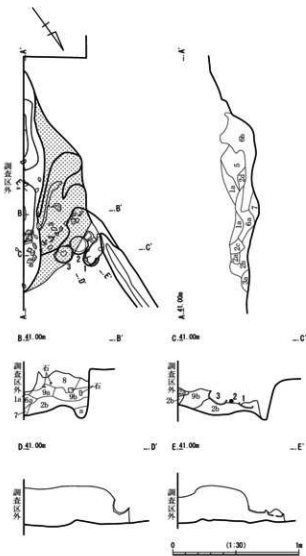
1. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に微量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 30 \text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に少量含む。
- 2a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に微量、ロームブロック ($\sim \phi 10 \text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に少量、焼土 ($\phi 1 \sim 10 \text{mm}$) を部分的に少量含む。
- 2b. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に微量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 20 \text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に微量、焼土 ($\phi 1 \sim 5 \text{mm}$) を部分的に微量に含む。
- 2c. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし、白色粒子 ($\phi 1 \sim 2 \text{mm}$) ・ロームブロック ($\phi 10 \sim 30 \text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に少量、焼土 ($\phi 1 \sim 10 \text{mm}$) を全体に少量含む。
- 2d. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に、ロームブロック ($\phi 10 \sim 20 \text{mm}$) を部分的に、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。
- 2e. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2 \text{mm}$) を全体に少量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 50 \text{mm}$) を部分的に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量、炭化物 ($\phi 5 \sim 10 \text{mm}$) を部分的に含む。

3. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりあり、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多く含む。
- 3a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2 \text{mm}$) を全体に、ロームブロック ($\phi 10 \sim 20 \text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に、焼土 ($\phi 5 \sim 10 \text{mm}$) を部分的に含む。
4. 明褐色土 7.5YR5/6 粘性なし、しまりあり、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に微量、シルトを全体に多量、焼土を全体に微量に含む。
5. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりなし、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。
6. 暗褐色土 10YR3/4 粘性あり、しまりあり、ロームブロック ($\phi 10 \sim 50 \text{mm}$) を部分的に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多く含む。
7. 黄褐色土 10YR5/6 粘性あり、しまりあり、ロームブロック、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。
8. 褐色土 7.5YR4/4 粘性あり、しまり強い、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。

S150-P01

- 2a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に、ロームブロック ($\phi 10 \sim 20 \text{mm}$) を部分的に、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。

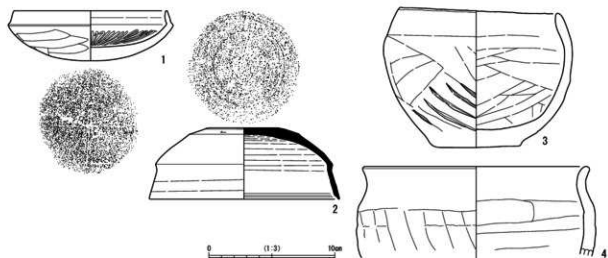
第72図 50号堅穴建物跡(2)



第73図 50号堅穴建物跡カマド

S150 カマド

- 1a. 黄褐色土 10YR5/6 粘性あり、しまり強い、シルトを全体に多量、軽石 ($\phi 5 \sim 20 \text{mm}$) を全体に、焼土 ($\phi 10 \sim 20 \text{mm}$) を部分的に少量含む。
- 2a. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまり強い、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。
- 2b. 褐色土 10YR4/6 粘性強い、しまり強い、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。
- 2c. 黒褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりあり、焼土 ($\phi 10 \sim 20 \text{mm}$) を部分的に少量、シルトを全体に多量に含む。
- 2d. 明赤褐色土 2.5YR5/8 粘性なし、しまり強い、焼土を全体に多量含む。
3. 暗褐色土 10YR3/4 粘性あり、しまりなし、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。
5. 暗褐色土 10YR3/3 粘性あり、しまりなし、シルトを全体に多量、焼土を全体に多量、炭化物 ($\phi 5 \sim 10 \text{mm}$) を部分的に少量、ロームブロック ($\sim \phi 10 \text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多く含む。
- 6a. 暗褐色土 7.5YR2/3 粘性あり、しまりなし、焼土を全体に多く含む。
- 6b. 黒褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりなし、シルト ($\phi 5 \sim 10 \text{mm}$) を部分的に微量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 50 \text{mm}$) を部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に少量、焼土 ($\phi 3 \sim 50 \text{mm}$) を部分的に含む。
7. 暗褐色土 10YR3/3 粘性あり、しまりなし、炭化物 ($\phi 5 \sim 10 \text{mm}$) を部分的に微量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 30 \text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。
8. 黄褐色土 10YR5/6 + 暗褐色土 10YR3/4 粘性あり、しまりあり、ロームブロックを部分的に多く、焼土 ($\phi 5 \sim 20 \text{mm}$) を部分的に少量、シルトを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多く含む。
- 9a. 褐色土 7.5YR4/6 粘性あり、しまり強い、焼土を全体に多量、シルトを全体に多量、軽石 ($\phi 10 \sim 100 \text{mm}$) を部分的に少量含む。
- 9b. 褐色土 10YR4/4 粘性あり、しまり強い、焼土 ($\phi 5 \sim 20 \text{mm}$) を部分的に少量、シルトを全体に多量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 20 \text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に少量含む。
- a. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりあり、ロームブロック・ローム粒子を含む。



第74図 50号竪穴建物跡出土遺物

第27表 50号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 環	口径: 12.2 高さ: 4.0 底径: 13.0	白色粒子・石英・雲母・ 角閃石・ 白色針状物質	良好	100	にふい黄褐色 (10YR6/4)	底部外面ヘラケズリ後、ミガキ。内面 放射状のミガキ。口縁部内外面横ナデ。
2	須恵器 蓋	口径: (5.4) 高さ: (5.6) 底径: 14.9	白色粒子・石英・小礫・ 微砂粒	良好	85	灰白色 (5Y7/1)	左ロケロ。頂部回転ヘラケズリ。頂部 に平行線のヘラ掻きが認められる。
3	土師器 鉢	口径: (12.4) 高さ: 10.9 底径: 6.7	白色粒子・石英・雲母・ 微砂粒	良好	75	明赤褐色 (2.5YR5/6)	胴部外面ナデ。内面黒色塗理。ミガキ。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面に磨痕 がある。砥石として再利用したもの と思われる。
4	土師器 甕	口径: 17.6 高さ: (7.5) 底径: -	石英・雲母・角閃石・ 白色針状物質・微砂 粒	良好	5以下	褐色 (5YR6/6)	胴部外面斜位のケズリ、内面横ナデ。 口縁部内外面強い横ナデ。

51号竪穴建物跡 (第75～77図、第28表、図版4・10)

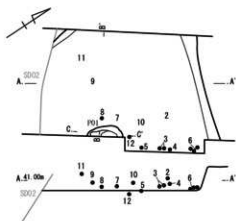
平面位置 AH-59・60グリッド

重複関係 2号溝跡

遺構形態 遺構は北壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸 2.67 m、短軸 1.82 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.385 m を測る。床は締まりがない貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が 1 基検出されている。覆土は暗褐色土を主体とし、褐色土を含む自然堆積層である。

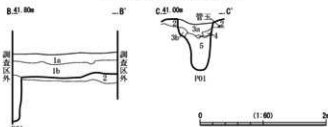
遺物 遺物は覆土中から多く検出されており、単口縁の土師器甕 (第76図7)、甕 (第○図6)、須恵器坏身模倣の坏 (第76図1～3)、須恵器坏蓋模倣の坏 (第76図4)、壺 (第76図5)、高坏の脚部 (第76図9・10)、瓶 (第76図8)、口縁部が直立する鉢 (第77図11)、掘方埋め土出土の碧玉製の管玉 (第77図12)、使用痕が観察されたチャート製の小形磨石 (第77図13)、赤彩の土器、チャート製、砂岩製の礫、石英製、片岩製の礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。

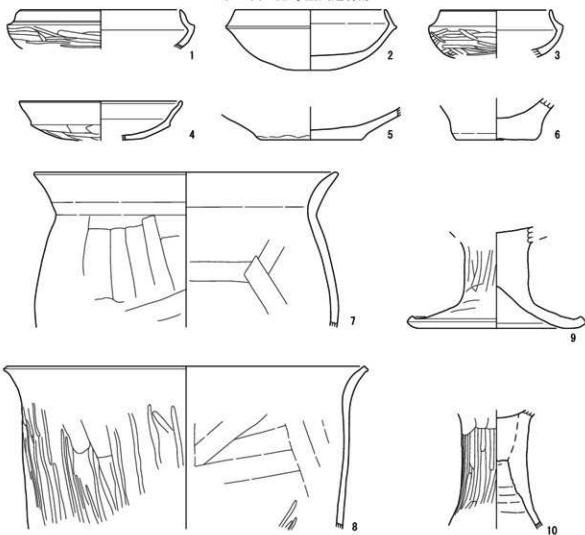


S151

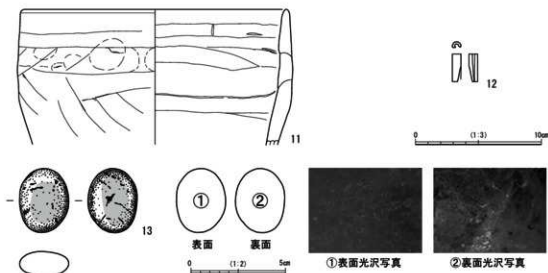
- 1a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2 \text{mm}$) を全体に少量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 70 \text{mm}$)・ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多く含む。
 1b. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。炭化物 ($\phi 3 \sim 10 \text{mm}$) を部分的に微量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 50 \text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を多く、焼土 ($\phi 1 \sim 15 \text{mm}$) を部分的に微量、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2 \text{mm}$) を全体に少量含む。
 2. 黄褐色土 10YR5/6 粘性あり、しまり強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量、炭化物 ($\phi 1 \sim 10 \text{mm}$) を部分的に少量含む。
 3a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし。白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に少量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 30 \text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に少量含む。
 3b. 暗褐色土 10YR3/4 粘性あり、しまりなし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多く含む。
 4. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりなし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。
 5. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。



第75図 51号竖穴建物跡



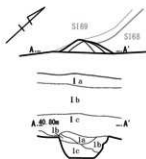
第76図 51号竖穴建物跡出土遺物 (1)



第77図 51号竪穴建物跡出土遺物(2)

第28表 51号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 環	口径:(12.55) 高さ:(3.1) 底径:-	白色粒子・雲母・角閃石・微砂粒	良好	10	明赤褐色 (5YR5/6)	底部外面ヘラケズリ後ミガキ、内面ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。内外面黒色処理。
2	土師器 環	口径:(12.0) 高さ:4.8 底径:(13.5)	白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・白色針状物質・微砂粒	良好	40	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	底部外面ヘラケズリ後、ミガキ、内面ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。
3	土師器 環	口径:(8.6) 高さ:(3.8) 底径:-	石英・雲母・角閃石・白色針状物質・微砂粒	良好	15	褐色 (7.5YR6/6)	底部外面ケズリ後横ナデ。内面ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。
4	土師器 環	口径:(12.6) 高さ:(3.3) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・角閃石・白色針状物質・微砂粒	良好	25	褐色 (5YR6/6)	底部外面中心部ヘラケズリ後、周辺部ヘラケズリ。内面ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。
5	土師器 壺	口径:- 高さ:(2.6) 底径:(8.0)	白色粒子・石英・雲母・白色針状物質・微砂粒	良好	5以下	明赤褐色 (5YR5/6)	胴部下端ナデ、凹凸が認められる。内面ナデ。底部外面ナデ。
6	土師器 甕	口径:(7.4) 高さ:(3.3) 底径:6.2	白色粒子・石英・角閃石・小礫・微砂粒	良好	5以下	褐色 (7.5YR6/6)	内外面ナデ。
7	土師器 甕	口径:(24.0) 高さ:(12.3) 底径:-	白色粒子・雲母・角閃石・白色針状物質・微砂粒	良好	10	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	胴部外面横ケズリ、内面横ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。
8	土師器 甕	口径:(28.4) 高さ:(12.9) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・角閃石・白色針状物質・微砂粒	良好	10	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	胴部外面ケズリ後縦ミガキ、内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。
9	土師器 高杯	口径:- 高さ:12.2 底径:(12.6)	白色粒子・石英・雲母・角閃石・小礫・微砂粒	良好	60	赤色 (10R5/6)	胴部外面縦ナデ、裾部横ナデ。環部及び胴部外面赤彩。
10	土師器 高杯	口径:- 高さ:(9.4) 底径:-	石英・雲母・角閃石・白色針状物質・微砂粒	良好	35	明褐色 (7.5YR5/6)	胴部外面縦ナデ。環部内面赤彩。
11	土師器 鉢	口径:(20.1) 高さ:(10.65) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・角閃石・微砂粒	良好	20	明赤褐色 (2.5YR5/6)	胴部外面ケズリ後、部分的にナデ。内面横ナデ。口縁部指頭痕が残る。外面黒斑が認められる。
12	石製品 碧玉	長さ:3.2 長径:(0.7) 穿口径:- 重さ:0.8 g	碧玉	良好	45	暗オリーブ灰色 (5CY3/1)	片断穿孔。外面ミガキ。碧玉製



- S167
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1 \sim 2$ mm) を部分的に少量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 20$ mm) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に少量含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1 \sim 2$ mm) を全体に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に少量含む。
- 1c. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1 \sim 2$ mm) を部分的に微量、ロームブロック ($\sim \phi 10$ mm) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に微量に含む。



第79図 67号竪穴建物跡

68号竪穴建物跡 (第80図)

平面位置 AN-84グリッド

重複関係 67・69号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は床面のみが検出され、平面サイズは長軸1.63m、短軸1.56m、遺構検出面からの深さは最大で0.385mを測る。床は踏み締まりが強い床である。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。



- S168
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりなし。白色粒子 ($\phi 1 \sim 2$ mm) を全体に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を部分的に少量含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりなし。白色粒子、ロームブロック ($\sim \phi 10$ mm) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に微量、礫土 ($\phi 1 \sim 3$ mm) を部分的に微量に含む。
- 2a. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりなし。白色粒子 ($\phi 1 \sim 2$ mm) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多く含む。
- 2b. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりなし。白色粒子 ($\phi 1 \sim 2$ mm) を全体に少量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 20$ mm) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多く含む。
3. 黒褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1 \sim 3$ mm) を全体に多量、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量、礫土 ($\phi 1 \sim 5$ mm) を部分的に微量に含む。



第80図 68号竪穴建物跡

(3) 土坑

土坑は1基検出されたのみである。

3号土坑 (第81・82図、図版4・10)

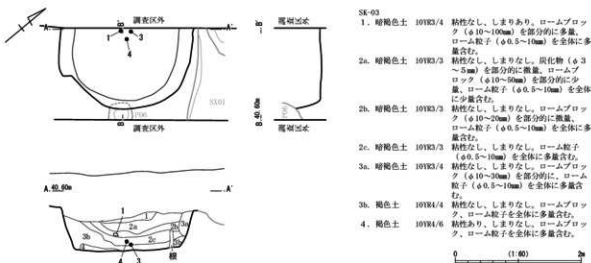
平面位置 T-68・69グリッド

重複関係 1号性格不明遺構より新しく、6号ピットより古い。

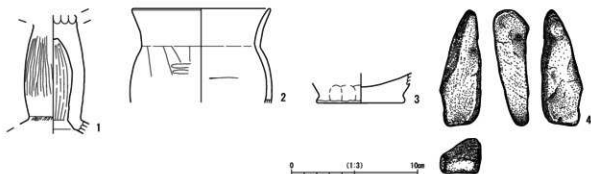
遺構形態 遺構は平面サイズが長軸1.33m、短軸1.26mである。床はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がり、遺構検出面からの深さは最大で0.6mである。覆土は暗褐色土を主体とし、褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器高坏（第82図1）、甕（第82図2・3）、磨石+敲石（第82図4）、砂岩製の礫などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代と推定される。



第81図 3号土坑



第82図 3号土坑出土遺物

第29表 3号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高杯	口径:- 高さ:(9.2) 底径:-	白色粒子・石英・角閃石・微砂粒	良好	30	明赤褐色 (2.5YR5/6)	脚部外面縦ナデ。内面縦り痕が残る。
2	土師器 甕	口径:11.0 高さ:(7.5) 底径:-	白色粒子・石英・角閃石・微砂粒	良好	5以下	灰褐色(5YR4/2)	内外面横ナデ。
3	土師器 甕	口径:- 高さ:(2.4) 底径:7.0	白色粒子・赤色粒子・石英・微砂粒	良好	5以下	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	外面ケズリ。内面ナデ。
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
4	磨石・敲石	緑色岩	9.2	3.3	2.8	96.8	下部部は平端で平滑。その周辺の稜線部に敲行痕がみられる。左下面部部は折れ欠損したが、そのうちも敲行が行われている。

(4) 性格不明遺構

2号性格不明遺構 (第83図)

平面位置 U-69・70 グリッド

重複関係 18号竪穴建物跡、3号性格不明遺構より新しい。

遺構形態 遺構は南南西側では壁が検出されているが形状が不明で、底面が西北西から東南東方向に延び、長軸1.73 m、短軸0.82 m、深さ0.29 mを測る。底面は弧状で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は、土師器甕、手づくね土器、横走る平行沈線文が施された縄文時代前期の興津式土器(第○図5)、砂岩の礫などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。

3号性格不明遺構 (第83図)

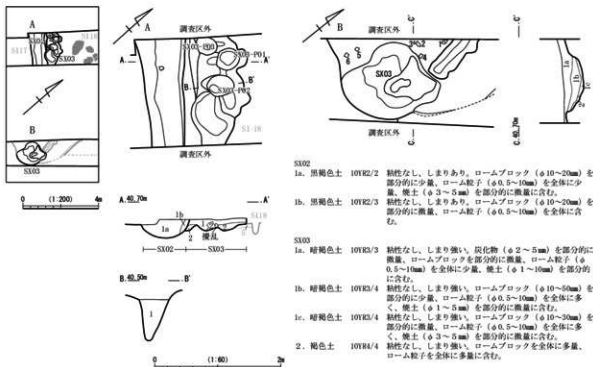
平面位置 U-69・70 グリッド

重複関係 18号竪穴建物跡より新しく、2号性格不明遺構より古い。

遺構形態 北西側は不定形な溝状の掘り込み(最大長1.87 m、最大幅1.14 m、最大深0.17 m)で底面にピットを2基持ち、南東側は不定形な掘り込み(最大長3.82 m、最大幅1.28 m、最大深0.32 m)で、床は部分的に凹凸があり、壁は緩やかから急角度で立ち上がる。ある。覆土は北東側では黒褐色土を主体とし、南東側では暗褐色土を主体とした自然堆積層である。

遺物 遺物は、土師器甕、埴、片岩製の礫器などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



第83図 2・3号性格不明遺構

(5) ピット

4号ピット (第84図)

平面位置 P-64 グリッド

重複関係 9号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、平面形は長楕円形で、長軸0.3 m、短軸0.22 m、深さ0.58 mを測る、覆土は黒褐色土を主体とするが、1a・b層は柱抜き取り痕と推定される。

遺物 遺物は、土師器甕が検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期以降と推定される。

5号ピット (第84・85図、第30表、図版4・11)

平面位置 P・Q-62 グリッド

重複関係 10号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、平面形は楕円形で長軸1.02 m、短軸0.935 m、深さ0.62 mを測り、床面はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は暗褐色土を主体とし、黒褐色土を含む。1a・b層が柱抜き取り痕で、2層が柱埋め土の可能性ある。

遺物 遺物は、土師器甕、砂岩製の礫器+石皿+敲石(第85図1)などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期以降と推定される。

6号ピット (第84図)

平面位置 T-68 グリッド

重複関係 3号土坑より新しい。

遺構形態 遺構は、平面は不定形で、長軸0.4 m、短軸0.32 m、深さ0.32 mを測り、床面は不明で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は、暗褐色土を主体とし、底面に柱の当りと思われる黄褐色土を含む。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代前期以降と推定される。

9号ピット (第86図)

平面位置 S-67 グリッド

重複関係 16号竪穴建物跡、10号ピットより新しい。

遺構形態 以降は、平面形は楕円形で、長軸0.24 m、短軸0.21 m、深さ0.405 mを測り、覆土は黒褐色土の単層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代後期以降と推定される。

10号ピット (第86図)

平面位置 R・S-67・68 グリッド

重複関係 16号竪穴建物跡より新しく、9号ピットより古い。

遺構形態 遺構は、平面形は楕円形で、長軸0.43 m、短軸0.36 m、深さ0.23 mで、覆土は黒褐色

土と暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。

11号ピット (第86図)

平面位置 Y-72グリッド

重複関係 25号竪穴建物跡、6号性格不明遺構より新しい。

遺構形態 遺構は、平面形は不定形で長軸0.345m、短軸0.245m、深さ0.31mで、覆土は黒褐色土と褐色土の自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代と推定される。

12号ピット (第86図)

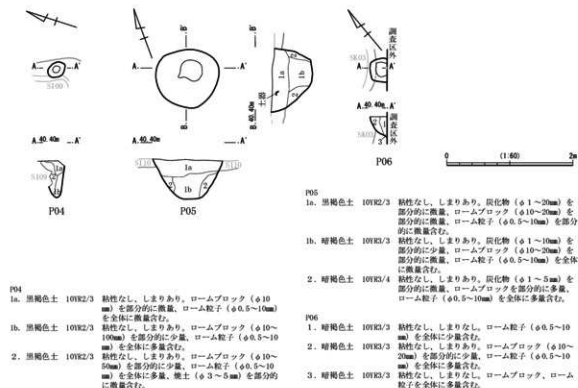
平面位置 Z-73グリッド

重複関係 27号竪穴建物跡、9号土坑より新しい。

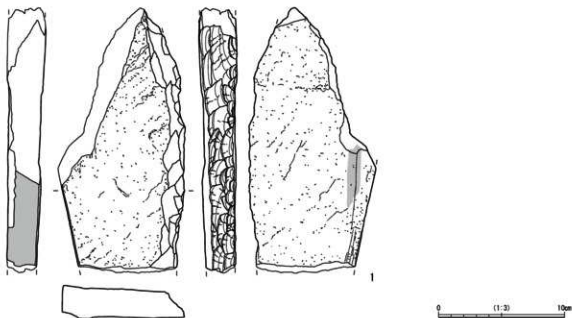
遺構形態 平面形は長楕円形で、長軸0.38m、短軸0.315m、深さ0.635mで、覆土は褐色土の単一層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代と推定される。



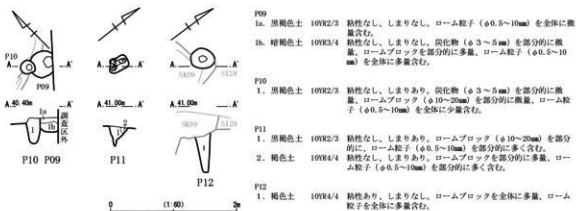
第84図 4・5・6号ピット



第85図 5号ピット出土遺物

第30表 5号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
1	石皿・礮器・砥石	砂岩	<21.0>	<10.1>	<3.0>	796.8	平たい素材で右側縁を連続する剥離を施し、刃としている。右側面下部は砥石として使用か？裏面右下半部にも摩擦著しい部分がある。



第86図 9・10・11・12号ピット

第4節 奈良～平安時代

(1) 遺構の概要

奈良・平安時代の遺構は、竪穴建物跡

竪穴建物跡16軒、溝跡1条、土坑1基、性格不明遺構1基などが検出されている。遺構は、調査区南西から北東の範囲に散発的に分布している。

(2) 竪穴建物跡

2号竪穴建物跡(第87～89図、第31表、図版5・11)

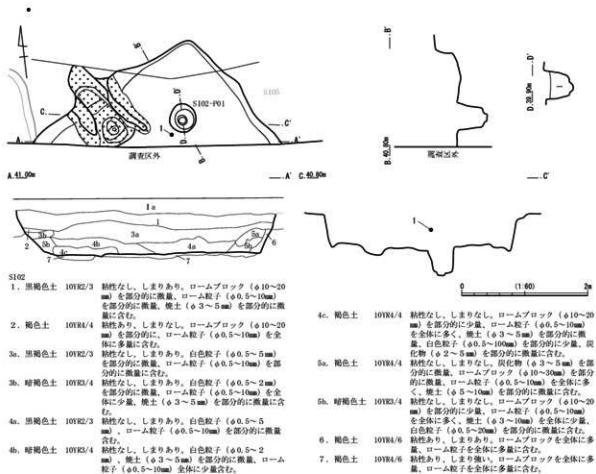
平面位置 P-61・62グリッド

重複関係 4・5号竪穴建物跡より新しい。

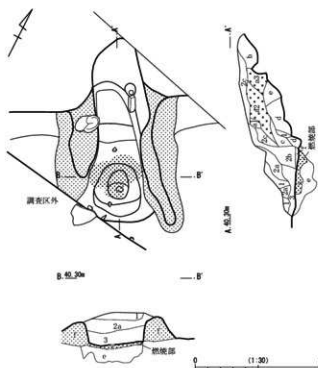
遺構形態 遺構は北壁と東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.985m、短軸1.91m、遺構検出面からの深さは最大で0.69mを測る。床はほぼ平坦で硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。北壁中央に竈が設置され、焚口から煙道まで1.465mを測る。竈の構築材はシルト質土である。柱穴が1基検出されている。覆土は黒褐色土と褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕、坏(第89図1)、須恵器甕、碟、碟片などが検出されている。

時期 出土遺物と他の遺構との切り合い関係から奈良時代以降と推定される。



第87図 2号竪穴建物跡



第88図 2号竪穴建物跡カマド



第89図 2号竪穴建物跡出土遺物

第31表 2号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種類・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 環	口径: (16.0) 高さ: 5.1 底径: .	石英	良好	30	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	底部外面中央部ヘラケズリ後、周辺部ヘラケズリ。口縁部内外面強い横ナデ。

5号竪穴建物跡 (第90図)

平面位置 P-62

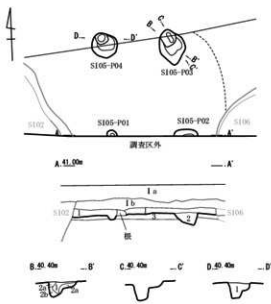
重複関係 2・6号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は掘方が浅く、床面のみの検出で、平面サイズは長軸2.625m、短軸1.73m、遺構検出面からの深さは最大で0.13mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりのある貼り床である。柱穴が南壁下で2基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕が検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から奈良時代以降と推定される。

- S102 カマド
1. 黄褐色土 10R5/6 粘性あり、しまりあり。焼土(φ2~10mm)を全体に少量含む。
 - 2a. 暗褐色土 10R3/4 炭化物を部分的に、焼土(φ2~5mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
 - 2b. 暗褐色土 10R3/3 ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、ローム塊(φ10~20mm)、焼土(φ1~2mm)、炭化物を部分的に微量含む。
 - 2c. 暗褐色土 10R3/4 ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、ローム塊(φ10~20mm)、焼土(φ2~10mm)を部分的に微量、炭化物を含む。
 3. 暗褐色土 10R3/4 粘性なし、しまり強い、シルトを全体に多量含む。
 - a1. 暗褐色土 10R3/4 粘性なし、しまりなし、シルトを全体に多量、炭化物(φ1~3mm)、焼土(φ3~5mm)を部分的に微量含む。
 - a3. 暗褐色土 10R3/4 粘性なし、しまり強い、シルトを全体に多く含む。
 - b. 褐色土 10R4/6 粘性なし、しまりあり、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、ローム塊(φ10~20mm)を部分的に少量含む。
 - c. 黒褐色土 10R2/3 粘性なし、しまりあり、ローム粒子(φ0.5~10mm)、焼土(φ1~20mm)、シルト全体に多く含む。
 - d. 暗褐色土 10R3/4 粘性なし、しまりあり、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量を含む。
 - e. 暗褐色土 10R3/4 粘性なし、しまりあり、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量を含む。
 - f. 黒褐色土 10R2/3 粘性なし、しまりなし、ロームブロックを全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
 - g. 暗赤褐色土 5R3/5 粘性なし、しまりなし、焼土を全体に多量、ローム塊を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。



第90図 5号竪穴建物跡

- S105
1. 暗褐色土 10YR3/3 粘性あり、しりりあり。ロームブロック (φ10~20mm)、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を部分的に少量含む。
 2. 黒褐色土 10YR3/2 粘性あり、しりりあり。ロームブロック (φ10~50mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を部分的に含む。
 3. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しりりあり。ロームブロック (φ10~50mm)、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
- S105-P04
1. 暗褐色土 10YR3/3 粘性あり、しりりあり。ローム塊 (φ10~20mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
- S105-P05
1. 黒褐色土 10YR3/2 粘性あり、しりりあり。ローム塊 (φ10~50mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を部分的に少量、焼土 (φ1~3mm) を部分的に微量含む。
 - 2a. 黄褐色土 10YR5/6 粘性あり、しりりあり。ローム塊、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量含む。
 - 2b. 暗褐色土 10YR3/4 粘性あり、しりりあり。ローム塊 (φ10~50mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。

16号竪穴建物跡 (第91~93図、第32表、図版11)

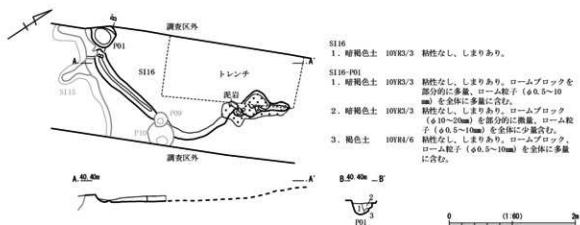
平面位置 R-67、S-67・68グリッド

重複関係 15号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は、東窓と東壁、西壁の一部と床と南壁が検出され、平面サイズは長軸2.5m、短軸1.2m、遺構検出面からの深さは最大で0.085mを測る。床はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、南壁には周溝が形成されている。床面の西側で柱穴が1基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。竈は東壁の中央部付近に設けられているが、試掘溝の掘削により半分以上が破壊されている。竈の構築材はシルト質土を使用しており、部分的に泥岩を使用している。覆土は褐色土が堆積している。

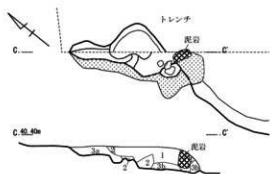
遺物 遺物は土師器甕 (第93図1)、礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から奈良時代と推定される。



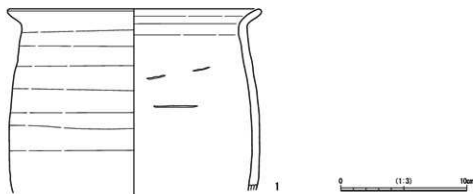
第91図 16号竪穴建物跡

- S116
1. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しりりあり。
- S116-P01
1. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しりりあり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。
 2. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しりりあり。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
 3. 褐色土 10YR4/6 粘性なし、しりりあり。ロームブロック、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。



- S116 カマド
1. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりなし。焼土(φ1~10mm)を全体に多量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に微量を含む。
2. 褐色土 10YR4/4 粘性なし、しまりなし。焼土(φ1~5mm)を部分的に微量、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量を含む。
- 3a. 褐色土 10YR4/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量、焼土(φ1~5mm)を部分的に微量を含む。
- 3b. 褐色土 10YR4/6 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土(φ1~5mm)を部分的に微量を含む。

第92図 16号竪穴建物跡カマド



第93図 16号竪穴建物跡出土遺物

第32表 16号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径:(20.0) 高さ:(14.4) 底径:.	白色粒子・石英・藍母・小礫	良好	10	褐色 (5YR6/6)	胴部内外面横ナデ、その後口縁部内外面強い横ナデ。

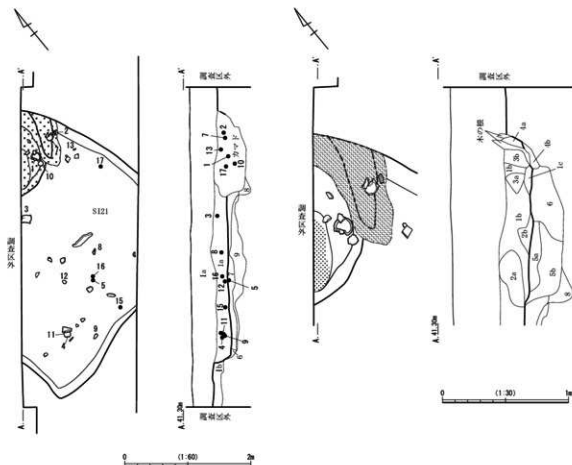
21号竪穴建物跡 (第94・95図、第33表、図版11)

平面位置 W・X-71グリッド

重複関係 なし

遺構形態 遺構は、南壁、西壁、東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.875m、短軸2.4m、遺構検出面からの深さは最大で0.285mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりのない貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。竈が東壁北よりから調査区北東壁付近で部分的に検出されている。竈の構築材はシルト質土を基層として使用し、右袖のみが検出され焚口から煙道付近までの天井部は破壊されている。竈内から土師器甕破片が検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は、覆土と床面から散漫に分布している。土師器ロク口成形の坏(第95図1)、高台付坏(第95図2)、甕(第95図3~5・8・9・11)、甌(第95図4)、鉢(第95図10)、須恵器壺(第95図6・7)、甕(第95図12)、土製品の紡錘車(第95図13)、円形の耳飾り状の土製品(第95図14)、砂岩製の砥石(第95図15)、鉄鏝(第95図16)、刀子(第95図17)、などが検出されている。

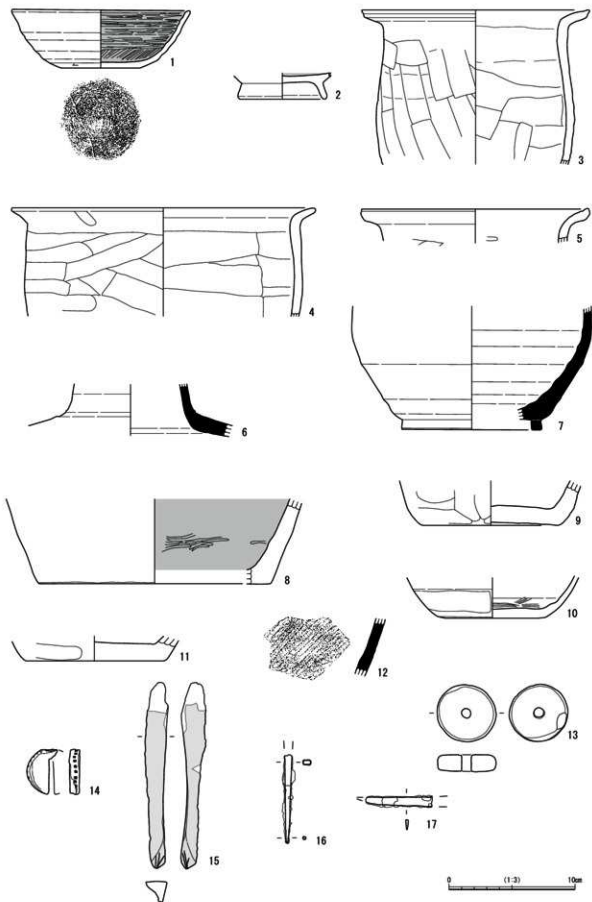


S121

- 1a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。炭化物(φ1~50mm)を全体に多く、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、焼土(φ1~20mm)を全体に少量、シルト(φ1~30mm)を部分的に少量含む。
- 1b. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまり強い。炭化物(φ1~10mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ1~10mm)を部分的に少量、シルト(φ1~30mm)を部分的に微量に含む。
- 1c. 褐色土 10YR4/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
- 2a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし。焼土(φ1~10mm)を全体に多量、炭化物(φ1~50mm)を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に少量含む。
- 2b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。焼土(φ1~10mm)を全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、炭化物(φ1~5mm)を部分的に微量、シルト(φ1~30mm)を部分的に少量含む。
- 3a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。炭化物(φ1~15mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を部分的に少量、焼土(φ1~5mm)を全体に多く、シルト(φ1~10mm)を部分的に少量含む。
- 3b. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし。炭化物(φ1~5mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、焼土(φ1~5mm)を部分的に微量、シルト(φ1~10mm)を部分的に微量に含む。

- 4a. 褐色土 10YR4/5 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土(φ1~10mm)を部分的に少量、シルト(φ1~10mm)を部分的に少量含む。
- 4b. 褐色土 10YR4/5 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量、焼土(φ1~5mm)を部分的に微量に含む。
- 5a. 褐色土 7.5YR4/6 粘性なし、しまり強い。焼土を全体に多量、シルト(φ1~20mm)、灰を部分的に多量に含む。
- 5b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土(φ1~20mm)を全体に、シルト(φ10~30mm)を部分的に少量含む。
6. 褐色土 10YR4/4 粘性なし、しまりあり。シルトを全体に多く、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、焼土(φ1~5mm)を部分的に少量含む。
7. 褐色土 10YR4/6 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、シルト(φ1~30mm)を部分的に少量含む。
8. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりなし。ロームブロック(φ10~60mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に微量に含む。
9. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまり強い。炭化物(φ1~10mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~70mm)を部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土(φ1~20mm)を部分的に微量、シルトを部分的に多く含む。

第94図 21号竪穴建物跡



第95图 21号竖穴建物跡

第33表 21号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版 番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 環	口径: 14.0 高さ: 4.6 底径: 6.2	雲母・小礫・微砂粒	良好	100	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	内外面ロクロナデ。底部外面回転糸切り後、裏面回転ヘラケズリ。内面黒色処理後、細かなミガキ。
2	土師器 高台付環	口径: - 高さ: (2.1) 底径: 7.1	雲母・白色針状物質・微砂粒	良好	20	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	高台部貼り付け。環部内面黒色処理後、ミガキ。
3	土師器 襷	口径: (18.0) 高さ: (12.2) 底径: -	雲母・小礫・微砂粒	良好	10	にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	胴部外面斜位のナデ後、最上段横ナデ、内面横ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。常陸型襷。
4	土師器 散	口径: (24.0) 高さ: (8.6) 底径: -	石英・雲母・微砂粒	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	胴部外面斜位及び横ナデ、内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。
5	土師器 襷	口径: (16.0) 高さ: (2.8) 底径: -	雲母・小礫	良好	5以下	弱赤褐色 (5YR5/6)	口縁部内外面強い横ナデ。常陸型襷。
6	須恵器 壺	口径: - 高さ: (4.1) 底径: -	角閃石・微砂粒	良好	10	黄灰色 (2.5Y5/1)	内外面ロクロナデ。胴部に自然輪がかかる。
7	須恵器 壺	口径: - 高さ: (9.8) 底径: (11.0)	石英	良好	10	暗黄褐色 (2.5Y5/2)	甕輪整形後、高台部貼り付け。外面胴部に自然輪がかかる。
8	土師器 襷	口径: - 高さ: (6.4) 底径: (18.2)	石英・雲母・角閃石・微砂粒	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	外面縦ケズリ。内面黒色処理後、細かな横ミガキ。
9	土師器 襷	口径: (13.4) 高さ: (3.7) 底径: 10.6	白色粒子・石英・角閃石・微砂粒	良好	10	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	外面胴部下端ケズリ。底部内外面ナデ。
10	土師器 鉢?	口径: - 高さ: (3.4) 底径: 8.4	角閃石・小礫・微砂粒	良好	15	褐灰色 (7.5YR4/1)	胴部外面ナデ、内面細かなミガキ。底部外面ヘラケズリ。
11	土師器 襷	口径: - 高さ: (2.0) 底径: (11.0)	石英・雲母・角閃石・微砂粒	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	内外面ナデ。
12	須恵器 襷	口径: - 高さ: (4.8) 底径: -	石英・微砂粒	良好	5以下	黄灰色 (2.5Y6/1)	外面平行線状のタタキ。
13	土製品 紡錘車	長さ: 4.5 幅: 4.6 厚さ: 1.3 重さ: 32.0g	白色粒子・石英	良好	100	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	側面に指頭痕を残す。
14	土製品 耳飾?	長さ: (3.55) 幅: (2.4) 厚さ: (0.9) 重さ: 6.5g	石英・角閃石	良好	50	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	扁平で平面形は円形を呈し、中央部分に切り込みを入れる。側面は櫛状工具による刺突が通る。
15	石製品 砥石	長さ: (14.8) 幅: (1.9) 厚さ: (2.0) 重さ: 38.1g	なし			灰黄褐色 (10YR6/2)	2面を使用、長軸方位で破砕している。砂岩。
16	鉄製品 鉄鏃	長さ: (7.0) 幅: (0.7) 厚さ: (0.35) 重さ: 7.9g	鉄製品			赤褐色 (2.5YR4/6)	端部は丸みを帯びる。
17	鉄製品 刀子?	長さ: (5.3) 幅: (0.8) 厚さ: (0.2) 重さ: 4.6g	鉄製品			赤褐色 (5YR4/6)	断面三角形を呈することから刀子と考えられる。二個体以上が付着したものが。

時期 出土遺物から平安時代（9世紀中頃）と推定される。

23号竪穴建物跡 (第96・97図、第34表、図版12)

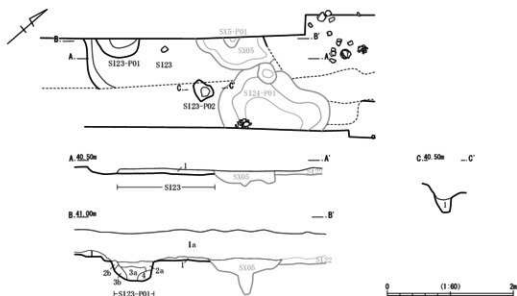
平面位置 U・V-71・72グリッド

重複関係 22・24号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は南西壁付近と床が検出され、平面サイズは長軸2.475m、短軸0.8m、遺構検出面からの深さは最大では0.06mを測る。床はほぼ平坦で踏み縮まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が南西壁際の床面から1基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は、高坏 (第97図1)、土師器の常陸型甕 (第97図2)、高台付坏 (第97図3)、礫片 (砂岩、片岩) などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



S123 A-A'

1. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまり強い、ロームブロック (φ10~30mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。

2b. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。焼土 (φ1~3mm) を部分的に微量、ロームブロック、ローム粒子を全体に多量含む。

S123 B-B'

1. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり、白色粒子 (φ0.5~2mm) を部分的に、ロームブロック (φ10~30mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量含む。

3a. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり、ロームブロック (φ10~30mm)、焼土 (φ1~2mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に含む。

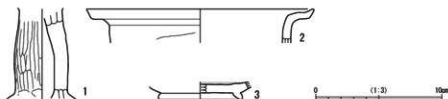
3b. 暗褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり、ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。

2a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり、白色粒子 (φ0.5~2mm)、灰化物 (φ1~2mm) を部分的に微量、ロームブロック (φ10~30mm) を部分的に、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。

4. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を全体に多量含む。

S123-P02
1. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を全体に多量含む。

第96図 23号竪穴建物跡



第97図 23号竪穴建物跡出土遺物

第34表 23号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高杯	口径:- 高さ:(7.2) 底径:-	雲母・角閃石・白色 針状物質・小礫・微 砂粒	良好	40	褐色 (5YR6/6)	底部外面縦ミガキ。内面絞り痕の痕跡 が認められる。
2	土師器 甕	口径:(18.0) 高さ:(3.0) 底径:-	白色粒子・雲母・角 閃石・微砂粒	良好	5以下	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	口縁部内外面強い横ナズ。常陸型甕。
3	土師器 杯	口径:- 高さ:(1.4) 底径:(6.5)	白色粒子・赤色粒子・ 雲母・白色針状物質・ 微砂粒	良好	15	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	底部外面回転系切り後、高台貼り付け。 内面黒色処理後ミガキ。

33号竪穴建物跡 (第98～100図、第35表、図版5・12)

平面位置 AA・AB-76グリッド

重複関係 34号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は北壁と西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸3.045m、短軸1.695m、遺構検出面からの深さは最大で0.105mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。竈は北壁に設けられ、焚口から煙道までの天井部が破壊され、右袖のみが残されている。竈の構築材はシルト質土を使用しており、燃焼部は焼成が良好で赤化、硬化している。柱穴が竈右際と北西壁際で3基検出されている。覆土は暗褐色土を主体とし、褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 出土遺物は散漫に出土しているが、土師器甕 (第100図1・2)、甕 (第100図3)、須恵器甕、器種不明の鉄製品、片岩製の砥石、緑色岩製の磨石・敲石 (第100図4)、縄文施文の縄文時代中期の縄文土器、礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代 (9世紀前半) と推定される。

34号竪穴建物跡 (第98・101図、第36表、図版12)

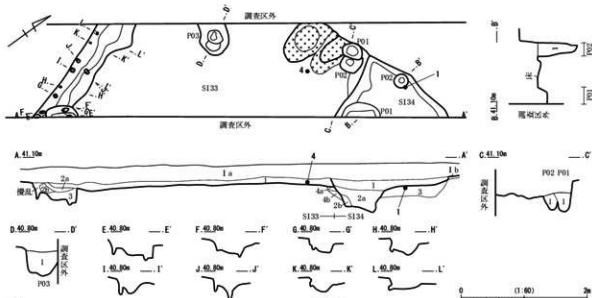
平面位置 AC-76グリッド

重複関係 33号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は北壁と西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.55m、短軸1.115m、遺構検出面からの深さは最大で0.01mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが弱い貼り床である。柱穴が2基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕 (第101図1・2) が検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代以前と推定される。



- SI33
1. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。炭化物(φ1~2mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、白色粒子(φ0.5~2mm)を全体に含む。
 - 2a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、白色粒子(φ0.5~2mm)を全体に少量含む。
 - 2b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に含む。
 3. 褐色土 10YR4/6 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
 - 4a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまり強い。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
 - 4b. 赤い・黄褐色土 10YR4/7 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。

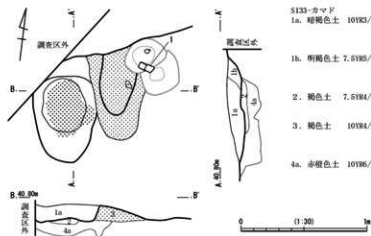
- SI33-P01
1. 暗褐色土 10YR3/4 粘性あり、しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量、焼土(φ1~5mm)を部分的に含む。

- SI33-P02
1. 暗褐色土 10YR3/4 粘性あり、しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量、焼土(φ1~10mm)を部分的に微量含む。
- SI33-P03
1. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量含む。

- SI34
1. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子(φ0.5~2mm)を全体に、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ1~5mm)を部分的に微量含む。
 - 2a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、白色粒子(φ0.5~2mm)を全体に含む。
 - 2b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、白色粒子(φ0.5~2mm)を全体に含む。
 3. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、焼土(φ1~20mm)を部分的に少量、シルト(φ1~50mm)を部分的に多く、炭化物(φ1~20mm)を部分的に微量に含む。

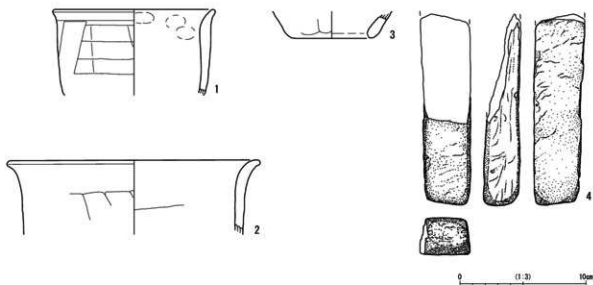
- SI34-P02
1. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量に含む。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に含む。

第98図 33・34号竪穴建物跡



- SI33-カマド
- 1a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。炭化物(φ1~10mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、焼土、シルト(φ1~30mm)を全体に多量に含む。
 - 1b. 明褐色土 7.5YR5/6 粘性なし、しまりあり。炭化物(φ1~10mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土を全体に多く、シルトを全体に少量含む。
 2. 褐色土 7.5YR4/6 粘性なし、しまり強い。焼土を全体に多量、炭化物(φ1~20mm)を部分的に少量、シルトを部分的に含む。
 3. 褐色土 10YR4/4 粘性あり、しまり強い。シルトを全体に多量、炭化物(φ1~10mm)を全体に、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、焼土(φ1~20mm)を全体に多く含む。
 - 4a. 赤褐色土 10YR6/8 粘性なし、しまり強い。焼土部、焼土を全体に多量に、炭化物(φ5~10mm)を部分的に少量含む。

第99図 33号竪穴建物跡カマド



第100図 33号竪穴建物跡出土遺物

第35表 33号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径:(12.6) 高さ:(6.7) 底径:-	石英・雲母・角閃石・ 白色針状物質・微砂 粒	良好	5以下	橙色 (5YR6/6)	胴部外面横ケズリ、内面横ナデ。口縁 部内外面強い横ナデ。
2	土師器 甕	口径:(19.6) 高さ:(5.9) 底径:-	赤色粒子・石英・雲母・ 角閃石	良好	5以下	にふい黄橙色 (10YR6/4)	胴部外面縦ケズリ、内面横ナデ。口縁 部内外面横ナデ。
3	土師器 甕	口径:- 高さ:(2.1) 底径:(6.0)	白色粒子・石英・角 閃石・白色針状物質・ 微砂粒	良好	5以下	橙色 (7.5YR6/6)	外面斜位のケズリ。黒斑が認められる。
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
4	磨石・敲石	緑色岩	<15.1>	<4.0>	<2.8>	261.5	下端部やその周辺部に敲打痕や平滑面がみられる。



第101図 34号竪穴建物跡出土遺物

第36表 34号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径:(14.6) 高さ:(5.0) 底径:-	白色粒子・赤色粒子・ 石英・角閃石・白色 針状物質・ 微砂粒	良好	5以下	明黄褐色 (10YR7/6)	胴部外面斜位のケズリ、内面横ナデ。 口縁部内外面強い横ナデ。
2	土師器 甕	口径:(12.0) 高さ:(4.9) 底径:-	白色粒子・赤色粒子・ 石英・雲母・白色針 状物質・ 微砂粒	良好	5以下	明赤褐色 (5YR5/6)	胴部外面縦ケズリ、内面横ナデ。口縁 部内外面強い横ナデ。

35号竪穴建物跡 (第102・103図、第37表、図版12)

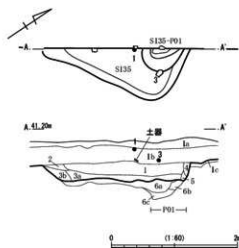
平面位置 AC-75・76グリッド

重複関係 なし

遺構形態 遺構は北東壁と南西壁と床が部分的に検出され、平面サイズは長軸1.77 m、短軸0.89 m、遺構検出面からの深さは最大で0.335 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある貼り床で、壁は西側では緩く、北東壁では急角度で立ち上がる。北西壁際の床面で柱穴が1基検出されている。覆土は褐色土を主体とし、にぶい黄褐色土と暗褐色土を含む自然堆積層である。

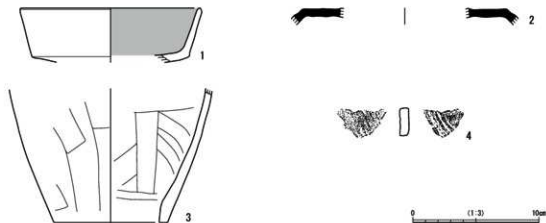
遺物 遺物は土師器甕、ロクロ成形の坏、高台付坏 (第103図1)、甌 (第103図3)、須恵器坏、蓋 (第103図2)、甕 (第103図4) などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



- S135
1. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。炭化物 ($\phi 1 \sim 20\text{mm}$) を部分的に少量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に、焼土 ($\phi 1 \sim 25\text{mm}$) を部分的に少量、シルト ($\phi 1 \sim 20\text{mm}$) を部分的に微量を含む。
 2. 褐色土 10YR4/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量を含む。
 3. にぶい黄褐色土 10YR4/3 粘性なし、しまりあり。炭化物 ($\phi 1 \sim 10\text{mm}$) を部分的に微量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量、焼土 ($\phi 1 \sim 5\text{mm}$) を部分的に微量、シルト ($\phi 1 \sim 20\text{mm}$) を部分的に微量を含む。
 - 3b. 褐色土 10YR4/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 50\text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多量を含む。
 4. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量を含む。
 5. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に含む。
 6. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。炭化物 ($\phi 1 \sim 5\text{mm}$) を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多量、焼土 ($\phi 1 \sim 10\text{mm}$) を部分的に微量を含む。
 - 6b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多く含む。
 - 6c. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし、ロームブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多量を含む。

第102図 35号竪穴建物跡



第103図 35号竪穴建物跡出土遺物

第37表 35号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高台付杯	口径:(14.0) 高さ:(4.3) 底径:-	雲母・角閃石・ 白色針状物質・ 微砂粒	良好	25	にぶい黄褐色 (10YR/7.4)	内外面横ナデ。内面黒色処理。羅かな ミガキ。
2	須恵器 蓋	口径:- 高さ:(1.3) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・ 白色針状物質・微砂 粒	良好	5以下	灰色 (5Y6/1)	内外面ロクロナデ。
3	土師器 甌	口径:- 高さ:(10.7) 底径:9.0	白色粒子・石英・雲母・ 角閃石・小礫・微砂 粒	良好	5以下	明赤褐色 (5YR5/6)	外面縦ケズリ後ナデ、下部端横ナデ。 内面斜位及び縦ナデ、下部端横ナデ。
4	須恵器 甌	口径:- 高さ:(2.5) 底径:-	白色粒子・石英・角 閃石・微砂粒	良好	5以下	灰色 (5Y6/1)	外面平行線状のタタキ。内面同心円状 の当て具痕が残る。

37号竪穴建物跡 (第104・105図、第38表、図版12)

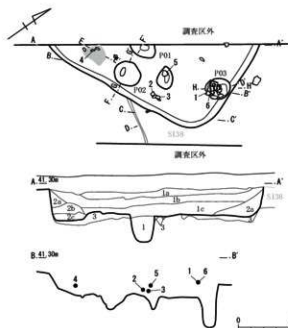
平面位置 AD-76・77、AE-77グリッド

重複関係 38号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は南東壁と北東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.685m、短軸1.51m、遺構検出面からの深さは最大で0.445mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が4基検出されている。北西隅の覆土内で最大径0.41mのシルト質土の塊が検出されたが用途は不明である。覆土は暗褐色土を主体として黒褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、散漫に分布するが、ピット3上で土師器甕破片が集中して出土しており、土師器ハケ調整の甕 (第105図1・5・6)、ロクロ成形の杯 (第105図2・3)、須恵器杯 (第105図4)、単節縄文施文の縄文土器などが検出されている。

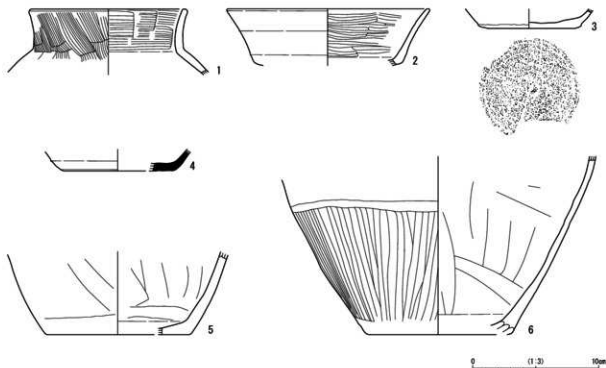
時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



第104図 37号竪穴建物跡

S137

- 1a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。白色粒子 (φ0.5~2mm) を全体に、炭化物 (φ1~5mm) を部分的に微量。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に微量。ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
- 1b. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。白色粒子 (φ0.5~2mm) を全体に、炭化物 (φ1~5mm) を部分的に微量。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に微量。ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く、焼土 (φ2~10mm) を部分的に微量に含む。
- 1c. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。白色粒子 (φ0.5~2mm) を全体に少量。炭化物 (φ1~5mm) を部分的に微量。ロームブロック (φ10~100mm) を部分的に少量。ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く、焼土 (φ3~10mm) を部分的に微量。シルトを部分的に多量に含む。
- 2a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。白色粒子 (φ0.5~2mm) を全体に、ロームブロック (φ10~100mm) を部分的に微量。ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く、焼土 (φ1~5mm) を部分的に微量に含む。
- 2b. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子 (φ0.5~2mm) を全体に少量。ロームブロック (φ10~100mm) を全体に少量。ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く、焼土 (φ1~5mm) を部分的に少量含む。
- 2c. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。白色粒子 (φ0.5~2mm) を部分的に微量。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量。ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量。焼土を含む。
3. 黄褐色土 10YR5/8 粘性あり、しまり強い。ロームブロックを全体に多量。ローム粒子を全体に多量に含む。



第105図 37号竪穴建物跡出土遺物

第38表 37号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 鉢	口径: (12.0) 高さ: (5.0) 底径: -	石英・微砂粒	良好	5以下	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面ハケ調整。内面横ハケ調整。
2	土師器 環	口径: (15.8) 高さ: (4.2) 底径: -	雲母・角閃石	良好	10	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	内外面横ナデ。内面黒色処理。細かなミガキ。
3	土師器 環	口径: - 高さ: (1.55) 底径: 7.0	赤色粒子・石英・白色針状物質	良好	30	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	内外面ロクロナデ。底部外面全面回転ヘラケズリ。
4	土師器 環	口径: - 高さ: (1.7) 底径: (8.6)	雲母・角閃石・微砂粒	良好	10	橙色 (7.5YR7/6)	内外面横ナデ。
5	土師器 鉢	口径: - 高さ: (6.6) 底径: (12.0)	角閃石・微砂粒	良好	5以下	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	外面斜位のケズリ。内面斜位のナデ。
6	土師器 鉢	口径: - 高さ: (14.0) 底径: (11.0)	石英・雲母・角閃石・白色針状物質・小礫・微砂粒	良好	25	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	外面縦ミガキ。内面横ナデ。

53号竪穴建物跡 (第106図)

平面位置 AJ-81グリッド

重複関係 54・55・57号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は北壁、西壁の一部、北西角と床が検出され、平面サイズは長軸1.1m、短軸0.515m、遺構検出面からの深さは最大で0.55mを測る。床は踏み締まりが強く硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が床面で1基検出されている。覆土は黒褐色土を主体とし、暗褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。

54号竪穴建物跡 (第106・107図、第39表、図版12)

平面位置 AJ・AK-81グリッド

重複関係 55・57号建物跡より新しく、53号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は北壁、南壁、西壁と南西角と床が検出され、平面サイズは長軸1.9m、短軸1.445m、遺構検出面からの深さは最大で0.415mを測る。床は踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。北西角の床面から柱穴が基検出されている。覆土は黒褐色土を主体とし、黒色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕(ハケ調整の甕を含む)、ロクロ成形の内面黒色処理の坏(第107図1)、赤彩の土器などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。

57号竪穴建物跡 (第106図)

平面位置 AJ-81グリッド

重複関係 55・58号竪穴建物跡より新しく、53・54号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は南西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.11m、短軸0.37m、遺構検出面からの深さは最大で0.265mを測る。床は踏み締まりのある貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は黒褐色土を主体とし、黒色土を含む自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。

58号竪穴建物跡 (第106図)

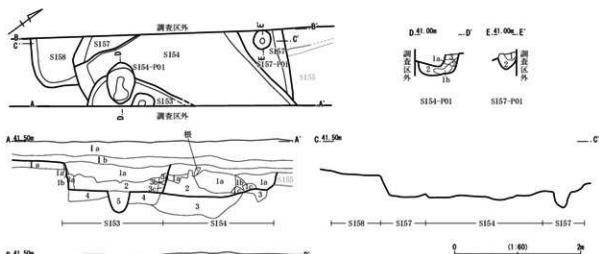
平面位置 AJ-81グリッド

重複関係 53～55・57号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は南西壁、南東壁の一部と南東角が検出され、平面サイズは長軸0.785m、短軸0.65m、遺構検出面からの深さは最大で0.1mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は褐色土の自然堆積層である。

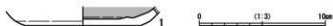
遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しりりあり、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
- 1c. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しりりあり、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
2. 黒色土 10YR1.7/1 粘性なし、しりりあり、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を全体に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を部分的に多く含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しりり強い、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に含む。
- S157
- 1a. 黒色土 10YR2/1 粘性なし、しりりあり、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 3\text{mm}$) を全体に多く、ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しりりあり、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 3\text{mm}$) を全体に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多く、糞土 ($\phi 1 \sim 3\text{mm}$) を部分的に少量含む。
- 1c. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しりりあり、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 3\text{mm}$) を全体に多量に含む。
2. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しりりあり、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。
- S157-P01
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しりり強い、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を全体に少量、赤色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を全体に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
2. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しりり強い、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を全体に少量、赤色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を全体に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多く含む。
- S158
1. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しりりあり、ロームブロック、ローム粒子を全体に多量含む。
2. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しりりあり、ロームブロック、ローム粒子を全体に多量含む。
- S154
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しりりあり、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を部分的に少量、ロームブロック ($\sim \phi 10\text{mm}$) を部分的に少量含む。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を全体に少量含む。
2. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しりりあり、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
- 3a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しりりあり、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を部分的に少量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多く含む。
- 3b. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しりりあり、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を部分的に少量含む。
- 3c. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しりりあり、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
4. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しりり強い、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を全体に少量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多量に含む。
5. 暗褐色土 10YR3/4 粘性あり、しりりあり、ロームブロック、ローム粒子を全体に多量含む。
- S154
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しりりあり、白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を部分的に少量、ロームブロック ($\sim \phi 10\text{mm}$) を部分的に少量含む。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。

第106図 53・54・57・58号竪穴建物跡



第107図 54号竪穴建物跡出土遺物

第39表 54号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 環	口径: 高さ: 底径:(ϕ) (ϕ)	雲母・角閃石・微砂 粒	良好	10	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	内外面ロクロナデ。体部下端及び底部 外面回転ヘラズリ。内面黒色処理。

55号竪穴建物跡 (第108図)

平面位置 AK-81・82グリッド

重複関係 35・54・56・57号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は西壁の一部が検出され、平面サイズは長軸1.885m、短軸1.145m、遺構検出面からの深さは最大で0.205mを測る。床は踏み締まりの強い貼り床で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。

56号竪穴建物跡 (第108図)

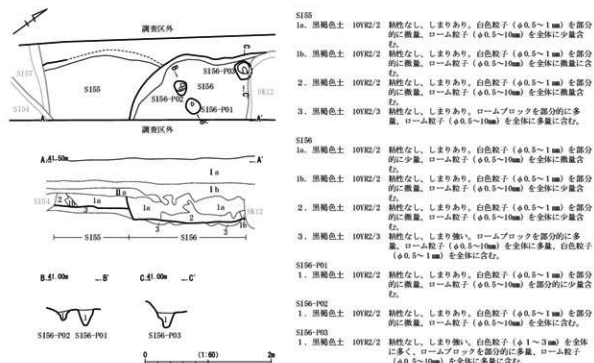
平面位置 AK-81・82、AL-82グリッド

重複関係 55号竪穴建物跡より新しく、12号土坑より古い。

遺構形態 遺構は南壁から西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.42m、短軸1.13m、遺構検出面からの深さは最大で0.47mを測る。床は踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が床面で3基検出されている。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕、ロクコ成形の高台付坏、須恵器甕などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



第108図 55・56号竪穴建物跡

66号竪穴建物跡 (第109・110図、第40表、図版5・12)

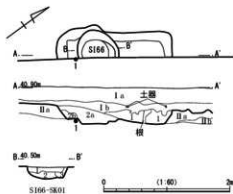
平面位置 A J - 82・83グリッド

重複関係 なし

遺構形態 遺構は北東壁から北角、北西壁、南西角と床が検出され、平面サイズは長軸1.82 m、短軸0.52 m、遺構検出面からの深さは最大で0.265 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。土坑は中央より南西側の床面で1基検出されている。覆土は黒褐色土を主体とし、褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕、高台付坏(第110図1)などが検出されている。

時期 平安時代と推定される。



- S166
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘りあり、しまりあり、白色粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
 - 2a. 暗褐色土 10YR3/4 粘りあり、しまりあり、白色粒子(φ0.5~10mm)、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量含む。
 - 2b. 黄褐色土 10YR5/6 粘りあり、しまりあり、白色粒子(φ0.5~10mm)、ロームブロック、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量含む。
- S166-SR01
1. 黒褐色土 10YR2/2 炭化物(φ3~5mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、粘土(φ1~5mm)を部分的に少量含む。
 2. 黒褐色土 10YR2/2 ロームブロック(φ10~15mm)を部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く、粘土(φ1~10mm)を全体に、シルト(φ1~10mm)を部分的に少量含む。
 3. 褐色土 10YR4/6 ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量含む。

第109図 66号竪穴建物跡



第110図 66号竪穴建物跡出土遺物

第40表 66号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高台付坏	口径:- 高さ:(2.5) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・ 微砂粒・小礫	良好	20	明赤褐色 (2.5YR5/6)	内外面ロクロナデ。高台部貼り付け。

69号竪穴建物跡 (第111・112図、第41表、図版12)

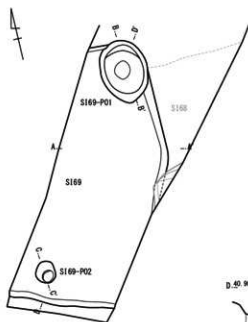
平面位置 AM - 83、AN - 83・84グリッド

重複関係 68号竪穴建物跡より新しく、67号竪穴建物跡より古い。

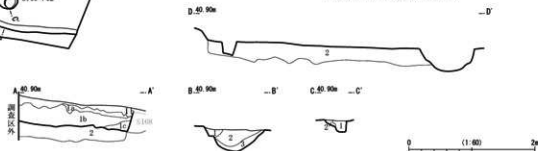
遺構形態 遺構は南壁、東壁、北壁の一部と北東角と床が検出され、平面サイズは長軸4.11 m、短軸1.77 m、遺構検出面からの深さは最大で0.345 mを測る。床は締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。南壁と北東角付近の床面から柱穴が2基検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器坏(第112図1)、甕(第112図2)、ロクロ成形の高台付坏、須恵器蓋、甕、砂岩、片岩、チャート製の礫片などが検出されている。

時期 出土遺物から平安時代と推定される。



- S169
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 粘性強い、しまりなし。白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を部分的に微量に含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/2 粘性強い、しまりなし。白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を全体に、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
- 1c. 黒褐色土 10YR2/2 粘性強い、しまりなし。白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 粘性強い、しまりなし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多量に含む。
- S169-P01
1. 黒褐色土 10YR3/2 粘性あり、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1 \sim 5\text{mm}$) を部分的に少量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 50\text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多く含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を部分的に少量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 50\text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量、粘土を含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり。白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を全体に多く、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。
- S169-P02
1. 暗褐色土 10YR3/3 粘性あり、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を全体に、ロームブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を部分的に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多く含む。
2. 黒褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を全体に少量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 50\text{mm}$) を部分的に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多く含む。



第111図 69号竪穴建物跡



第112図 69号竪穴建物跡出土遺物

第11表 69号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 環	口径:(12.7) 高さ:(3.7) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・ 白色針状物質・微砂粒	良好	20	橙色 (5YR6/6)	底部外面へラケズリ、内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。
2	土師器 甕	口径:(13.6) 高さ:(2.0) 底径:-	石英・雲母・角閃石・ 微砂粒	良好	5以下	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横ナデ。常陸型甕。

(3) 溝跡

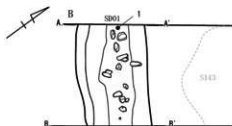
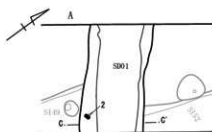
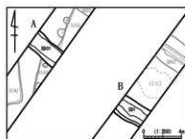
1号溝跡 (第113・114図、第42表、図版5・12)

平面位置 AG-78・79グリッド

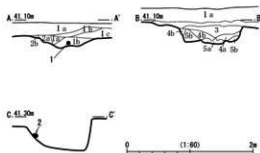
重複関係 49・52号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、中央の未調査区をはさんで北西から南東方向に延びるが、北西側は長軸1.74 m、短軸1.2 m、南西側は長軸1.6 m、短軸0.86 m、深さ0.165～0.3 mを測る。溝跡の断面形は、場所によって皿状、逆台形状で、底面は部分的に凹凸がある。覆土は暗褐色土を主体とし、褐色土、黄褐色土などの自然堆積層である。

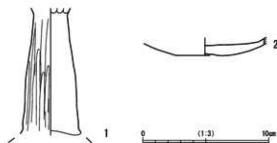
遺物 遺物は土師器甕(第114図2)、高坏(第114図1)、須恵器甕、砂岩製の磨石、砥石、砂岩、片岩製の礫などが検出されているが、南東側では礫が覆土から帯状に分布して検出されている。



- | | | |
|----------|---------|--|
| SD01 | | |
| 1a. 暗褐色土 | 10YR3/3 | 粘性なし、しまりあり、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。 |
| 1b. 褐色土 | 10YR4/4 | 粘性なし、しまりあり、ロームブロック(φ10~70mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。 |
| 2a. 暗褐色土 | 10YR3/3 | 粘性なし、しまりあり、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。 |
| 2b. 黄褐色土 | 10YR5/6 | 粘性なし、しまりあり、ロームブロック、ローム粒子を全体に多量を含む。 |
| 3. 暗褐色土 | 10YR3/3 | 粘性なし、しまりあり、白色粒子(φ0.5~2mm)を全体に、炭化物(φ1~10mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ1~5mm)を部分的に少量含む。 |
| 4a. 暗褐色土 | 10YR3/3 | 粘性なし、しまりあり、白色粒子(φ0.5~2mm)を全体に微量、炭化物(φ1~5mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10mm~)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、焼土(φ1~5mm)を全体に微量含む。 |
| 4b. 暗褐色土 | 10YR3/3 | 粘性なし、しまりあり、白色粒子(φ0.5~2mm)を全体に、炭化物(φ1~5mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量、焼土(φ1~5mm)を部分的に微量含む。 |
| 5a. 黄褐色土 | 10YR5/6 | 粘性なし、しまりあり、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量含む。 |
| 5b. 黄褐色土 | 10YR5/6 | 粘性なし、しまりあり、白色粒子(φ0.5~2mm)を全体に少量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量含む。 |



第113図 1号溝跡



第114図 1号溝跡出土遺物

第42表 1号溝跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高杯	口径:- 高さ:<10.3 底径:-	赤色粒子・石英・角閃石・白色針状物質・微砂粒	良好	40	橙色 (7.5YR7/6)	脚部外面縦ナデ。
2	土師器 甕	口径:- 高さ:<1.45 底径:(4.5)	雲母・角閃石・微砂粒	良好	5以下	にぶい赤褐色 (5YR5/3)	内外面ナデ。

2号溝跡 (第115・116図、第43表、図版12)

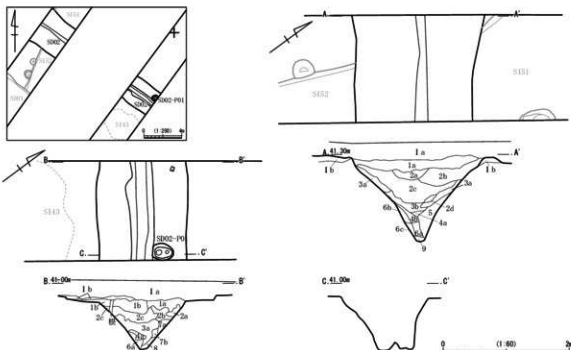
平面位置 AG・AH-79グリッド

重複関係 51・52号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、中央の未調査区をはさんでの区政から南東方向に延びるが、北西側は長軸1.37 m、短軸1.85 m、深さ1.79 m、南東側は長軸1.67 m、短軸1.45 m、深さは浅くなり0.795～0.845 mを測る葉研堀で、底面は緩い弧状である。覆土は自然堆積層で、暗褐色土を主体とし、黄褐色土と褐色土が堆積している。

遺物 土師器甕 (第116図1)、須恵器坏身模倣の坏、高坏脚部、須恵器甕、砂岩礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から奈良時代以降と推定される。



- SP02
- 1a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまり強い、白色粒子 (φ0.5~2mm) を全体に少量、ロームブロック (φ10~20mm) を全体に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。
- 1b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性あり、しまり強い。
- 2a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまり強い、白色粒子 (φ0.5~2mm) を部分的に微量、ロームブロック (φ10~40mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
- 2b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまり強い、白色粒子 (φ0.5~2mm) を全体に少量、ロームブロック・ローム粒子を含む。
- 2c. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまり強い、白色粒子 (φ0.5~2mm) を部分的に微量、ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量、黄土 (φ1~10mm) を部分的に微量に含む。
- 2d. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりなし、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
- 3a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまり強い、白色粒子 (φ0.5~2mm) を部分的に微量、ロームブロック (φ10~50mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
- 3b. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまり強い、ロームブロック (φ10~30mm) を全体に、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。

- 4a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に含む。
- 4b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりなし、ロームブロック (φ10~50mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
5. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりなし、ロームブロックを全体に多量、ローム土を全体に多量に含む。
- 6a. 黄褐色土 10YR5/6 粘性あり、しまりなし、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。
- 6b. 黄褐色土 10YR5/6 粘性あり、しまりなし、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。
- 6c. 黄褐色土 10YR5/6 粘性あり、しまりなし、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。
- 7a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性あり、しまり強い、白色粒子 (φ1~2mm) を全体に、ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
- 7b. 褐色土 10YR4/4 粘性あり、しまり強い、ロームブロック、ローム土を全体に多量含む。
8. 暗褐色土 10YR3/3 粘性あり、しまり強い、ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に微量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を部分的に少量含む。
9. 暗褐色土 10YR3/3 粘性あり、しまり強い、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量に含む。

第115図 2号溝跡



第116図 2号溝跡出土遺物

第43表 2号溝跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器械	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径: (15.6) 高さ: (5.2) 底径: -	赤色粒子・石英・角閃石・白色針状物質・微砂粒	良好	5以下	褐色 (5YR6/6)	胴部外面斜位の子ナ、内面横ナ。口縁部内外面横ナ。口

(4) 土坑

12号土坑 (第117図)

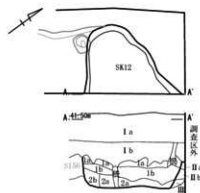
平面位置 AK・AL-82

重複関係 56号堅穴建物跡より新しい。

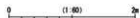
遺構形態 遺構は、平面形は不明で、長軸1.72m、短軸1.2m、深さ0.46mである。床はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から平安時代以降と推定される。



- SK12
- | | |
|------------------|---|
| 1a. 黒褐色土 10YR2/2 | 粘性なし、しまりあり。白色粒子 (φ0.5~1mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量に含む。 |
| 1b. 黒褐色土 10YR2/2 | 粘性なし、しまりあり。白色粒子 (φ0.5~1mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量に含む。 |
| 2a. 黒褐色土 10YR2/2 | 粘性なし、しまりあり。白色粒子 (φ0.5~1mm) を全体に少量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に含む。 |
| 2b. 黒褐色土 10YR2/2 | 粘性なし、しまりあり。白色粒子 (φ0.5~1mm) を部分的に少量、ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に含む。 |



第117図 12号土坑

(5) 性格不明遺構

1号性格不明遺構 (第118図)

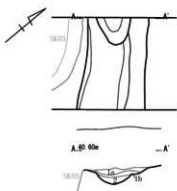
平面位置 T-68・69グリッド

重複関係 なし

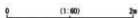
遺構形態 遺構は、平面形は西北西から東南東に延びる溝状で、長軸1.465m、短軸.785m、深さ0.26mである。床は弧状で、壁は緩やかに、南西側は急角度で、北東側は平坦面を形成した後緩やかに立ち上がる。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は、土師器高台付坏が検出されている。

時期 出土遺物から平安時代と推定される。



- SK01
- | | |
|------------------|---|
| 1a. 暗褐色土 10YR3/3 | 粘性なし、しまりあり。ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。 |
| 1b. 暗褐色土 10YR3/4 | 粘性あり、しまりなし。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。 |
| 2. 黄褐色土 10YR5/6 | 粘性あり、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量を含む。 |



第118図 1号性格不明遺構

4号性格不明遺構 (第119・120図、第44表、図版12)

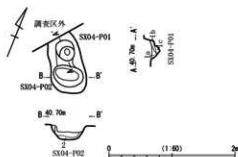
平面位置 V-70 グリッド

重複関係 なし

遺構形態 遺構は、長楕円形で、長軸0.84m、短軸0.57m、深さ0.23mで、底面にはピットが1基あり長軸0.34m、短軸0.29m、深さ0.125mを測る。床は、部分的に凹凸があり、壁は急角度で立ち上がる。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は、須恵器坏(第120図1)、高台付坏(第120図2)、土師器甕、坏などが検出されている。

時期 出土遺物から平安時代と推定される。



- S304-P01
- 1a. 黒褐色土 10YR3/2 粘性なし、しまりあり。ロームブロック(φ10~20mm)を全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量含む。(φ1~3mm)を部分的に散見含む。
 - 1b. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりあり。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に、焼土(φ1~3mm)を部分的に散見含む。
 2. 褐色土 10YR4/6 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量含む。
- S304-P02
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりあり。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に含む。
 2. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりあり。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。

第119図 4号性格不明遺構



第120図 4号性格不明遺構出土遺物

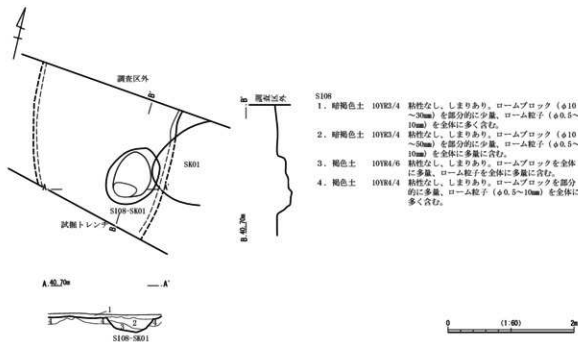
第44表 4号性格不明遺構出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 坏	口径:- 高さ:(3.0) 底径:(8.6)	白色粒子・雲母・角閃石・白色針状物質	良好	10	灰白色 (5Y7/2)	内外面ロクロナデ。底部外面手持ちヘラケズリ。
2	須恵器 坏	口径:- 高さ:(1.3) 底径:-	白色粒子・石英・白色針状物質・微砂粒	良好	15	灰黄色 (2.5Y7/2)	内外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。

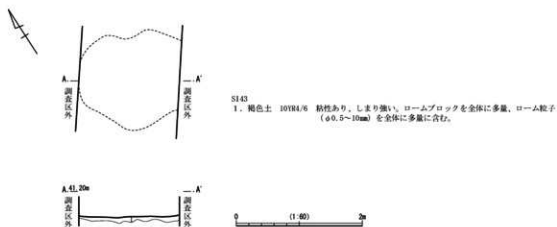
第5節 時期不明の遺構

(1) 竪穴建物跡 (第121図・第45表)

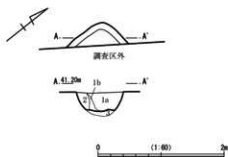
遺構が部分的に検出され、遺物が少ないなどの理由により帰属時期が判断できなかった竪穴建物跡は、9軒検出されている。これらの遺構は調査区の南西端で1軒、残りは中央から北東側の範囲で検出されている。



第121図 時期不明遺構 8号竪穴建物跡

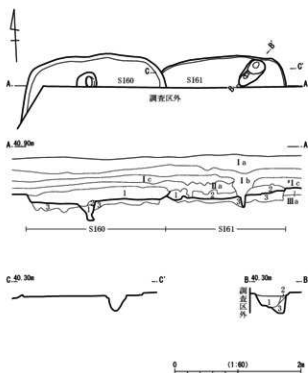


第122図 時期不明遺構 43号竪穴建物跡



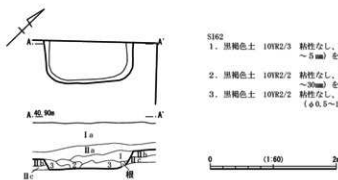
第123図 時期不明遺構 47号堅穴建物跡

- S147
1. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック(φ10~20mm)、炭化物(φ1~5mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
 - 1b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック(φ10~20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に含む。
 2. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に含む。
 3. 褐色土 10YR4/6 粘性なし、しまり強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。



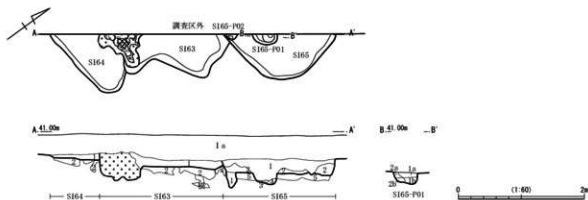
第124図 時期不明遺構 60・61号堅穴建物跡

- S160
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりあり。白色粒子(φ1~2mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に微量に含む。
 2. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子(φ0.5~2mm)を全体に少量、ロームブロックを全体に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
 3. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量、白色粒子(φ0.5~50mm)を全体に多量に含む。
- S160-P01
- S160/3
- S161
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり。白色粒子(φ1~2mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10~100mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に含む。
 2. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり。白色粒子(φ1~2mm)を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。
 3. 黒褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量、白色粒子(φ1~2mm)を全体に多量に含む。
- S161-P01
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり。白色粒子(φ1~2mm)を部分的に少量、ロームブロック(φ10~50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
 2. 黒褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多量に含む。
 3. 黒褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量、白色粒子(φ1~2mm)を全体に多量に含む。



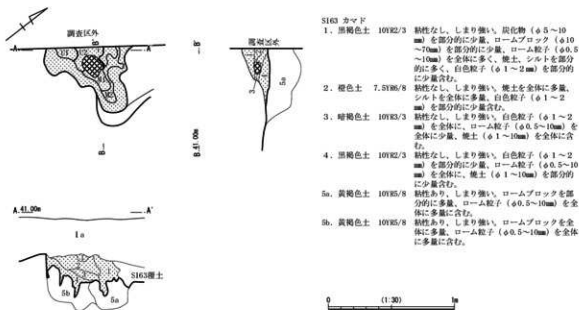
第125図 時期不明遺構 62号堅穴建物跡

- S162
1. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子(φ0.5~2mm)を全体に、炭化物(φ1~5mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に少量含む。
 2. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりあり。白色粒子(φ0.5~2mm)、ロームブロック(φ10~30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に含む。
 3. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりあり。白色粒子(φ0.5~3mm)を全体に、ローム粒子(φ0.5~10mm)を全体に多く含む。



- S163**
1. 暗褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりあり、白色粒子 ($\phi 1 \sim 5 \text{mm}$) を全体に多く、ロームブロック ($\phi 10 \sim 50 \text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多く、焼土 ($\phi 1 \sim 10 \text{mm}$) を部分的に少量、炭化物 ($\phi 1 \sim 5 \text{mm}$) を部分的に少量含む。
 2. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまり強い、白色粒子 ($\phi 1 \sim 5 \text{mm}$) を全体に多く、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多く、焼土 ($\phi 1 \sim 5 \text{mm}$) を部分的に微量に含む。
- S164**
1. 暗褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまり強い、白色粒子 ($\phi 1 \sim 3 \text{mm}$) を全体に多く、ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。
 2. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまり強い、白色粒子 ($\phi 1 \sim 3 \text{mm}$) を全体に多量、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。
- S165**
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりあり、白色粒子 ($\phi 1 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に微量に含む。
 2. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり、白色粒子 ($\phi 1 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に少量、ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。
 3. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりなし。
 4. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりなし。
 5. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。
- S165-P01**
- 1a. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり、白色粒子 ($\phi 1 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多く含む。
 - 1b. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり、白色粒子 ($\phi 1 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に少量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 20 \text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。
 - 2a. 黒褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりあり、白色粒子 ($\phi 1 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に少量、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量、焼土 ($\phi 1 \sim 3 \text{mm}$) を部分的に微量に含む。
 - 2b. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりあり、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。
- S165-P02**
1. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。

第126図 時期不明遺構 63・64・65号竪穴建物跡



- S163 カマド**
1. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまり強い、炭化物 ($\phi 5 \sim 10 \text{mm}$) を部分的に少量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 70 \text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多く、焼土、シルトを部分的に多く、白色粒子 ($\phi 1 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に少量含む。
 2. 褐色土 7.5YR6/8 粘性なし、しまり強い、焼土を全体に多量、シルトを全体に多量、白色粒子 ($\phi 1 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に少量含む。
 3. 暗褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまり強い、白色粒子 ($\phi 1 \sim 2 \text{mm}$) を全体に、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に少量、焼土 ($\phi 1 \sim 10 \text{mm}$) を全体に含む。
 4. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまり強い、白色粒子 ($\phi 1 \sim 2 \text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に、焼土 ($\phi 1 \sim 10 \text{mm}$) を部分的に少量含む。
 - 5a. 黄褐色土 10YR5/8 粘性あり、しまり強い、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。
 - 5b. 黄褐色土 10YR5/8 粘性あり、しまり強い、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10 \text{mm}$) を全体に多量に含む。

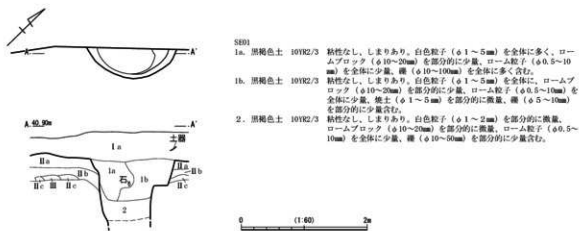
第127図 時期不明遺構 63号竪穴建物跡カマド

第 45 表 時期不明遺構計測表 竪穴建物跡

遺構番号	グリッド	平面形	サイズ (m)			壁面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
			最大長	最大幅	最大深						
8	P・Q-60・61	不明	2.34	2.14	0.06	急角度で立ち上がる。	ほぼ平坦	1号土がより古い	土師器類、須恵器類	不明	
43	AG-80	不明	1.6	1.54	—	不明	ほぼ平坦	なし	土師器類、縄文時代前期土器	不明	床面のみ検出
47	AC-76	不明	0.5	0.43	0.29	急角度で立ち上がる。	ほぼ平坦	なし	なし	不明	北西角のみ検出
60	AO-86・87	不明	2.22	0.53	0.5	急角度で立ち上がる。	ほぼ平坦	61号竪穴建物跡より新しい	土師器高台付環状片	不明	
61	AO-87	不明	1.9	0.5	0.16	急角度で立ち上がる。	起伏がある	60号竪穴建物跡より古い	土師器類、須恵器	不明	
62	AQ・AP・87	不明	1.4	0.67	0.28	起伏がある	ほぼ平坦	なし	なし	不明	
63	AJ-82	不明	2.09	0.69	0.14	不明	ほぼ平坦	64号竪穴建物跡より新しく、65号竪穴建物跡より古い。	泥岩のカマド構築材	不明	
64	AJ-82	不明	1.42	0.65	0.1	緩やかに立ち上がる	不明	64号竪穴建物跡より古い	なし	不明	
65	AJ-82・83	不明	2.09	0.73	0.24	急角度で立ち上がる。	ほぼ平坦	63号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	

(2) 井戸 (第 128 図・第 46 表・図版 5)

井戸は調査区北東端から 1 基検出されたが、時期を決定する遺物が検出されなかった。



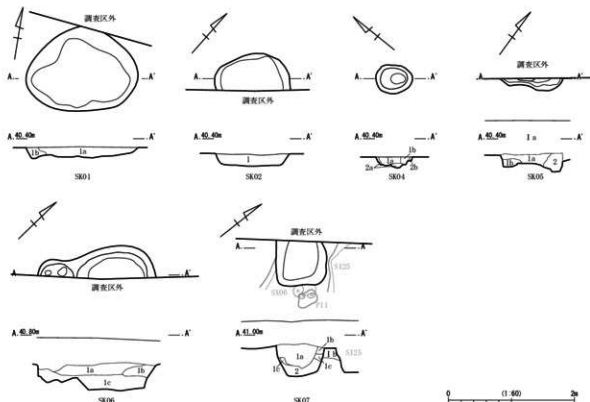
第 128 図 時期不明遺構 1号井戸

第 46 表 時期不明遺構計測表 井戸

遺構番号	グリッド	平面形	サイズ (m)			壁面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
			最大長	最大幅	最大深						
1号	AO-86	不明	1.43	0.48	0.96c	ほぼ垂直に立ち上がり、北側は平場を形成し急角度で立ち上がる。	不明	なし	砂岩製礫、礫片	不明	

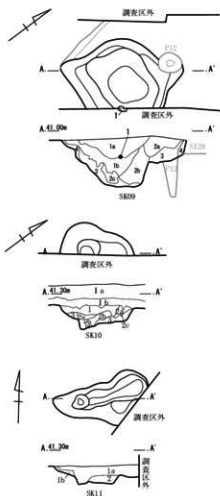
(3) 土坑 (第129・130図・第47表・図版5)

土坑は、9基検出されているが、調査区の南西端、Q～Rライン、AB～ACライン付近にそれぞれ分布している。一部の遺構は他の遺構と重複するが、他は個別で検出され、帰属時期を決定する遺物の出土がない状況である。



SK01	1a. 黒褐色土	10YR2/3	粘性なし、しまりあり、炭化物(φ1～3mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10～50mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に多く含む。	1b. 黒褐色土	10YR2/3	粘性なし、しまりあり、ロームブロック(φ10～20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に多量を含む。
SK02	1. 黒褐色土	10YR2/3	粘性なし、しまりなし、ロームブロック(φ10～70mm)を全体に少量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に多く含む。			
SK04	1a. 黒褐色土	10YR2/2	粘性あり、しまりあり、ロームブロック(φ10～50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に少量含む。	1b. 黒褐色土	10YR2/3	粘性あり、しまりあり、ロームブロック(φ10～30mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に少量含む。
	2a. 黒褐色土	10YR2/3	粘性あり、しまりあり、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に多量を含む。	2b. 黒褐色土	10YR2/3	粘性あり、しまりあり、ロームブロック(φ10～20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に多量を含む。
SK05	1a. 黒褐色土	10YR2/3	粘性なし、しまりなし、ロームブロック(φ10～100mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に少量含む。			
	1b. 黒褐色土	10YR2/3	粘性なし、しまりなし、ロームブロック(φ10～30mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に微量含む。	2. 暗褐色土	10YR3/3	粘性なし、しまりなし、ロームブロック、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に多量含む。
SK06	1a. 黒褐色土	10YR2/3	粘性なし、しまりなし、炭化物(φ5～10mm)を部分的に微量、ロームブロック(φ10～30mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に少量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に少量、焼土(φ3～5mm)を部分的に微量に含む。	1b. 黒褐色土	10YR2/2	粘性なし、しまりなし、ロームブロック(φ10～70mm)を全体に少量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に少量、焼土(φ3～5mm)を部分的に微量に含む。
	1c. 黒褐色土	10YR2/2	粘性なし、しまりなし、ロームブロック(φ10～20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に少量含む。			
SK07	1a. 黒褐色土	10YR3/3	粘性なし、しまりあり、ロームブロック(φ10～50mm)を部分的に少量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に微量を含む。	1b. 暗褐色土	10YR3/3	粘性なし、しまりあり、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に少量含む。
	1c. 暗褐色土	10YR3/3	粘性なし、しまりあり、ロームブロック(φ10～20mm)を部分的に微量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に多く含む。	2. 暗褐色土	10YR3/4	粘性なし、しまりあり、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子(φ0.5～10mm)を全体に多量を含む。

第129図 時期不明遺構 土坑(1)



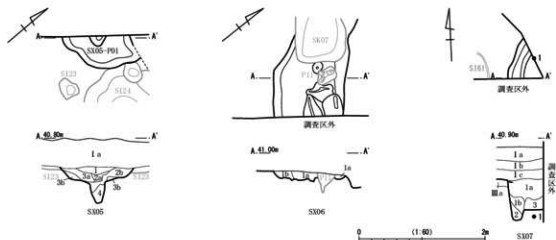
第130図 時期不明遺構 土坑(2)

第47表 時期不明遺構計測表 土坑

遺構番号	グリッド	平面形	サイズ			壁面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
			最大長	最大幅	最大深						
1	Q-61	長楕円形	1.78	1.34	0.21	急角度で立ち上がる。	部分的に凹凸がある。	8号壁穴建物跡より新しい。	なし	不明	
2	Q-66	長楕円形	1.19	0.6	0.18	急角度で立ち上がる。	ほぼ平坦	なし	土師器甕	不明	
4	P.64・65	楕円形	2.23	1.33	0.6	急角度で立ち上がる。	凹凸あり	なし	なし	不明	
5	Q-65	不明	1	0.2	0.29	急角度で立ち上がる。	凹凸あり	なし	土師器甕、須恵器鉢、蓋	不明	
6	Q・R.66・67	不明	1.88	0.52	0.44	急角度で立ち上がる。	凹凸あり	なし	土師器甕	不明	
7	X-72	不明	0.98	0.9	0.5	急角度で立ち上がる。	緩やかな弧状	25号壁穴建物跡、6号性格不明遺構より新しい。	砂岩製礎	不明	
9	Z.73・74	不定形	1.95	1.1	0.78	南側は段を持ちながら急角度で、北側は垂直から、段を持ちながら急角度で立ち上がる。	ほぼ平坦	P11より新しい	土師器甕、埴	不明	
10	AB-75	不定形	1.18	0.5	0.51	急角度で立ち上がる。	部分的に凹凸がある。	なし	なし	不明	
11	AB-75	不定形	1.53	0.72	0.28	急角度から緩やか〜急角度で立ち上がる。	凹凸あり	なし	なし	不明	

(4) 性格不明遺構 (第 131 図・第 48 表)

性格不明遺構は、3 基検出されており調査区の中央で 2 基、北東端で 1 基検出されている。遺構は部分的に検出されており、形状が様々であり、帰属時期を決定する遺物に乏しい状況であった。



- SX05
1. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~50mm) を部分的に、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く、灰化物 (φ1~2mm)、焼土 (φ1~5mm) を部分的に微量含む。
 - 2a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~30mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量含む。
 - 2b. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~30mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量含む。
 - 3a. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~50mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量含む。
 - 3b. 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子を全体に多量含む。
 4. 褐色土 10YR4/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量含む。

- SX06
- 1a. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック (φ10~30mm) を部分的に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
 - 1b. 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロック (φ10~20mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
- SX07
- 1a. 暗褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり。ローム粒子 (φ0.5~10mm) を部分的に少量含む。
 - 1b. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり。ロームブロック (φ10~30mm) を部分的に少量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に少量含む。
 2. 黒褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多く含む。
 3. 黒褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 (φ0.5~10mm) を全体に多量含む。

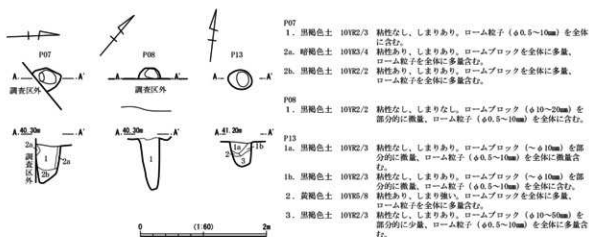
第 131 図 時期不明遺構 5・6号性格不明遺構

第 48 表 時期不明遺構 性格不明遺構

遺構番号	グリッド	平面形	サイズ (m)			壁面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
			最大長	最大幅	最大深						
5	V・71・72	不明	1.29	0.58	0.52	ピットはほぼ垂直に、壁やかから急角度で立ち上がる。	傾斜あり	22~24号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
6	X-72	不定形	2.04	1.05	0.14	急角度で立ち上がる。	凹凸あり	25号竪穴建物跡より新しく、7号土坑より古い	土師器焼	不明	
7	AO-87	不明	0.71	0.51	0.63	急角度で立ち上がる。	ほぼ平坦	なし	砂岩製砥石、砥石	不明	

(5) ビット (第132図・第49表)

ビットは、3基検出されており、調査区の南西で2基、中央で1基それぞれ単独で検出されており、掘方は0.3m以上で規模も柱穴と推定されるものであるが、帰属時期を決定する遺物に乏しい状況であった。



第132図 時期不明遺構 7・8・13号ビット

第49表 時期不明遺構 ビット

遺構番号	グリッド	平面形	サイズ (m)			断面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
			最大長	最大幅	最大深						
7	Q-65・66	長楕円形	0.46	0.36	0.62	急角度から垂直に立ち上がる。	ほぼ平坦	なし	土師器類、砂岩製礫	不明	
8	P-66	長楕円形	0.34	0.17	0.82	急角度から垂直に立ち上がる。	ほぼ平坦	なし	なし	不明	
13	AC-76	長楕円形	38.5	31	0.38	急角度から垂直に立ち上がる。	弧状	なし	土師器類	不明	

第6節 調査区内出土遺物

(1) 縄文時代 (第133・134図1～8・10～12・30～32・第50表・図版13)

№1～8・30は、竹管工具による沈線文や刺突文が施された前期の興津式土器である。

№7は、口縁部に縦位の沈線文が施された土器で中期後葉、№10は無節縄文が斜行で施文されている中期前葉の土器である。

№10～12は、縄文施文の土器であるが、№10は羽状縄文、№11・12は斜行縄文が施されている。これらは後期前葉の土器である。

№31は分胴形の斧形石器、№32は短冊形の斧形石器が破損後に再加工されたものである。

(2) 弥生時代 (第133図13～15・第50表・図版13)

№13は後期前半の縄文施文の土器で、№14・15はの後期後葉の十王台式土器である。

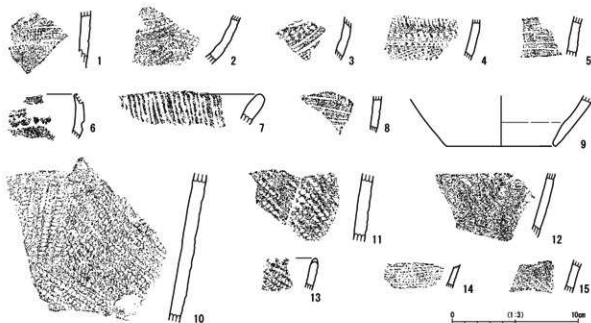
(3) 古代 (第133図9・16～29・33・第50表・図版13)

№16～20は3号土坑出土の遺物であるが、№16・17は須恵器坏蓋模倣の土師器坏、№18は高坏脚部、№19・20は焼成粘土塊である。

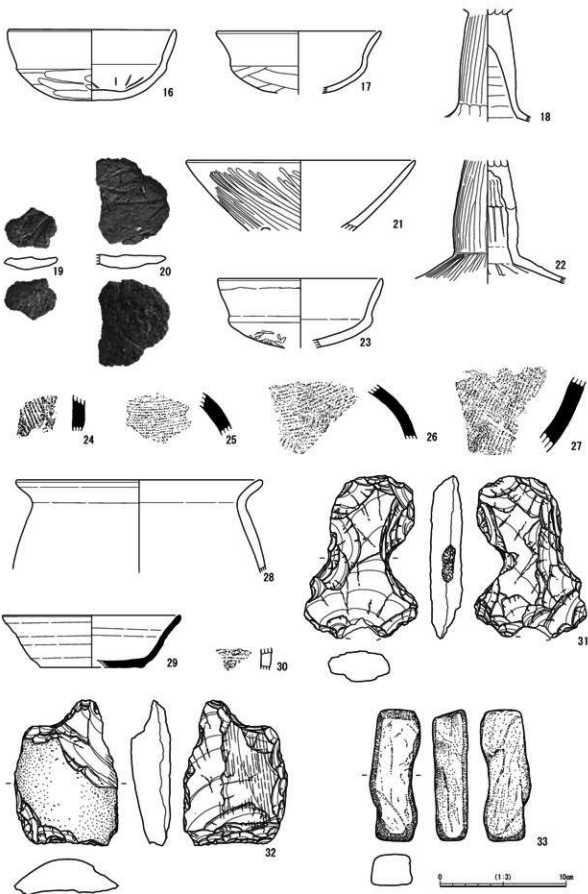
№9は土師器甕、№21・22は土師器高坏の坏部と脚部、№23は須恵器坏蓋模倣の土師器坏、№28は口縁から頸部の屈曲が強い甕で古墳時代中期頃と推定される。

№24・26・27は平行線文の叩き目の須恵器甕、№25は重弧文の叩き目が施された須恵器甕、№29は須恵器坏である。

№33は7号土坑から出土した緑色岩製の磨石・敲石である。



第133図 調査区内出土遺物(1)



第134图 調査区内出土遺物(2)

第50表 調査区内出土遺物観察表

図版番号	取上No.	種別器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	SI31 覆土	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:(4.5) 底径:-	白色粒子・石英・ 雲母・角閃石	良好	5以下	にぶい・橙色 (7.5YR6/4)	竹管状工具による連続刺突の後、沈 線で区画する。
2	SI31 覆土	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:(3.6) 底径:-	白色粒子・石英・ 雲母・角閃石・ 小礫	良好	5以下	褐色色 (10YR4/1)	竹管状工具による連続刺突の後、沈 線で区画する。
3	SI51 覆土	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:(3.4) 底径:-	白色粒子・石英・ 雲母・角閃石	良好	5以下	にぶい・黄褐色 (10YR6/4)	櫛歯状工具による連続刺突後、沈線 を施す。
4	SK01 覆土	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:(3.2) 底径:-	石英・角閃石・ 白色針状物質	良好	5以下	にぶい・橙色 (7.5YR6/4)	竹管状工具による連続刺突の後、沈 線で区画する。以下に貝殻腹縁文を 施す。
5	SX02 覆土	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:(3.2) 底径:-	白色粒子・赤色 粒子・石英・角 閃石・白色針状 物質	良好	5以下	褐色 (5YR6/6)	竹管状工具で平行線を描く。
6	SI33 周溝覆土	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:(3.5) 底径:-	白色粒子・赤色 粒子・雲母・白 色針状物質	良好	5以下	にぶい・褐色 (7.5YR6/4)	口縁部直下に三角形の彫刻文が弧 り、以下は隠糸Lを縦位施す。
7	SI09 覆土	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:(2.4) 底径:-	石英・白色針状 物質	良好	5以下	浅黄色 (2.5Y7/4)	口縁部直下から竹管状工具で縦沈 線を密に施す。
8	SI09 覆土	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:(2.8) 底径:-	石英・雲母	良好	5以下	にぶい・褐色 (7.5YR6/4)	沈線で重四角位のモチーフを描いた ものか。
9	表土一括	土師器 甌	口径:- 高さ:(4.0) 底径:(8.6)	白色粒子・石英・ 雲母	良好	5以下	褐色 (7.5YR7/6)	外面部下端ケズリ。内面ナデ。
10	SI09 No.17	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:(11.9) 底径:-	石英・雲母・白 色針状物質・微 砂粒	良好	5	にぶい・黄褐色 (10YR6/4)	RLを斜位及び横位施文。堀之内式。
11	SI23 覆土	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:(5.35) 底径:-	白色粒子・石英・ 雲母・角閃石・ 微砂粒	良好	5以下	にぶい・褐色 (7.5YR6/4)	無彫L縦位施文。中期後半。
12	SD01 I号溝西側	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:(5.0) 底径:-	雲母・微砂粒	良好	5以下	にぶい・赤褐色 (5YR5/3)	貝殻腹縁によるロッキング。
13	SI27 PO1 覆土	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:(2.5) 底径:-	雲母・白色針状 物質・微砂粒	良好	5以下	にぶい・黄褐色 (10YR7/4)	RL横位施文。口唇部キザミ。
14	横出面 一括	弥生土器 盃	口径:- 高さ:(1.8) 底径:-	白色粒子・石英・ 雲母	良好	5以下	にぶい・黄色 (2.5Y6/4)	軸線不明にRを付加。
15	SI54 掘方埋土	弥生土器 盃	口径:- 高さ:(2.5) 底径:-	赤色粒子・石英・ 角閃石	良好	5以下	にぶい・黄褐色 (10YR7/4)	R L横位施文。
16	SK09 No.1	土師器 杯	口径:-13.2 高さ:-5.6 底径:-11.9	石英・雲母・小礫・ 微砂粒	良好	95	褐色 (7.5YR7/6)	底部外面ヘラケズリ後、周辺部横ミ ガキ、内面ナデ。口縁部内外面強い 横ナデ。
17	SK09 覆土	土師器 杯	口径:-12.8 高さ:-4.9 底径:-10.8	石英・雲母・角 閃石・微砂粒	良好	25	明赤褐色 (2.5YR5/8)	底部外面ヘラケズリ、内面ナデ。口 縁部内外面横ナデ。
18	SK09 覆土	土師器 高杯	口径:- 高さ:- 底径:-	白色粒子・赤色 粒子・石英・雲母・ 白色針状物質	良好	50	褐色 (7.5YR6/6)	底部外面縦ケズリ。内面横ナデ
19	SK09 覆土	土製品 焼成粘土塊	口径:- 高さ:(3.9) 底径:- 重さ:-11.07g	白色粒子・石英・ 雲母・角閃石・ 微砂粒	良好	80	にぶい・褐色 (7.5YR6/4)	表面面に縦線が認められる。
20	SK09 覆土	土製品 焼成粘土塊	口径:- 高さ:(5.5) 底径:- 重さ:-40.47g	石英・角閃石・ 小礫・微砂粒	良好	70	にぶい・黄褐色 (10YR6/3)	表面面に縦線が認められる。
21	麻土一括	土師器 高杯	口径:-18.0 高さ:-5.6 底径:-	石英・雲母・白 色針状物質・微 砂粒	良好	15	褐色 (2.5YR6/6)	外面斜位のミガキ、内面ナデ。口縁 部内外面横ナデ。

図取番号	取上名	種別 器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見	
22	検出面 No 28	土師器 高杯	口径:- 高さ:(9.9) 底径:-	白色粒子・石英・ 雲母・小礫・微 砂粒	良好	60	橙色 (7.5YR6/6)	胴部外面縦ミガキ、内面横ナデ、 較り痕を残す。	
23	産土一括	土師器 杯	口径:(12.8) 高さ:(5.6) 底径:-	白色粒子・石英・ 雲母・角閃石・ 白色針状物質	良好	25	淡黄色 (2.5YR8/3)	底部外面ヘラケズリ後、ミガキ、 内面ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。	
24	SI54 掘方埋土	須恵器 甕	口径:- 高さ:(2.8) 底径:-	白色粒子・石英・ 白色針状物質	良好	5以下	黄灰色 (2.5Y6/1)	外面平行線状のタタキ目。内面ナデ。	
25	検出面 一括	須恵器 甕	口径:- 高さ:(3.6) 底径:-	白色粒子・石英	良好	5以下	褐色 (10YR5/1)	外面カキ目、内面横ナデ。	
26	検出面 一括	須恵器 甕	口径:- 高さ:(4.2) 底径:-	石英・雲母・白 色針状物質・微 砂粒	良好	5以下	灰色 (5Y5/1)	外面平行線状のタタキ目、内面横ナ デ。	
27	SX07 No 2	須恵器 甕	口径:- 高さ:(5.5) 底径:-	石英・雲母・角 閃石・白色針状 物質	良好	5以下	灰色 (N5/0)	外面平行線状のタタキ目、内面同心 円状の当て具痕が残る。	
28	検出面 No 23	土師器 甕	口径:(19.0) 高さ:(7.4) 底径:-	白色粒子・石英・ 雲母・白色針状 物質・小礫・微 砂粒	良好	5以下	明赤褐色 (2.5YR5/6)	胴部内外面横ナデ。口縁部内外面横 ナデ。常陸型甕。	
29	産土一括	土師器 杯	口径:(13.4) 高さ:(4.15) 底径:(8.0)	白色粒子・石英・ 雲母・角閃石・ 白色針状物質	良好	30	橙色 (7.5YR6/6)	内外面口クロナデ。底部外面ナデ。	
30	SI43 掘方埋土	縄文土器 深鉢	口径:- 高さ:(1.7) 底径:-	白色粒子・石英	良好	5以下	暗赤褐色 (5YR3/2)	柳葉状工具による連続刺突後、沈線 を強す。	
図取番号	遺構名	グリッド	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
31	SI22	W・V-72	打製石斧	緑泥片岩	<13.9>	8.9	2.5	299.8	分銅型の打製石斧で、刃部中央が欠損、 上部は縁対象となっていない。
32	SK03	T-68	打製石斧	黒色頁岩	11.5	8.2	3.1	290.1	裏面中央部は磨滅。かなり使用。刃部 は表面面とも作り直している。
33	SK07	X-72	磨石・砥石	緑色岩	10.4	4.0	2.8	196.6	下端部は平削で砥打痕がうっすらみら れる。

第5章 総括

第1節 地形・立地

亀作遺跡が所在する地形は、久慈川支流の亀作川と大沢川に挟まれた上位砂礫台地のほぼ中央に位置する。調査区の地形は、ほぼ平坦であるが、南西と北東方向に緩やかに標高を減じており、舌状に張り出した台地である。特に、北東側は現在の県道付近に埋没谷があり、黒ボク土が厚く堆積しており、地山のローム層が浸食されている。遺跡が所在する上位砂礫台地から下位の河川までの標高差は約5～7mであるが、この点は台地が形成された年代が古いことが要因であり、そのため台地の縁辺には崖線が発達し、南西方向に向かいその高さを減じている。台地の両側には北東方向の山地に奥深く伸びる河川の浸食により形成された大きな谷あり、低位面を形成しており、古代には水利と農業生産のための利用されていたものと推定される。

遺跡の立地は、台地の平坦面のほぼ中央で、北東から南西方向の位置であり、日当たりが良く安定した地形の場所である。難点があるならば、遺跡は台地の中央部に位置するため水の確保が容易ではなかったのではないだろうか。そのため、縄文時代、弥生時代など、水の貯蔵方法と容器が十分に発達していなかった時期に、集落が形成されなかったのではないだろうか。水利の問題を除けば、亀作遺跡の立地は、堅穴建物跡の軒数を考慮すると集落形成には格好の場所であったものと判断される。また、今回の発掘調査地点は、現代の耕作により著しいカクランを受けており、表層から耕作が及ぶ深度まで遺構が破壊されていることが確認されている。

第2節 遺構の概要

(1) 縄文時代の遺構

縄文時代の遺構は、土坑が1基検出され縄文後期以前の時期に対比される。遺構の覆土は、他の時代の遺構と異なり淡色黒ボク土が堆積しており、色調の特徴から時代的な差異が明確に判断できた。しかし、他に縄文時代の遺構が存在しない、あるいは淡色黒ボク土が確認されていることから、調査区は縄文時代の遺跡立地には適さない、あるいは構成の集落形成、あるいは開発により遺構や生活痕跡が消滅してしまった可能性がある。

(2) 弥生時代の遺構

弥生時代の遺構は、検出されていないが、後期前半の土器や十王台式土器が堅穴建物跡の覆土から出土しており、遺跡内において集落が存在した可能性がある。しかし、古墳時代の遺跡での堅穴建物跡の建設によって、弥生時代の遺構は破壊された可能性がある。

(3) 古墳時代の遺構

古墳時代の遺構は、堅穴建物跡の数を確認すると時期判定が確実なもので、前期は堅穴建物跡7軒、中期は8軒と微増で、後期は10軒と微増で、ほぼ漸増の状況である。時期不明は堅穴建物跡があるため正確な傾向ではなく、全ての堅穴建物跡の層属時期が確定できればその数的傾向は変

化するが、極端な遺構数の変化はなく、古墳時代初期の移住から絶え間なく集落が営まれ続けた可能性がある。周辺の古墳の分布を確認すれば、高貫東・西横穴墓群、高貫古墳群、馬舟古墳、よい塚古墳群、入浄塚古墳などがあることから、地域権力者が存在しその周辺に、集落と経済基盤が存在していたのだろう。また、古墳時代前期の竪穴建物跡の遺構の特徴として、掘方の深さが浅く、床が軟質であるなどの特徴があり、構築方法が異なる点が指摘できる。

屋内炉は、18号竪穴建物跡内の床面から4基検出された。いずれも焼成状態が良好で焼土が硬化しており、かなりの熱量を受けて形成されたものと判断される。その用途は、土器以外に遺物が検出されなかったため不明である。

竈に関しては、一部のものは『常陸太田市史』の記載により、近郊で採集される水成層由来の泥岩、シルト岩などの堆積岩が構築材として使用されている。近郊の古墳の存在、あるいは加工、運搬のコストを考慮すると、石工による堆積岩切り出しの作業がわずかながら実施され、集落内のカマドで使用された可能性がある。

(4) 奈良・平安時代の遺構

奈良・平安時代の遺構は、竪穴建物跡の数を確認すると11軒で、古墳時代から集落がほぼ継続的に営まれていた可能性がある。亀作遺跡の立地する地域は、『倭名類聚抄』では、常陸国久慈郡の世矢郷と称される地域であり（常陸太田市史編さん委員会1984）、古墳時代から律令体制への政治的移行はスムーズに展開されたのかもしれない。

竪穴建物跡の分布は、A A～A E-75～77グリッド付近にまとまって分布しており、古墳時代の竪穴建物跡を避けて集落を構築した可能性がある。近隣の調査の際は、この点への留意が必要である。

第3節 遺物の概要

(1) 縄文時代の土器

出土した土器は、縄文時代前期から後期のものであるが、その中で前期後半の興津式土器が各遺構の覆土に混在して検出されている。中期は五領ヶ台式土器、中部高地の曾利式土器の破片などが検出され、後期は堀之内式土器、加曾利B式土器?の破片なども検出されている。

(2) 弥生時代の土器

出土した土器は、弥生時代後期前半の縄文施文の土器、後期後半の附加条の縄文施文の十王台式の壺の破片が検出されているが、点数は多くない。

(3) 古墳時代の土器

遺構から出土した土器は、土師器甕、坏、高坏、埴、罎、甗などで、須恵器は壺、甕、蓋などである。前期の土器は、内外面にナデを施したミニチュア土器（SI03）、ハケ目調整の単口縁の甕（SI37・40）などであり、他の時期より遺物量が極めて少ない。

中期の土器は、有段口縁の甕は、小形で口縁部の屈曲が弱く短寸で胴部が球形状のもの（SI18）、底面の径が小さく長胴化しているもの（SI41）などである。有段口縁の壺は口縁部が短寸化し段部の突出が弱くなっているが、口縁部の外反が弱く胴部が球形状のもの（SI24）と外反が強いもの（SI28）がある。高坏は裾部の径が小さいもの（SI03）、脚部が長脚化したもの（SI09・SD01）、坏部の下部に稜を持つもの（SI10・22）、坏部の口縁部が大きく開くもの（SI27）、脚部がエンタシス状のもの（SI23・25・28・SK03）などである。罎（SI07）は口縁部が「く」の字に外反する器形である。丸底で口縁部が内湾するもの（SI39）、丸底のもの（SI41）などがある。甕は、単口縁で器面にヘラ削りや指頭圧痕を持つ甕（SI09・18・28・36・38・39・45）などがある。器台は脚部に円形の透かしのあるもの（SI15）、短寸で裾部の径が大きく開くもの（SI38）などがある。鉢は口縁部が外反するもの（SI15）、内湾するもの（SI50）がある。壙は口縁部で屈曲しやや外反するもの（SI22・25）、胴部から内湾し口縁部が垂直立ち上がるもの（SI39）などがある。他に小形の壺（SI22）、底部に丸みを持つ甕（SI09）、把手付の甕（SI25）などがあり他の時期よりも点数が多い。中期は、高坏や甕が多くなり数量が前期より飛躍的に増加する。

後期の土器は坏（SI09・22・24・25・26・29・31・32・38・50・69・SK09）、甕は、口縁部がやや内湾してから垂直に立ち上がるもの（SI50）、口縁部が垂直に近い角度で外反するもの（SK03）、高坏（SK09）などがある。後期は、出土量が卓越しているものが、須恵器坏蓋模倣、あるいは須恵器坏身模倣の坏であり、主要な日常的什器として使用されていたものと推定される。

（4）奈良・平安時代の土器

遺構から出土した土器は、土師器甕は、横ナデの整形のもの（SI16）、常陸型甕（SI21・23・69）、ケズリやナデによる整形のもの（SI33・34・37）、内面黒色処理のロクロ成形の坏（SI21・37・54）、ロクロ成形の高台付坏（SI21・23・35）などがある。甗はケズリとナデ（SI33・35）で成形されている。

須恵器は、高台部のある壺（SI21）、蓋（SI35・50）、甕（SI01・22・31・35・SX04・07）、坏（SI37）、高台付坏（SX04）などであり出土点数は少ない。

（5）鉄製品

鉄製品は、刀子（SI18・21）、鉄鎌基部（SI21）などでありあまり出土していない。また、覆土から鉄滓（SI37）がまとまって検出されたことから、屋内炉で製鉄作業が実施された可能性がある。

（6）土製品・石器・石製品

土製品は、最大径5cmほどの焼成粘土塊が3点（SI25・SK09）検出されているが、用途は不明である。土製の筒形の支脚（SI44）が出土している。半分に破砕した土製勾玉が39号竪穴建物跡から出土している。また、21号竪穴建物跡から紡錘車、耳飾り状土製品が出土している。

石器は、撥形の斧形石器（SI33）、撥形の斧形石器（SK03）、砥石（SI21）、石皿（SI32）、磨石・敲石（SI33）チャート製の小形磨石（SI51）、敲石（SI48）、磨石・敲石（SK03・07）、石皿・礫器・磨石（SI22）、石皿・砥石・敲石（SI44）などである。

石製品は、滑石製紡錘車（SI48）、碧玉製管玉（SI50）である。

Summary

Kamezaku site is located the east suburb of Hitachiota city, N36° 31' 41" , E140° 33' 59" in Hitachiota city, Ibaraki Prefecture. It is situated on the upper sandy gravel terraces between the Kamezaku and Ohsawa rivers and its altitude is over 40m.

This site is known as large settlements of Jomon period, Yayoi period, Kofun period, Nara to Heian period archaeological remains and has large territory.

At this site, first excavation was conducted by a contractor or surveyor: a private company, Tokyo air and survey in Saitama Prefecture and Hitachiota city board of education has performed appropriate direction, coaching, and supervision to them in 2018 to 2019. It was concerned about the improvement work of Hitachiota city road and total excavation area is about 460.89㎡.

In this excavation, we were found that each of settlement remains were placed during Jomon period, Kofun period, Nara to Heian period. In Jomon period, a pit was found in the excavation area. Unearthed relics were the early to late Jomon potteries: Okitus type, Goryogadai type, Sori type, Horinouchi type, Kasori B type were found.

In Kofun periods, 42 house pits, a ditch, a pit, 7 pillar holes and 3 remains having unclear functions were found in the excavation area. Unearthed relics were Haji potteries: shallow bowls, bowls, one-legged tries, pots, bowls, jars, a lid, Sueki potteries: jars, pots, lids, clay artifacts: supporting legs for Kamado-Farnese, clay blocks, ironware: an iron arrowhead, knives, slags, stone tools: a spinning wheel made from talc, grinding stones, hammerstones, pedestals, choppers, supporting legs for Kamado-Farnese, Kamado-Farnese constructing materials made from mudstone, late Yayoi potteries: Jyuohdai type, gravels.

In Nara to Heian period, 15 house pits, a ditch, a pit, two remains having unclear functions were found in the excavation area. Unearthed relics were Haji potteries: shallow bowls, bowls, pots, steamers, Sueki potteries: shallow bowls, pots, lids, clay artifacts, a spinning wheel, a ringed earring, iron wares: an arrow head, a knife, middle Jomon potteries, stone tools: grinding stones, hammerstones, pedestals, gravels. Most of remains were placed during Heian period: 9th century.

The remains of the time unknown, 9 house pits, a well, 9 pits, 3 pillar holes, 3 remains having unclear functions were found in the excavation area.

Based on this excavation, were suggested that this excavation area have begun to use from early Jomon period to late Yayoi periods for settlements but house pits no found particular evidence. Only one pit was found and some early to late Jomon potteries and late Yayoi potteries were found in the layer depositions of remains in the later periods.

In Kofun period, this excavation area has begun to use for settlements and found house pits and pits. The number of house pits increased gradually in early to late Kofun periods.

In Nara period, the number of house pits were less than the number of them in late Kofun period in this area. As the reason for moving, the rulers and political and economic system were changed during this period.

In Heian period, the number of house pits were more than the number of them in Nara period in this area. It is supposed that the increase in the number of them was occurred establishment of Ritsuryo system.

From above, it can be pointed out that this excavation area was mainly used for settlements continuously from Kofun period to Heian period. And Kamezaku site is one of the most important site for our understanding of human life during those periods.

Translated by Morohoshi Ryoichi: Tokyo Air and Survey Co., Ltd. Department of Cultural Properties.

引用・参考文献

市史・報告書

- 猪狩俊哉・大滝誠介 2017『東海道常陸路及び長者山官衙遺跡』日立市文化財調査報告第108集、日立市郷土博物館
- 小川貴行・松村秀和 2013『日向遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第274集、公益財団法人茨城県教育財団
- 奥村哲也 2016『瑞龍古墳群』茨城県教育財団文化財調査報告第415集、公益財団法人茨城県教育財団
- 菊池壮一ほか 2015『常陸太田市内遺跡調査報告書』常陸太田市埋蔵文化財調査報告書第2集、常陸太田市教育委員会
- 菊池壮一 2011『常陸太田市内遺跡調査報告書』常陸太田市埋蔵文化財調査報告書第3集、常陸太田市教育委員会
- 菊池壮一 2013『常陸太田市内遺跡調査報告書』常陸太田市埋蔵文化財調査報告書第5集、常陸太田市教育委員会
- 菊池壮一 2014『常陸太田市内遺跡調査報告書』常陸太田市埋蔵文化財調査報告書第6集、常陸太田市教育委員会
- 菊池壮一ほか 2015『仲城遺跡』常陸太田市埋蔵文化財調査報告書第7集、常陸太田市教育委員会
- 菊池壮一ほか 2016『長者屋敷遺跡第7次』常陸太田市埋蔵文化財調査報告書第9集、常陸太田市教育委員会
- 白石真理 1999『武田石高遺跡古墳時代編』ひたちなか市教育委員会財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社
- 鈴木素行 1998『武田石高遺跡旧石器・縄文・弥生時代編』ひたちなか市教育委員会財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社
- 常陸太田市史編さん委員会 1984『常陸太田市史 通史編 上巻』
- 山口憲一・宅間清公ほか 2018『長者屋敷遺跡第8次』常陸太田市埋蔵文化財調査報告書第10集、常陸太田市教育委員会

論文

- 赤井博之 1998『古代常陸国新治南群の基礎的研究(1)』『婆良岐考古』第20号、婆良岐考古同人会
- 赤井博之・佐々木義則 1996『新治南群産須恵器A1の変化』『婆良岐考古』第18号、婆良岐考古同人会
- 赤井博之・佐々木義則 2006『茨城県における須恵器の流通』『婆良岐考古』第28号、婆良岐考古同人会
- 浅井哲也 1992『茨城県内における奈良・平安時代の土器(1)』『研究ノート創刊号』財団法人茨城県教育財団
- 飯島一生 1997『茨城県における十王台式土器の高塚について』『研究ノート7号』公益財団法人茨城県教育財団
- 福田健一 2014『茨城県の様相(1)』『東生』第3号、東日本古墳文化確立期土器検討会
- 茨城県 1993『土地分類基本調査日立5万分の1』
- 江口勇 1984『第一章第一節地理的性格』『常陸太田市史通史編上巻』常陸太田市史編さん委員会
- 海老沢忠 1980『奥高・真岡期における茨城県内出土土器器編年試論』『婆良岐考古』第1号、婆良岐考古同人会
- 大森信義 1984『第一章第二節地質』『常陸太田市史通史編上巻』常陸太田市史編さん委員会
- 小笠原好彦 1971『丹塗土器と黒色土器』『考古学研究』第18巻2・3号
- 貝塚稟平 2000『1・総論』『日本の地形4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会
- 櫻村宣行 1995a『和泉式土器編年考』『研究ノート5号』公益財団法人茨城県教育財団
- 櫻村宣行 1995b『茨城県における初期壺の様相』『みちのく発掘』
- 櫻村宣行 2007『「切石組み壺」の一考察』『考古学の深層』瓦吹堅先生還暦記念論文集刊行会
- 櫻村宣行・土生朗治・白石真理 1999『茨城県における5世紀の動向』『東国土器研究』第5号東国土器研究会
- 櫻村宣行ほか 1999『茨城県における5世紀の動向』『東国土器研究』第5号、東国土器研究会
- 瓦吹 堅 1989『浮島・興津式土器様式』『縄文土器大観 1』小学館
- 木村光輝 2016『石材を使用した壺について(2)』『研究ノート第13号』公益財団法人茨城県教育財団
- 木村光輝 2017『石材を使用した壺について(3)』『研究ノート第14号』公益財団法人茨城県教育財団
- 木村光輝・駒澤悦郎ほか 2017『茨城県内における壺溝壺の壺穴建物について(2)』『研究ノート第14号』公益財団法人茨城県教育財団
- 黒沢彰哉 1981『茨城県における古式土器の問題』『婆良岐考古』第3号、婆良岐考古同人会
- 古墳時代研究会 1995『茨城の「S字状口縁台付壺」について』『研究ノート5号』公益財団法人茨城県教育財団
- 古墳時代研究会 1996『茨城の「S字状口縁台付壺(2)」について』『研究ノート6号』公益財団法人茨城県教育財団
- 古墳時代研究会 1997『茨城の「S字状口縁台付壺(3)」について』『研究ノート7号』公益財団法人茨城県教育財団
- 駒澤悦郎 2007『茨城県における古墳時代前・中期の用土製支脚の変遷』『考古学の深層』瓦吹堅先生還暦記念論文集刊行会

- 駒澤悦郎 2017「大塚遺跡群と大戸下郷遺跡群の遺構造の変化」『研究ノート第14号』公益財団法人茨城県教育財団
- 駒澤悦郎 2018「茨城県内における埋蔵遺物の堅穴建物について(3)」『研究ノート第15号』公益財団法人茨城県教育財団
- 駒澤悦郎 2019「茨城県北部における遺構造の変化」『研究ノート第16号』公益財団法人茨城県教育財団
- 佐々木義則 1997「木葺下窓群の須恵器生産」『優良岐考古』第19号、優良岐考古同人会
- 佐々木義則 1998「常陸におけるロケロ成形土師器杯の展開」『優良岐考古』第20号、優良岐考古同人会
- 佐々木義則 1999a「2 那珂川周辺における古墳時代前期の土師器の展開(1)」『武田石高遺跡古墳時代編』財ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第17集、財ひたちなか市文化・スポーツ振興公社
- 佐々木義則 1999b「茨城県北半部における土師器輪の型式変遷」『優良岐考古』第21号、優良岐考古同人会
- 佐々木義則 2001「茨城県における8・9世紀の須恵器甕概観」『優良岐考古』第23号、優良岐考古同人会
- 佐々木義則 2007a「茨城県における奈良・平安時代土器研究の現状」『考古学の深層』瓦吹堅先生遺贈記念論文集刊行会
- 佐々木義則 2007b「常陸型甕の生産と流通」『優良岐考古』第29号、優良岐考古同人会
- 佐々木義則 2009「武田遺跡群における平安時代土師器杯・小皿編年」『優良岐考古』第31号、優良岐考古同人会
- 佐藤次男 1988「茨城県における弥生時代終末期の様相」『考古学叢考下巻』吉川弘文館
- 白石真理 1998「常陸における土器群の隔期と交流」『庄内式土器研究会X - 庄内式併行期の土器生産とその動き -』庄内式土器研究会
- 白石真理 2004「古墳時代の堅穴住居跡にみられる改築」『茨城県考古学協会誌』第16号、茨城県考古学協会
- 鈴木正博 1976「十王台式」理解の為に(1)「分布圏と西部地域を中心として」『常陸台地』7常陸台地研究会
- 高木勇夫 1970「沖積平野の微地形と土地開発茨城県久慈川、那珂川下流域」『日本大学文理学部自然科学研究所紀要』5
- 田嶋明人 2015「東日本にみる9・10期の高坏」『東生』第4号、東日本古墳確立期土器検討会
- 田中 裕 2016「久慈郡にみる4・5世紀の世界」『常陸国風土記』の世界 東国古代遺跡研究会
- 田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店
- 早川唯弘 2006「茨城県北部多賀山地大北川流域の地形」『茨城大学政経学会雑誌』(76)
- 松田光太郎 2008「浮島式・興津式土器」『総覧 縄文土器』株式会社アム・プロモーション
- 宮田 毅 2016「十王台式土器の記憶」『利根川』38、利根川同人

写 真 图 版



亀作遺跡景観（北から）



調査区完掘状況（上空から）

図版 2



SI01 検出状況（北東から）



SI07 検出状況（北北東から）



SI09 検出状況（南西から）



SI15 検出状況南（西から）



SI18・SX02・03 遺構検出状況（西から）



SI18-1・2号炉・遺物検出状況（東から）



SI19 遺物検出状況（南西から）



SI24SK01 遺物出土状況（北から）



SI24 遺物検出状況 (東から)



SI29 遺物検出状況 (南西から)



SI32 検出状況 (南西から)



SI38 遺物検出状況 (南から)



SI39 遺物検出状況 (西から)



SI40 遺物検出状況 (東から)



SI44 検出状況 (南西から)



SI48 遺物検出状況 (北から)

図版 4



S148 検出状況（西から）



S148 紡錘車検出状況（北から）



S150 遺構検出状況（西から）



S150 陶甕検出状況（北から）



SK03 管玉検出状況（西から）



S151 遺物検出状況（西から）



SK03 遺物検出状況（東から）



P05 遺物検出状況（東から）



SI02 検出状況（東北東から）



SI02 竈検出状況（南西から）



SI33 遺物検出状況（西から）



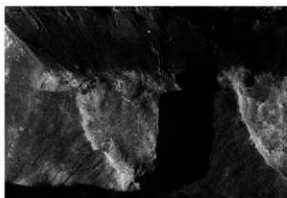
SI66 検出状況（西から）



SD01 遺物検出状況（南から）



SD01 西側検出状況（北から）



SK12 遺構検出状況（北から）



SE01 完掘状況（東から）

図版 6



遺物図版 (1)



S118 (3)



S122 (1)



S122 (2)



S122 (3)



S122 (4)



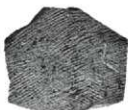
S118 (4)



S122 (5)



S122 (6)



S122 (7)



S124 (1)



S124 (2)

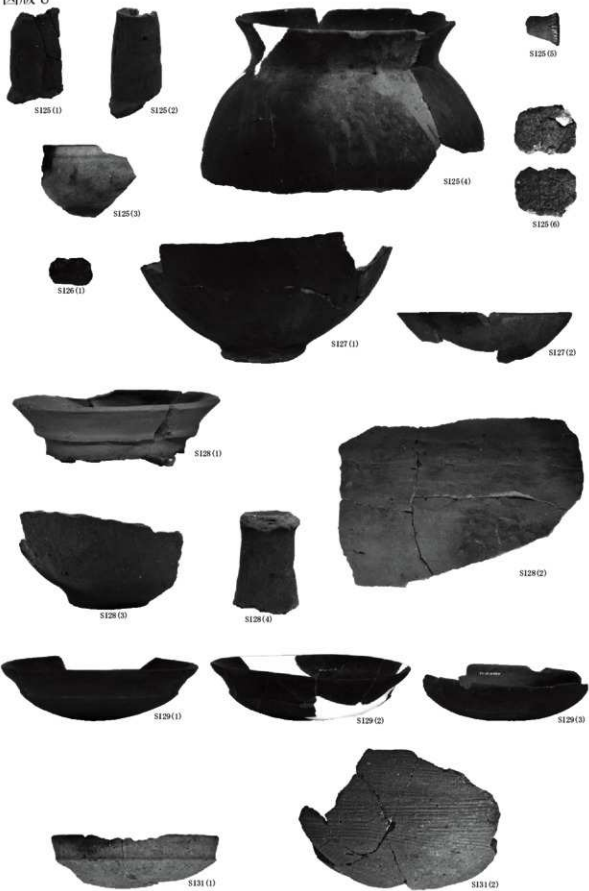


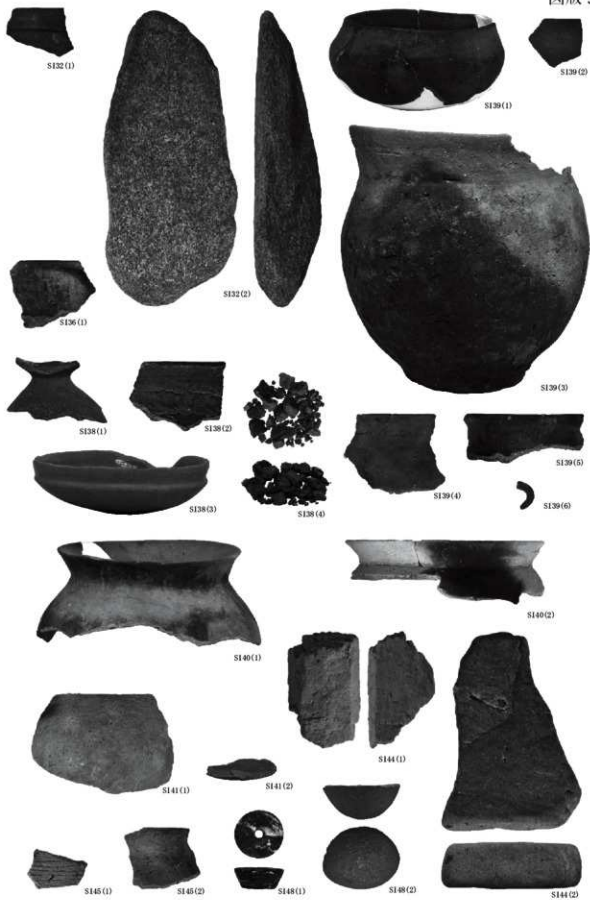
S124 (3)

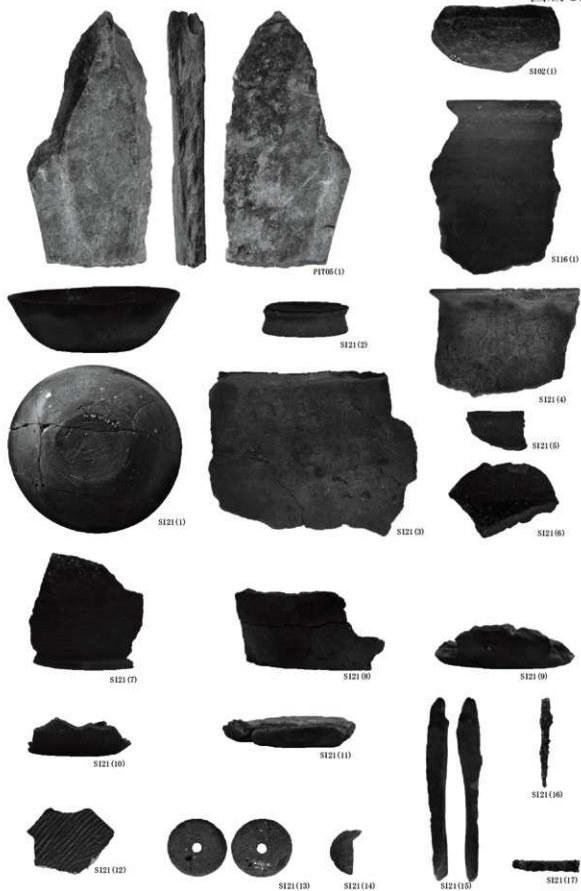


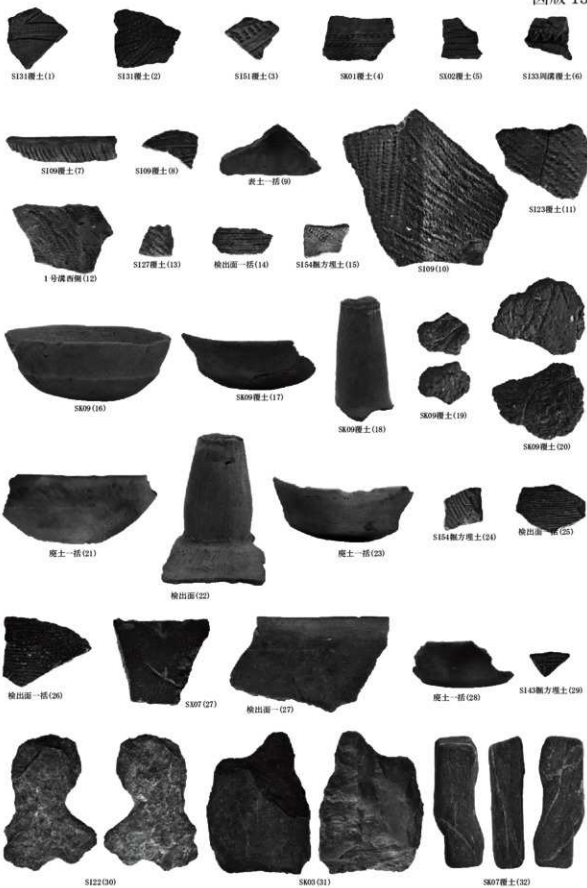
S124 (4)

图版 8









報告書抄録

ふりがな	かめぞくいせき							
書名	亀作遺跡							
副書名	市道0112・4166・4168号線（亀作中角線）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	第1次							
シリーズ名	常陸太田市内遺跡調査報告書							
シリーズ番号	第14集							
編著者名	山口 憲一・諸星 良一							
編集機関	株式会社 東京航業研究所							
所在地	〒350-0855 埼玉県川越市大字伊佐沼28番1 TEL049-229-5771							
発行機関	常陸太田市教育委員会							
所在地	〒313-0055 茨城県常陸太田市西二町2200 TEL0294-72-3201							
発行年月日	西暦2020年（令和2年）3月25日							
ふりがな	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名		市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
かめぞくいせき 亀作遺跡	ひたききねたしかめぞくうらう 常陸太田市亀作町 1171番地ほか	212	054	36° 31′ 41″	140° 33′ 59″	20181126 ～ 20190219	460.89㎡	道路改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
亀作遺跡	集落跡	・縄文 ・弥生 ・古墳 ・古代	・竪穴建物跡	68	縄文土器、石器	・古墳時代から奈良、平安時代の集落を調査した。竪穴建物跡の帰属時期は、古墳時代前期～後期を主体とし、他は奈良時代、平安時代に帰属する。		
			・溝跡	2	弥生土器、土師器			
			・井戸	1	須恵器、鉄製品			
			・土坑	12	土製品、石製品			
			・性格不明遺構	7	礫、礫片			
			・ピット	10				
要約	・古墳時代から奈良、平安時代の集落跡を調査した。竪穴建物跡は、古墳時代前期～後期を主体とし遺構の分布密度が高い。遺跡範囲の未調査区を考慮すると、集落の規模が非常に大きい遺跡であるものと推定される。							

常陸太田市内遺跡調査報告書 第14集

亀作遺跡第1次

市道0112・4166・4168号線（亀作中角線）
道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日 2020（令和2）年3月25日

編 集 株式会社東京航業研究所
〒350-0855 埼玉県川越市大字伊佐沼28番1
TEL 049-229-5771

発 行 常陸太田市教育委員会
〒313-0055 茨城県常陸太田市西二町2200
TEL 0297-72-3201

印 刷 朝日印刷工業株式会社
〒371-0846 群馬県前橋市元総社町67
TEL 027-251-1212